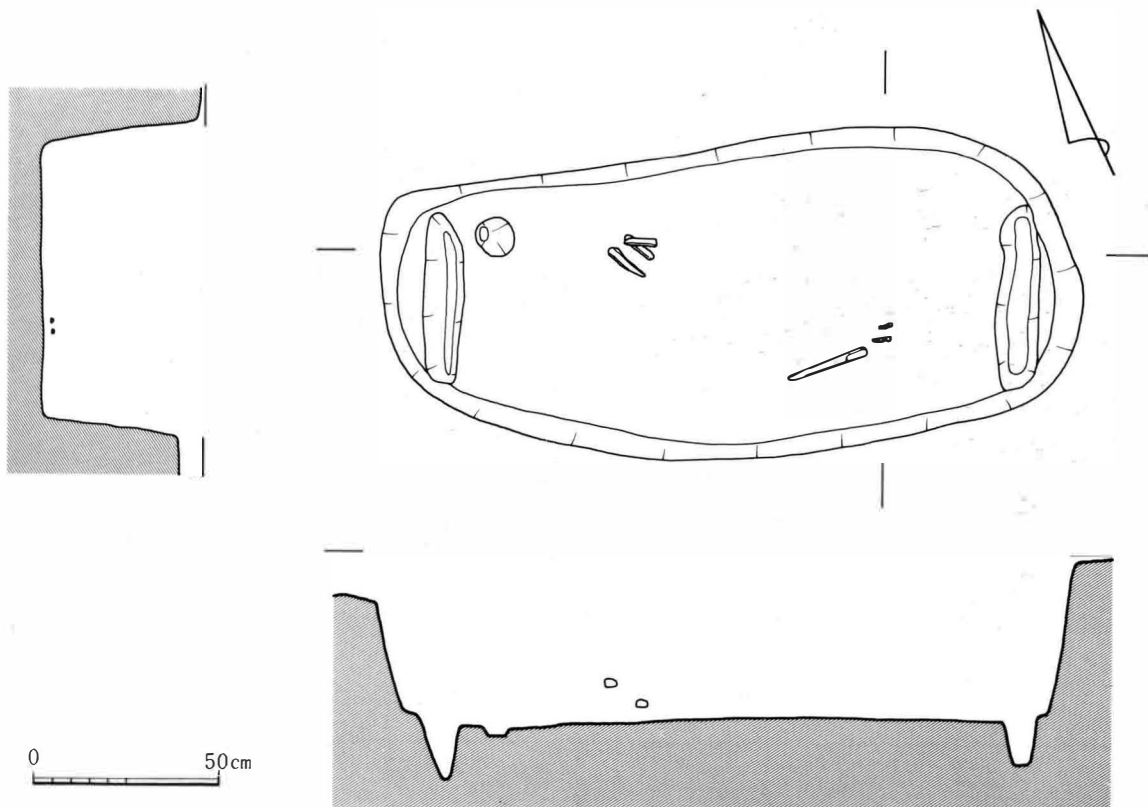


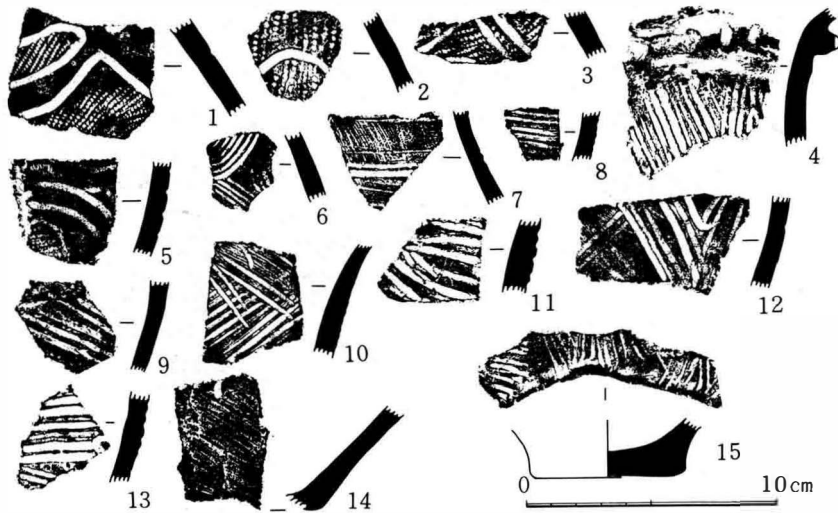


III-129 14号・22号木棺墓下部



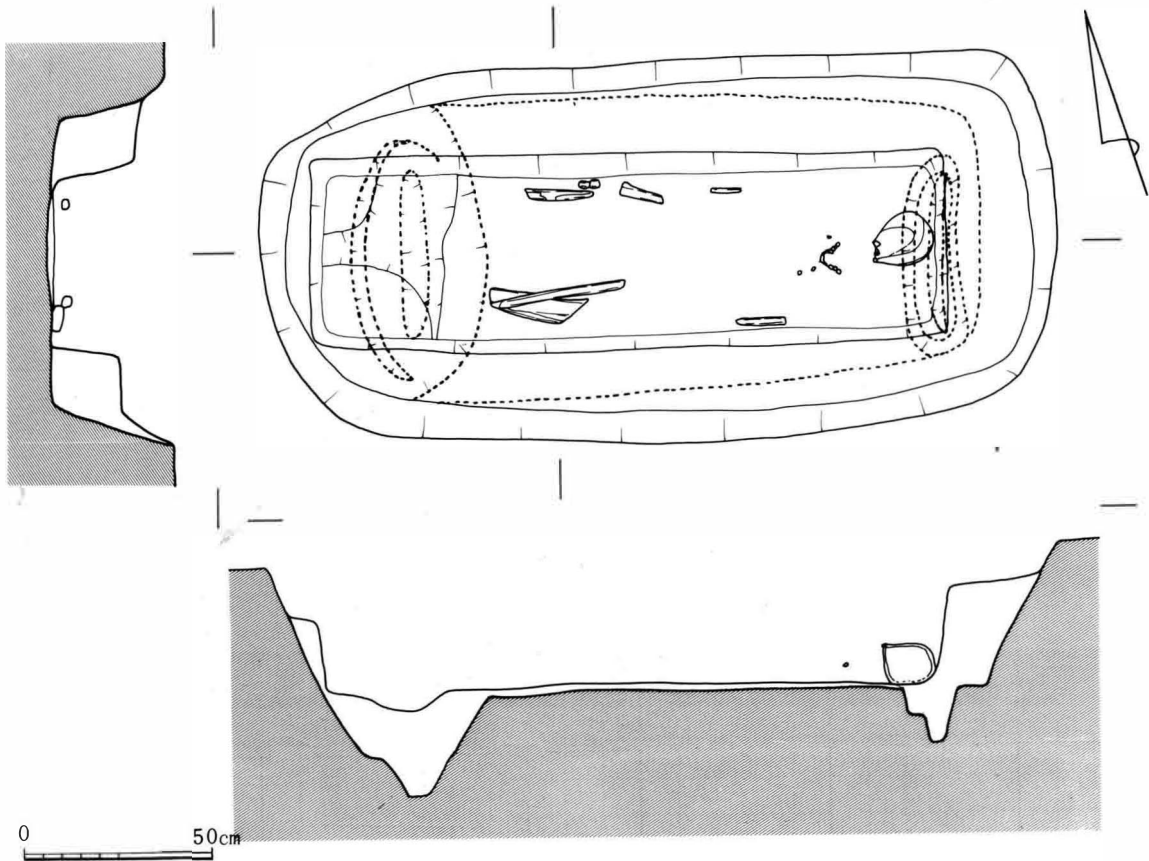
III-130 14号木棺墓実測図

形態は不整楕円形を呈し、東側が幅広い。長軸方向はN 65°Wになり、墓壙の長軸は1.85 m・短軸中央0.83 mを測る。検出面からの掘り込みは、東壁が深く40 cm、最も浅い西壁で32 cmになる。木棺部の長軸は1.5 mで、木口痕の掘り込みは東で12 cm、西で14 cmを測る。埋葬人骨は1体と考えられ、頭部を東に据える。



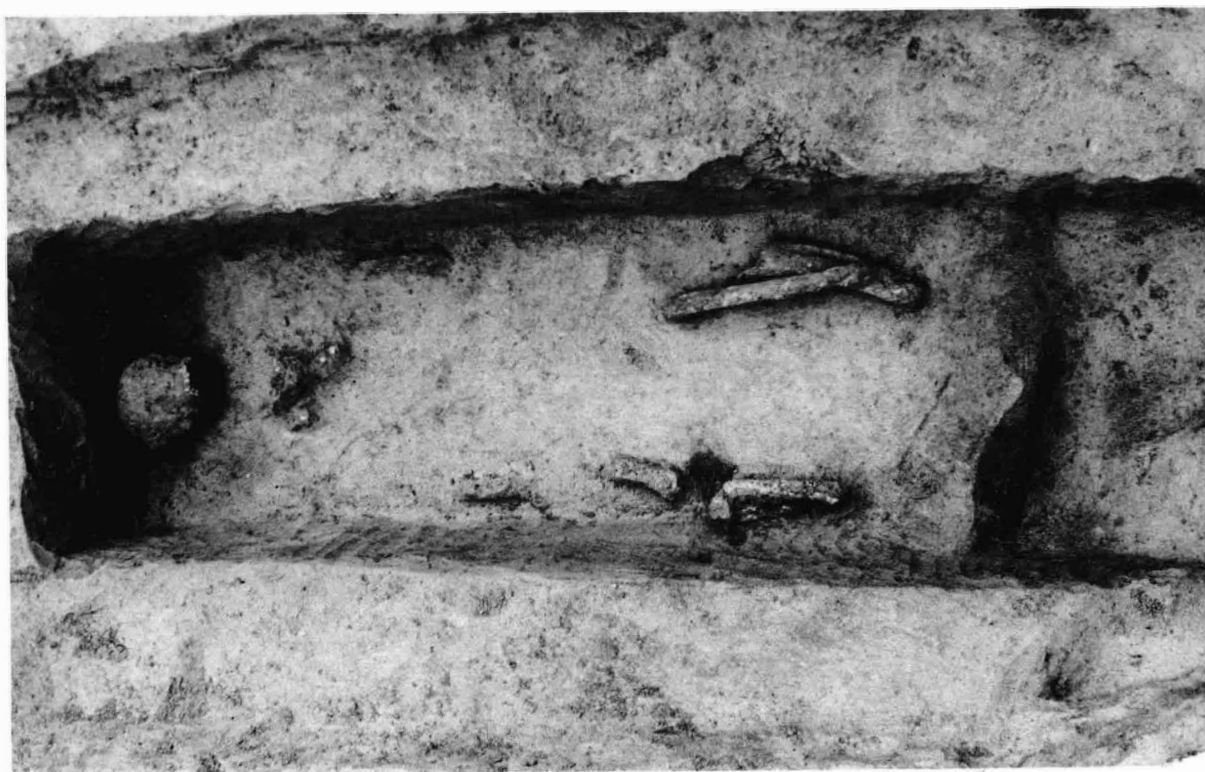
III-131 14号木棺墓出土土器

副葬品はない。注目する土器に4がある。頸部に長い突帯を有し、その先端に列点文がめぐり、それ以下は条痕文になる。他は棒状沈線文と櫛歯状工具により施文される。地文は縄文地とハケ整形痕になる。



III-132 22号木棺墓実測図

この遺構も、墓壙と木棺部を明確に検出することができた。掘り込み面は、黄褐色粘質土で、木棺部覆土はこれより黒味を帯びた砂質土が混入しており、墓壙覆土は黄褐色砂質土が含まれていた。墓壙形態は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN 73°Wになる。長軸規模は2.1 mで、短軸中央1.0 mを測る。検出面からの掘り込みは、東壁38 cm・西壁50 cm・北壁29 cm・南壁32 cmになる。底面は平坦である。木棺部も墓壙と同様長軸方向になる。形態は長方形になり、長軸規模は1.68 m・短軸0.52 mを測る。深さは東壁26 cm・西壁18 cm・北壁22 cm・南壁17 cmになる。ただし木口痕から推定した長軸は1.4 mである。木口痕は東側で長軸52 cm・短軸7 cm・深さ15 cm、西壁で長軸64 cm・短軸40 cm・深さ25 cmを測る。木棺の板材の厚さは土層から確認できなかった。人骨は1体が埋葬され、頭部を東に向ける屈肢葬であり、頭を縦板ぎりぎりに入れたものと推定される。人骨の検出範囲は1.2 mで、西側木口痕を含め、西側の木棺部施設は何を意味するか不明である。



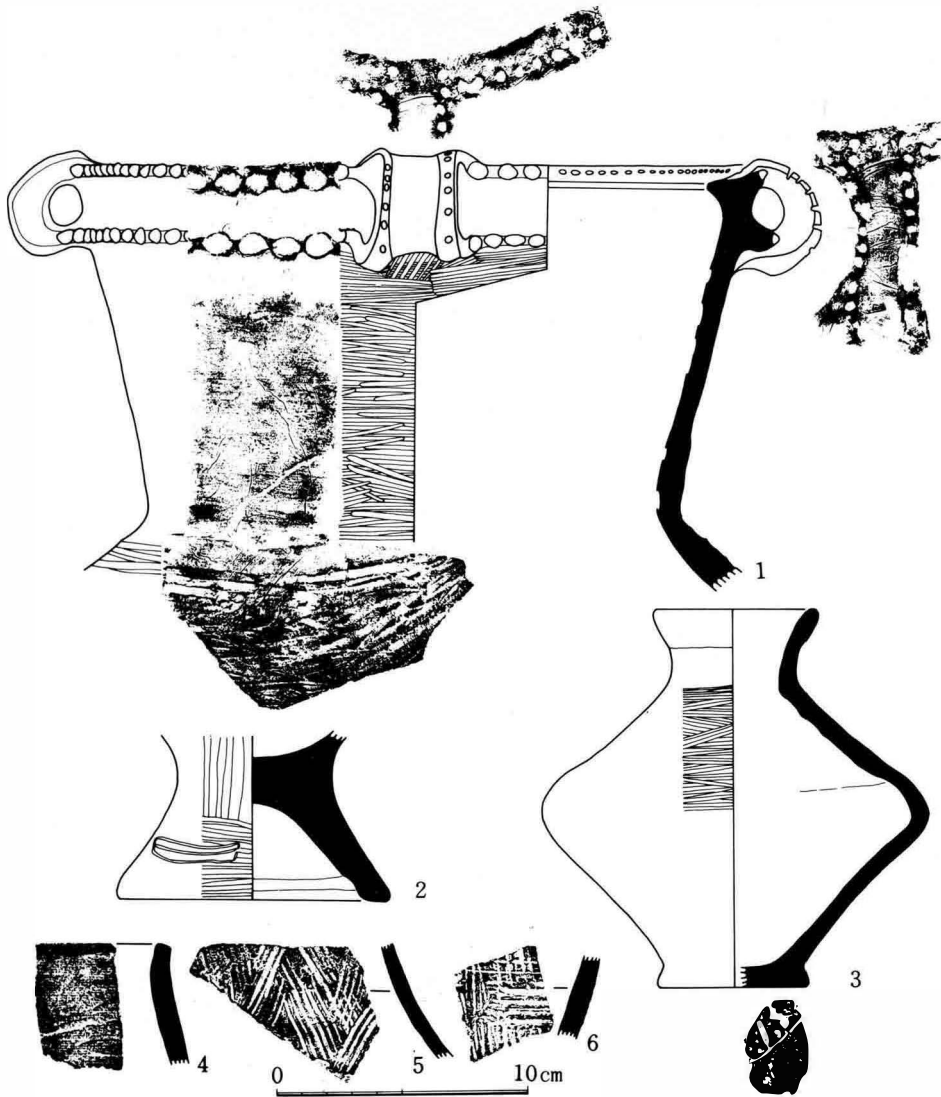
III-133 22号木棺墓



III-134 22号木棺墓出土土器

1. 茶褐色。2. 黒褐色。3. 茶褐色。4. 黄褐色。5. 黒褐白・黄雲母多含。6. 白褐色。7. 黒褐色・黄雲母多含。8. 暗褐色。9. 暗褐色。10. 黒褐色。11. 茶褐色。12. 黒褐色。13. 茶褐色。14. 黄褐色。15. 暗褐色。16. 赤褐色・黄雲母多含。17. 暗褐色。18. 黒褐色・白色凝灰岩粒含。19. 赤褐色。20. 暗褐色。21. 黒褐色。22. 黒褐色。23. 白灰色・黄雲母含。24. 白灰色。25. 黒褐色・黄雲母多含。胎土を記さないものは、石英粒を含む。

この墓壙から土器片のほか、表裏とも棒状工具で施文された土偶胴部 (III-165-5) が、裏面に加工痕のない黒曜石製の石鏃 (同-20)、そして安山岩製の環状石器 (III-170-23) が出土している。土器片の出土量も多い。3はハケ整形痕を残す無文の広口壺である。棒状工具による区画文になるとされるものに、6・7・8・10・16があり、16を除いて縄文が付される。また同工具で重円弧文を描く15、平行線文の4・9・12・14・25があり、また11・19には波状文があり、12の外面はていねいにみられる。17は体部上半の破片と思われる、隆帯がみられる。先端は列点文が施される。櫛歯状工具によるものには、5・6・11・16・18・23~25がある。ただ23・24は淡黄褐色を呈し、条痕文が深く、貝殻によるものと思われる。20~22の口唇部には列点文が施される。10・25には赤色顔料が付着している。



III-135 土壙 57 出土土器

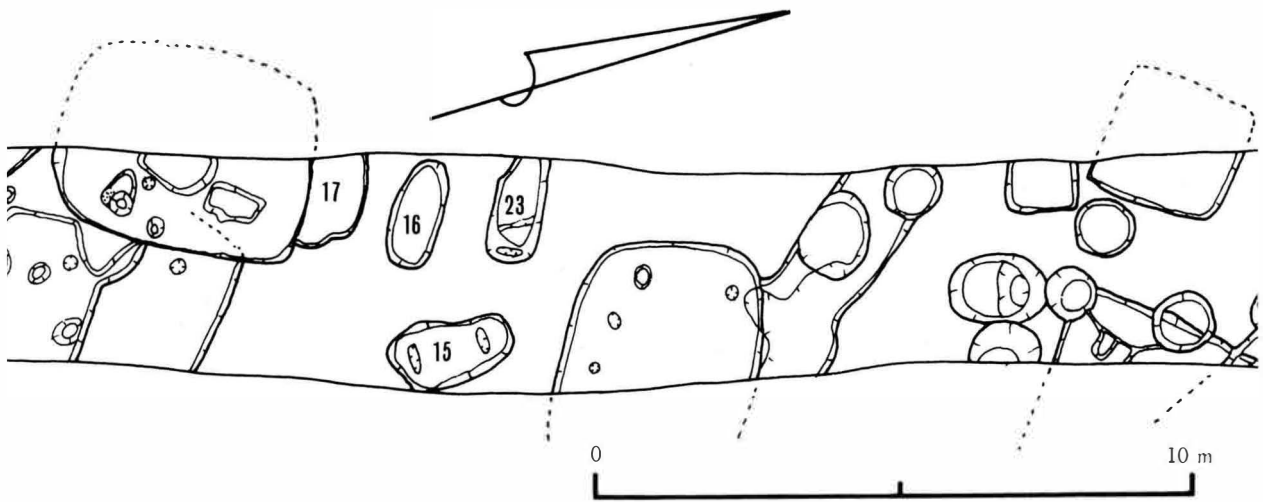
底面より出土したもので、1～3はままとまっていた。1は大形の壺形土器で、口縁部は直線になり、ヘラミガキが施される。また口縁部に環状の把手が4個付けられる。口縁内部の突出部上面には棒状工具による刺突文様列点文がめぐる。また外面の突帯は、指頭による列点文になる。突帯間はナデ整形である。頸部はくの字形になり、肩部下は条痕文になる。内面はナデ整形であるが器面剝離が著しい。白灰色から黄褐色を呈する。胎土に小砂粒が多く含まれる。※

※2は高台の破片であるが、器種を断定できない。外面はヘラミガキで、内面はナデ整形され、細い沈線により日の字形の文様を描く。3は短頸の壺で、体部は算盤玉形になる。茶褐色を呈し、胎土に石英粒を含む。体部上半はヘラミガキ様整形で、内面はヨコナデである。4は短頸壺と推定される。5・6は櫛歯状工具による条痕文になる。ともに焼成は良好であり、胎土に石英粒を含む。

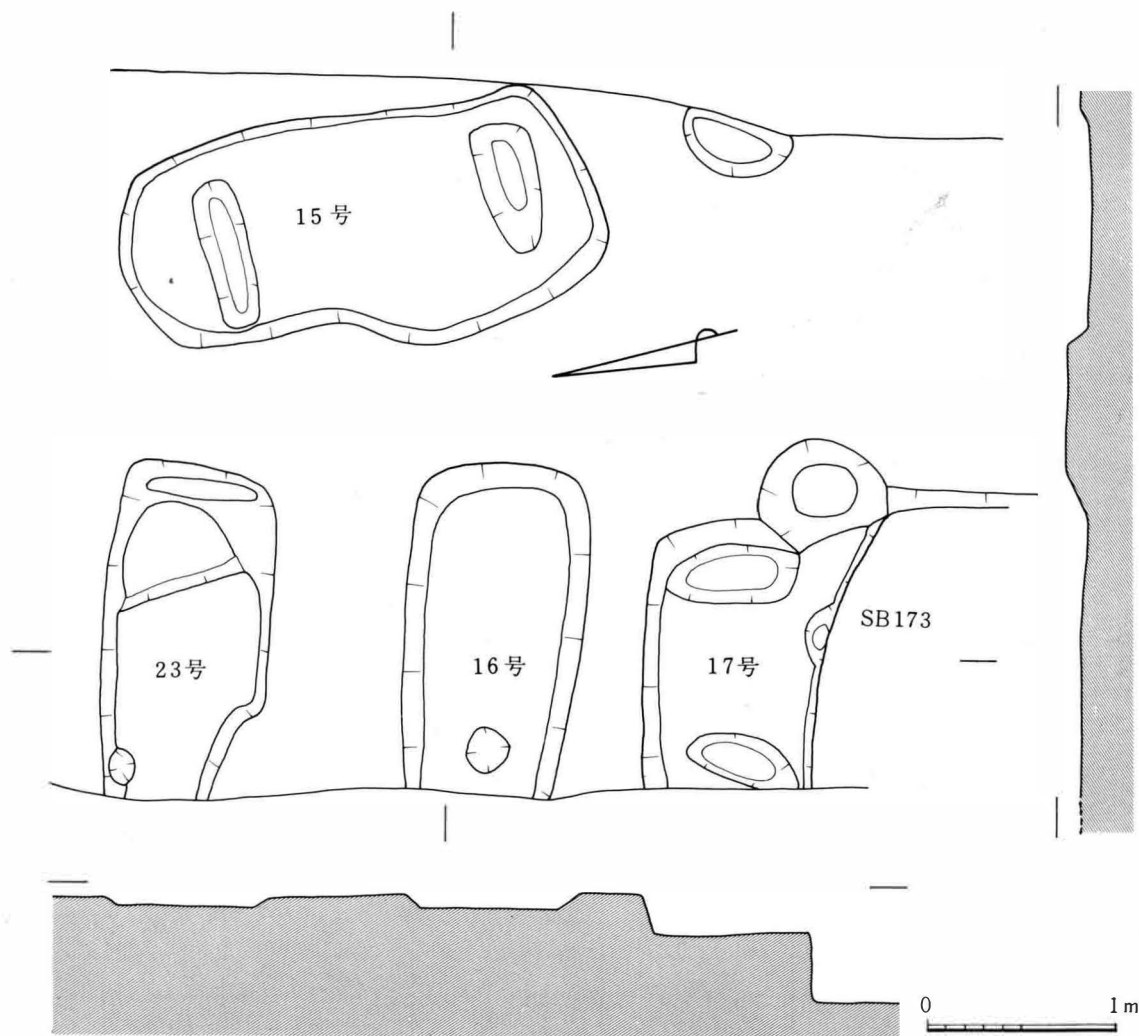


III-136 土壙 57

この土壙は、他とそれ程変るものではないが、出土土器が特異なものであり、また底面に赤色顔料痕が残っており墓壙と考えている。162号住居址により東側半分が破壊を受けるが、形態は楕円形を呈し、長軸1.40m・短軸1.0m・深さ35cmを推定する。底面は舟底状を呈する(III-447)。

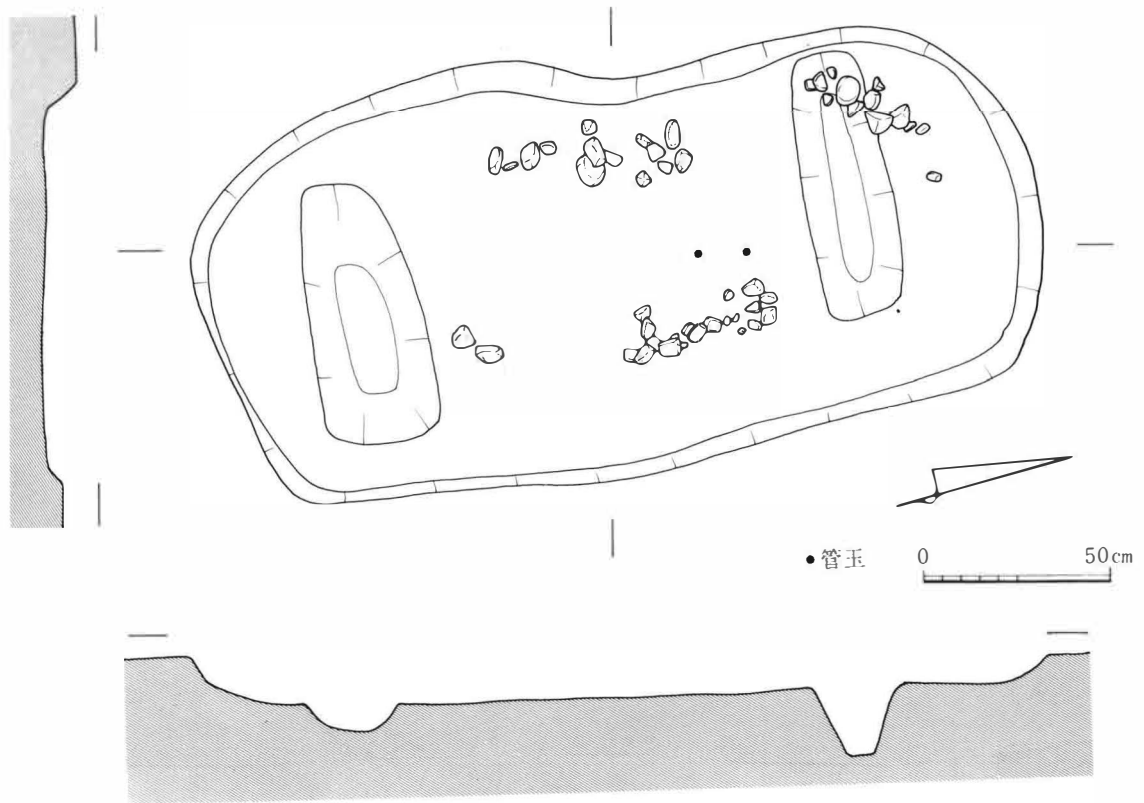


III-137 第V墓壙群分布図



III-138 第V墓壙群実測図

第V墓壙群 今回の調査で確認された最南にある一群で、地籍は中条である。墓壙群の中央または東端を調査したものと思われる。墓壙の位置分布は、15号木棺墓が南北に主軸があるのにたいし他の3基は、東西に主軸をもち、並列的になる。確認面は黄褐色粘質土上部の暗褐色の漸移層からで、覆土は同質のより黒味を帯びたものになる。この付近からの遺構確認面から古墳時代の住居址床面と思われるものが認められたり、出土遺物からもそれを裏付ける土器を採集した。17号木棺墓は、173号住居址により南壁が破壊される。

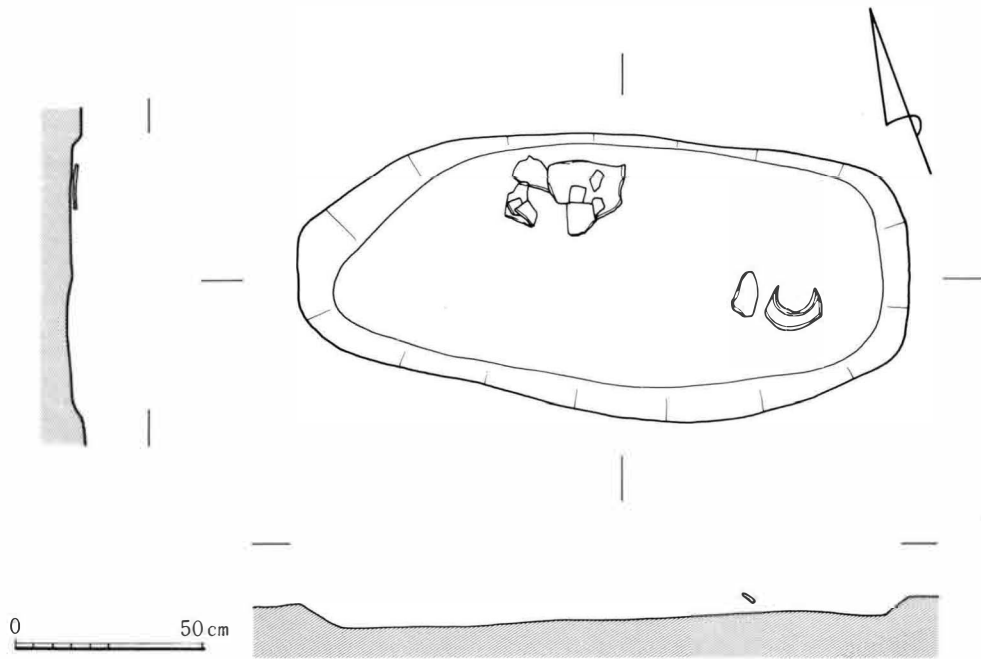


III-139 15号木棺墓実測図



III-140 15号木棺墓

形態は不整隅丸長方形を呈する。上面下より円礫が認められ、その中より碧玉製の管玉（III-166-20・21）の出土をみて、はじめて墓壙であると判断したが、すでに円礫のほとんどが除去されていた。全面に敷き詰められていたものと思われる。長軸ほぼ南北軸方向になる。長軸2.22m・短軸1.04mを測る。木棺部の長軸は1.35mになり、縦板木口痕は、北側のもので長軸70cm・幅23cm・深さ18cmになる。頭部は南に据えられたものと思われる。

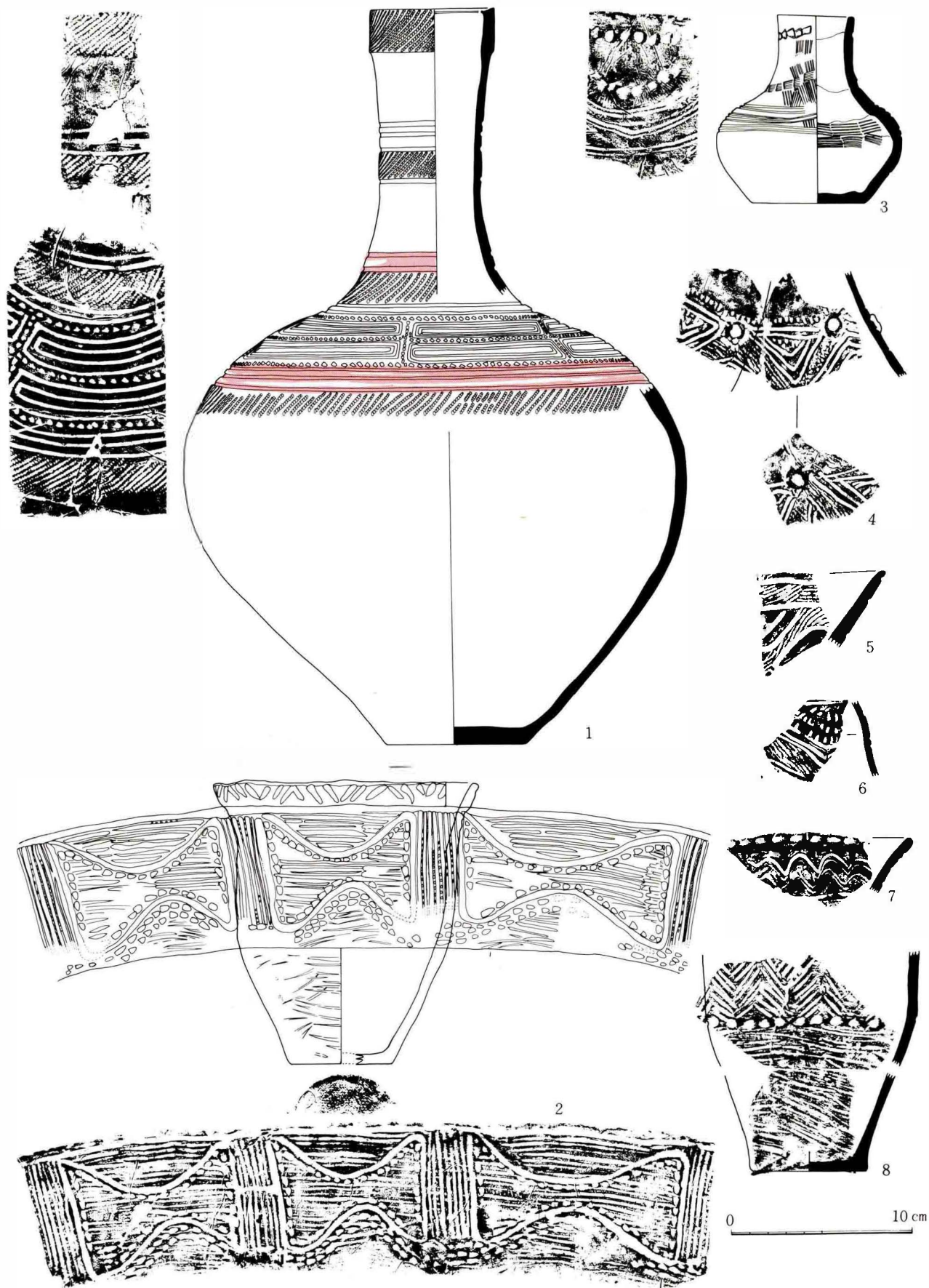


III-141 16号木棺墓実測図



III-142 16号木棺墓

この墓壙は、23号と17号にはさまれた形で検出されたもので、覆土は他と同様暗褐色砂質土になる。縦板木口痕が認められないことから土壙墓の可能性はある。形態は東側が隅丸長方形で、西側は楕円状になる。長軸方向はN70°Wで、その規模は1.62mを測る。短軸は中央部0.75mになる。掘り込みは全体に浅く、東壁6cm・西壁7cm・北壁3cm・南壁4cmになる。底面は西に傾斜している。尚この墓壙からの人骨の確認はなかったが、壺・甕片が出土している。黄褐色を呈し、胎土に黄雲母を含む。内面はヘラナデ整形である。3は茶褐色を呈し、胎土に石英粒を含む。文様は櫛歯状工具による。4・6は壺で、5は浅鉢で、7・8は甕形土器であろう。



III-143 16号木棺墓出土土器

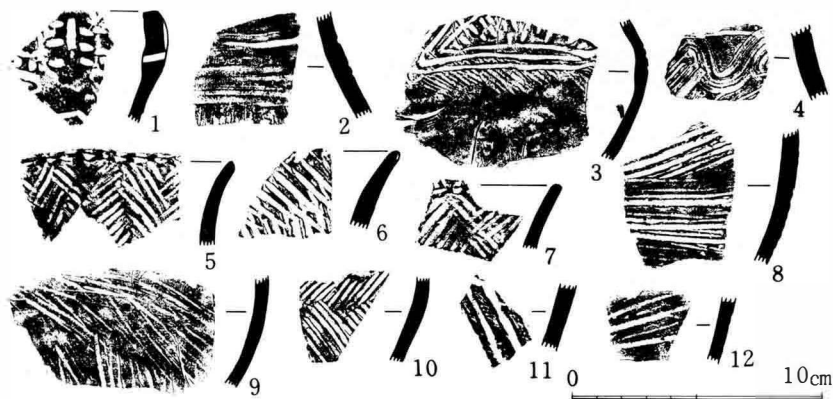


III-144 17号木棺墓実測図

形態は不整隅丸長方形になる。長軸方向はN 68° Wになるが、その規模は不明である。短軸0.8 m、東壁5 cm・北壁8 cm・南壁10 cmを測る。木棺部の長軸は50~55 cmである。東側木口痕の深さは25 cm・西側で17 cmになる。木棺部の底面は、小円礫が敷き詰められ、この上から頭部と大腿骨の一部が確認され、頭部を東に据えた屈肢葬と考えられる。覆土は、上面から木口底面まで同質の暗褐色砂質土である。



III-145 17号木棺墓・同断面



III-146 17号木棺墓出土土器

1・3・5が礫床上から検出されたほかは、覆土中からである。1は、壺の肥厚した口縁部片で円孔がうがたれる。棒状工具による施文で、同様工具によるものに3の三角形区画文と刺突文がある。他は櫛歯状工具による施文で、4には波状文が、5の口唇部に列点文が描かれる。



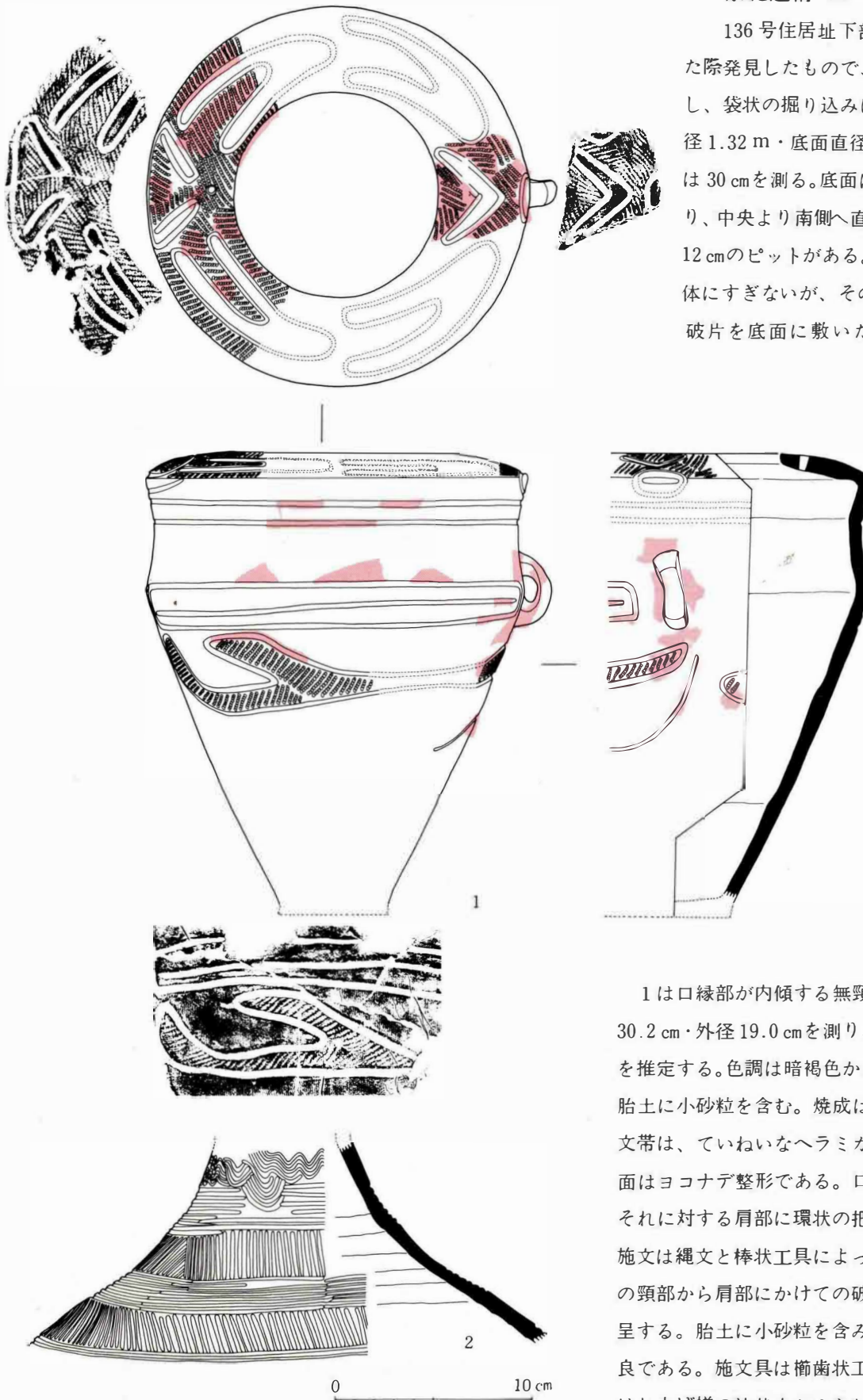
III-147 23号木棺墓

実測図はIII-138を参照していただきたい。第V墓壙群北に位置するが、16・17と並列する。形態は長方形を呈するものと思われる。また縦板木口痕から察すると検出した遺構は、木棺部であろう。主軸方向はN 70°W前後になる。長軸規模は、西壁が調査区外に延びるため不明である。短軸は中央の最大幅になるところで90cmを測る。掘り込みは、南・北壁で5cmと浅いものである。東壁にある木口の掘り込み規模は、長軸75cm・短軸24cm・深さ22cmになる。またこれに接して底面より10cm程の落ち込みがある。覆土は同質のものである。北壁西側に長軸20cmのピットがあり、16号にも認められ何を意味する施設か不明である。人骨及び時期を比定する遺物の出土はなかった。

第V墓壙群は、底面付近の検出にとどまったが、調査トレンチ西壁を観察するに、その掘り込み面を確認することができなかった。むしろ直上から後世のものと推定される床面状遺構があるので、この時期に削平されてしまったと考えられる。それでも運良く確認できた遺構群である。

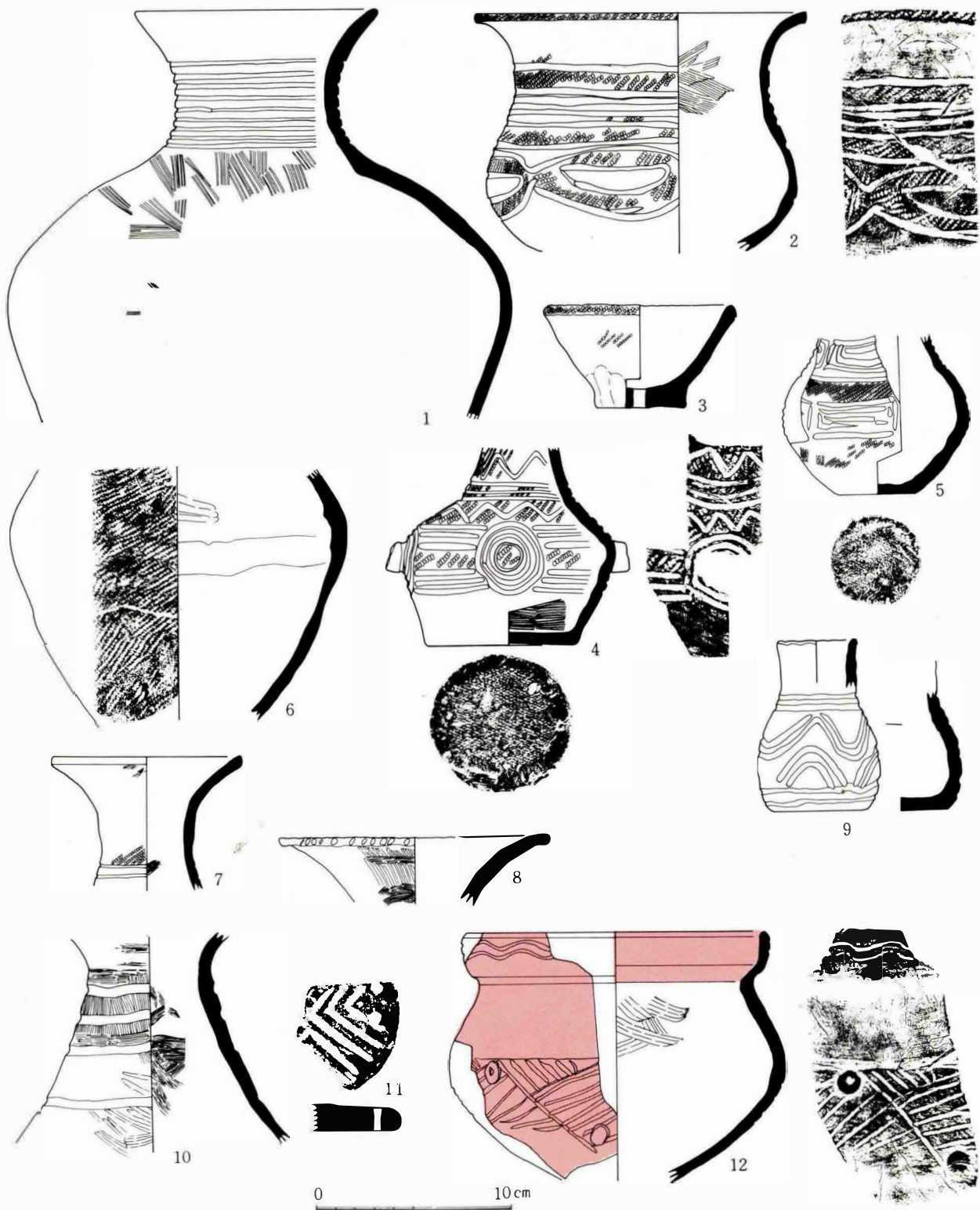
祭祀遺構 (III-391)

136号住居址下部の調査を実施した際発見したもので、形態は円形を呈し、袋状の掘り込みになる。上面の直径1.32m・底面直径1.42mで、深さは30cmを測る。底面は平坦で軟弱であり、中央より南側へ直径約30cm・深さ12cmのピットがある。出土土器は2個体にすぎないが、その出土状態はこの破片を底面に敷いた状態であった。



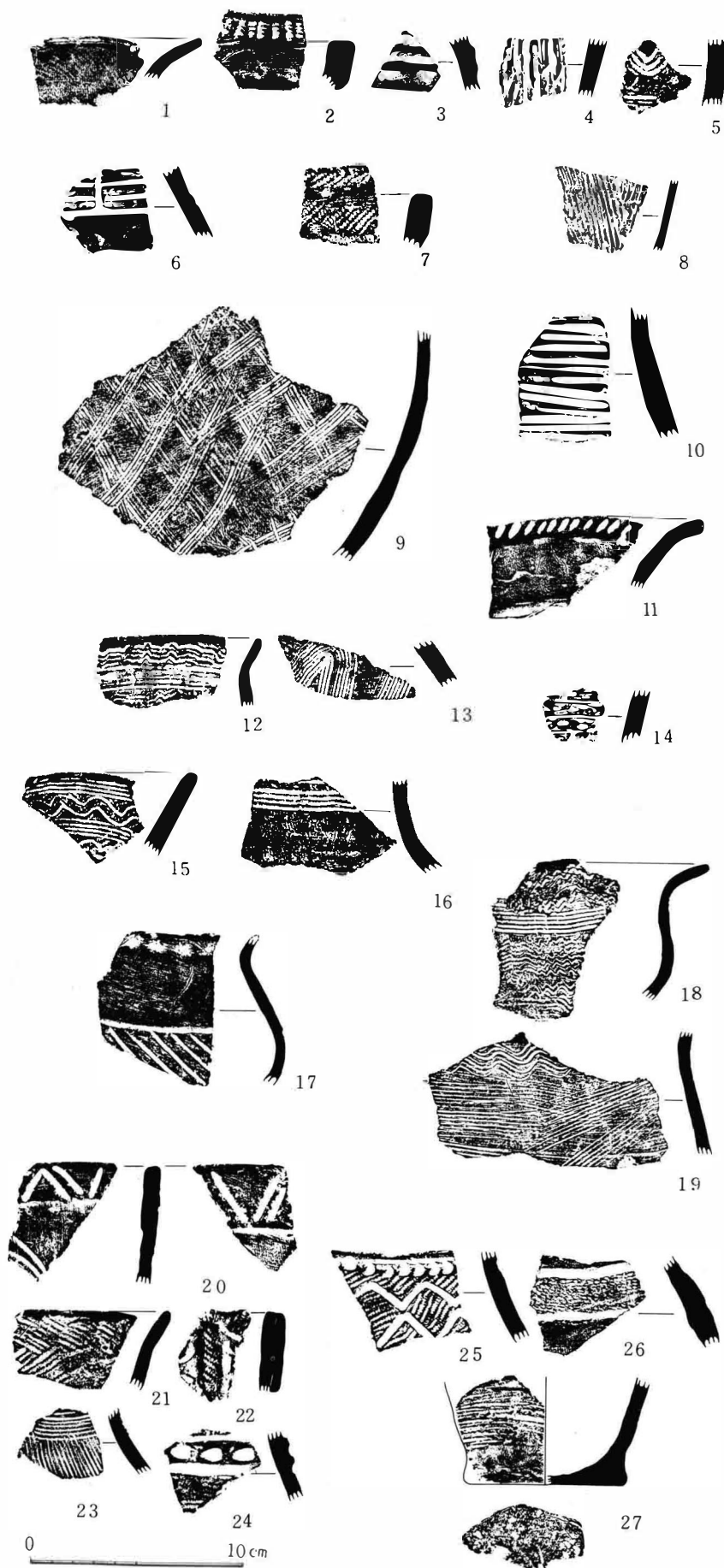
1は口縁部が内傾する無頸壺である。内径30.2cm・外径19.0cmを測り、器高は23.2cmを推定する。色調は暗褐色から黒褐色を呈し、胎土に小砂粒を含む。焼成は良い。外面の無文帯は、ていねいなへらミガキが施され、内面はヨコナデ整形である。口縁部に1孔を、それに対する肩部に環状の把手が付される。施文は縄文と棒状工具によっている。2は壺の頸部から肩部にかけての破片で、黒褐色を呈する。胎土に小砂粒を含み、焼成はやや不良である。施文具は櫛歯状工具が用いられ、はね上げ様の波状文がみられる。内面はナデ整形であるが、成形痕を残す。

III-148 祭祀遺構出土土器



III-149 その他出土土器(1)

1の頸部は、9本の平行沈線文になるが、施文具は他と異なり角のあるものを使用している。体部は無文でハケ整形後へラミガキが施される。黄褐色から黒褐色を呈する。遠賀川系の土器と考えている。2は浅鉢形をなし、3は甑である。4には四方に突起が付される。5は重四角文の区画文を、9には波状の山形文が施文される。6は体部全体に縄文がある。以上は中期前半に比定される土器で、他は後半に位置づけられよう。11は蓋である。



III-150 その他出土土器(2)

5号住居址(1~5) 1. 口唇部面取り、茶褐色、石英粒含、ハケ整形。2. 口唇部に押引列点文、黄雲母含、灰褐色。3. 暗褐色、石英粒含。4. 灰黄褐色、石英粒含。5. 灰黄褐色、微石英粒含。

8号住居址(6) 黒褐色、石英粒含、外面ヘラミガキ・内面ナデ。

9号住居址(7) 口縁部有段、灰黄褐色、微石英粒、内面ヨコナデ。

13号住居址(8) 灰色、黄雲母含。

20号住居址(9) 暗褐色、石英粒含、黄雲母含、内面ヘラナデ整形。

27号住居址(10) 櫛歯状工具施文、黄褐色、黄雲母含、内面下半ハケナデ、上半ヨコヘラナデ整形。

39号住居址(11) 暗褐色、黄雲母含、外面ヘラミガキ・内面ヨコナデ。

40号住居址(12-13) 12. 暗褐色、黄雲母含、内面ヨコヘラ整形。13. 黄褐色、小砂粒含、内面ヨコナデ。

50号住居址(14) 灰黄褐色、石英粒・黄雲母含、内面ナデ整形。

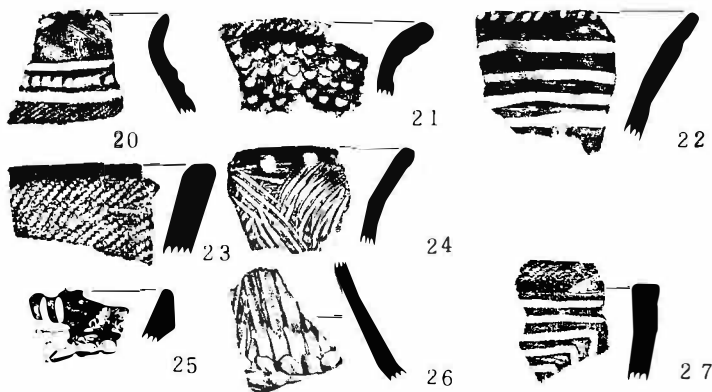
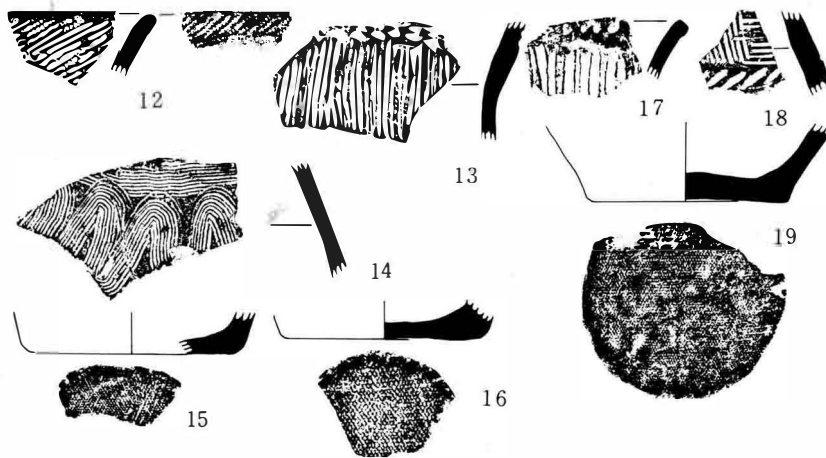
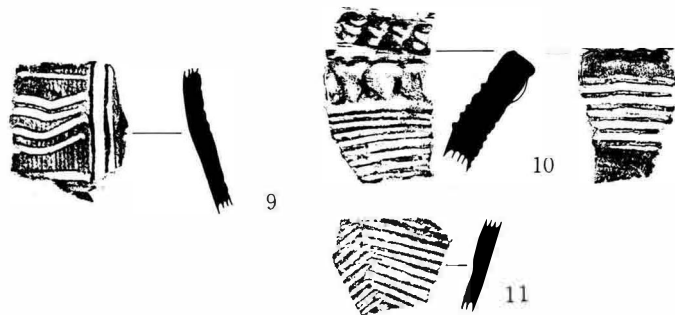
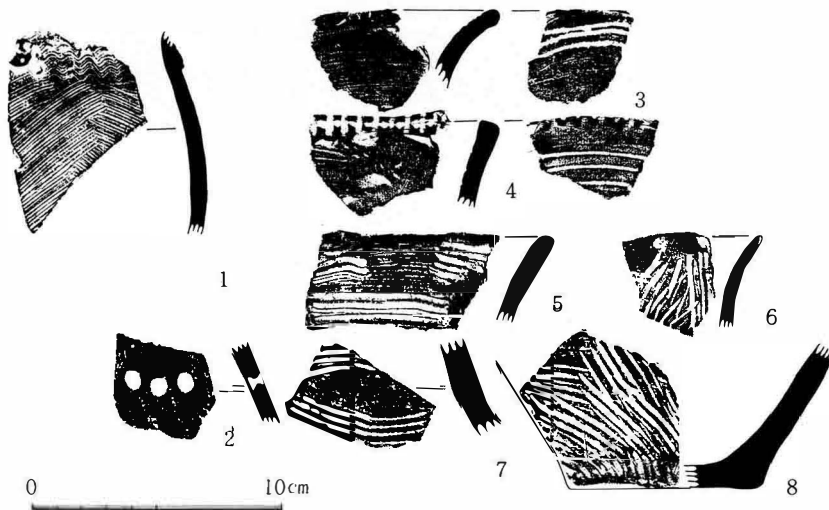
54号住居址(16) 茶褐色、黄雲母含。

57号住居址(15) 黄褐色、黄雲母含。

71号住居址(17) 外面上半赤色塗彩、内面ヨコナデ整形、微石英粒含。

79号住居址(18-19) 暗褐色。

84号住居址(20-24) 20. 黄褐色、微石英粒含、ハケナデ・ナデ整形。21. 暗褐色、微石英粒含、内面ヨコナデ整形。22. 口縁部に隆帯、黄褐色、微石英粒含。23. 灰褐色、



内面ヨコナデ整形。24. 灰褐色、微石英粒含、内面ヨコナデ整形。

85号住居址(25~27) 25. 半截竹管の列点文、暗褐色、微石英粒含。26. 灰黄白色、微石英粒含、内面に凹凸あり。27. 黄褐色、石英粒多含。

88号住居址(1) 黄褐色、黄雲母含、貼付文、内面ヨコヘラミガキ。

91号住居址(2~8) 2・3. 円孔が両面よりうがたれる、暗褐色、微石英粒含。3. 黄褐色、黄雲母含、ヘラナデ整形。4. 黄褐色、黄雲母含。5. スス付着、暗褐色、黄雲母含。6. 暗褐色、黄雲母含、内面ヘラナデ整形。7. 灰黄褐色、黄雲母含。8. 黄褐色、黄雲母含。

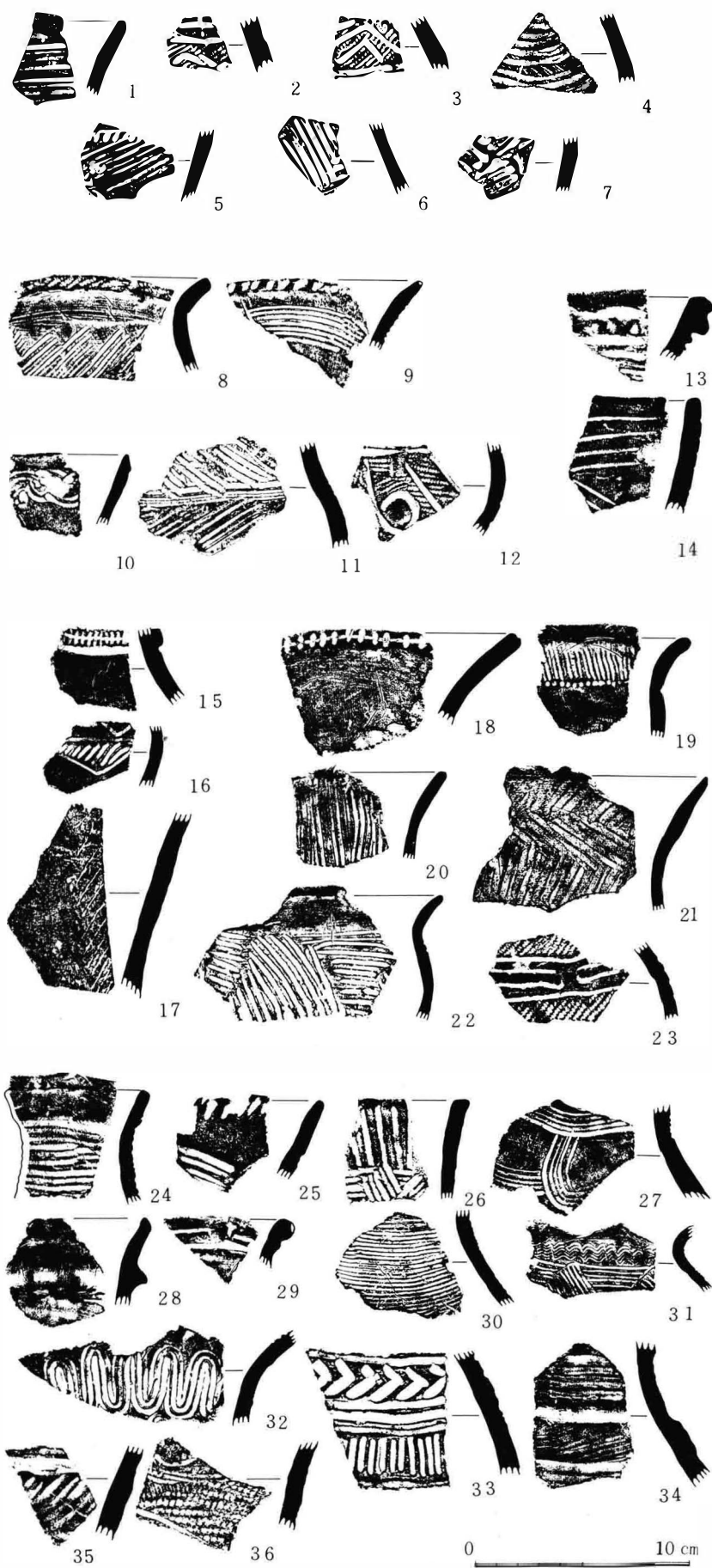
92号住居址(9) 灰褐色。

93号住居址(10・11) 10. 口唇部に櫛歯状工具の列点文、口縁部に隆帯があり、指頭による列点文、黄褐色、石英粒多含。11. 黄褐色、微石英粒含。

95号住居址(12~16) 12. 灰褐色、黄雲母含。13. 黒褐色、黄雲母含、内面ハケナデ整形。14. 黄褐色、石英粒多含。15・16. 底部に布圧痕、内面ナデ整形。

96号住居址(17~19) 17. 茶褐色、石英粒含。18. 暗褐色、微石英粒含。19. 灰褐色、微石英粒含。

97号住居址(20~27) 20. 列点文は半截竹管による、灰褐色、石英粒多含、内面ヨコヘラナデ整形。21. 半截竹管による刺突文、黄褐色、黄雲母含、内面ヨコナデ整形。22. 暗褐色、微石英粒、黄雲母含、内面ヨコナデ整形。23. 暗褐色、微石英粒、黄雲母含、内面ヨコナデ整形。24. 黄褐色、黄雲母含。25. 有段口縁、



黄褐色、微石英粒、内面ナデ整形。
 26. 幅広い櫛歯状工具による施文、
 灰褐色、微石英粒含、内面ナデ整形。

99・100号住居址(27) 棒状工具によるコの字重文、灰黄褐色、微石英粒含、内面ヨコナデ整形。

101号住居址(1~7) 1. 灰黄褐色、微石英粒・黄雲母含。2. 茶褐色、微石英粒含。3. 黄褐色、黄雲母・石英粒含。4. 暗茶褐色、黄雲母・微石英粒含。5. 茶褐色、黄雲母・石英粒含。6. 黄褐色、微石英粒含。7. 灰褐色、石英粒含。

102号住居址(8・9) 8. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。9. 灰褐色、微石英粒・黄雲母含。

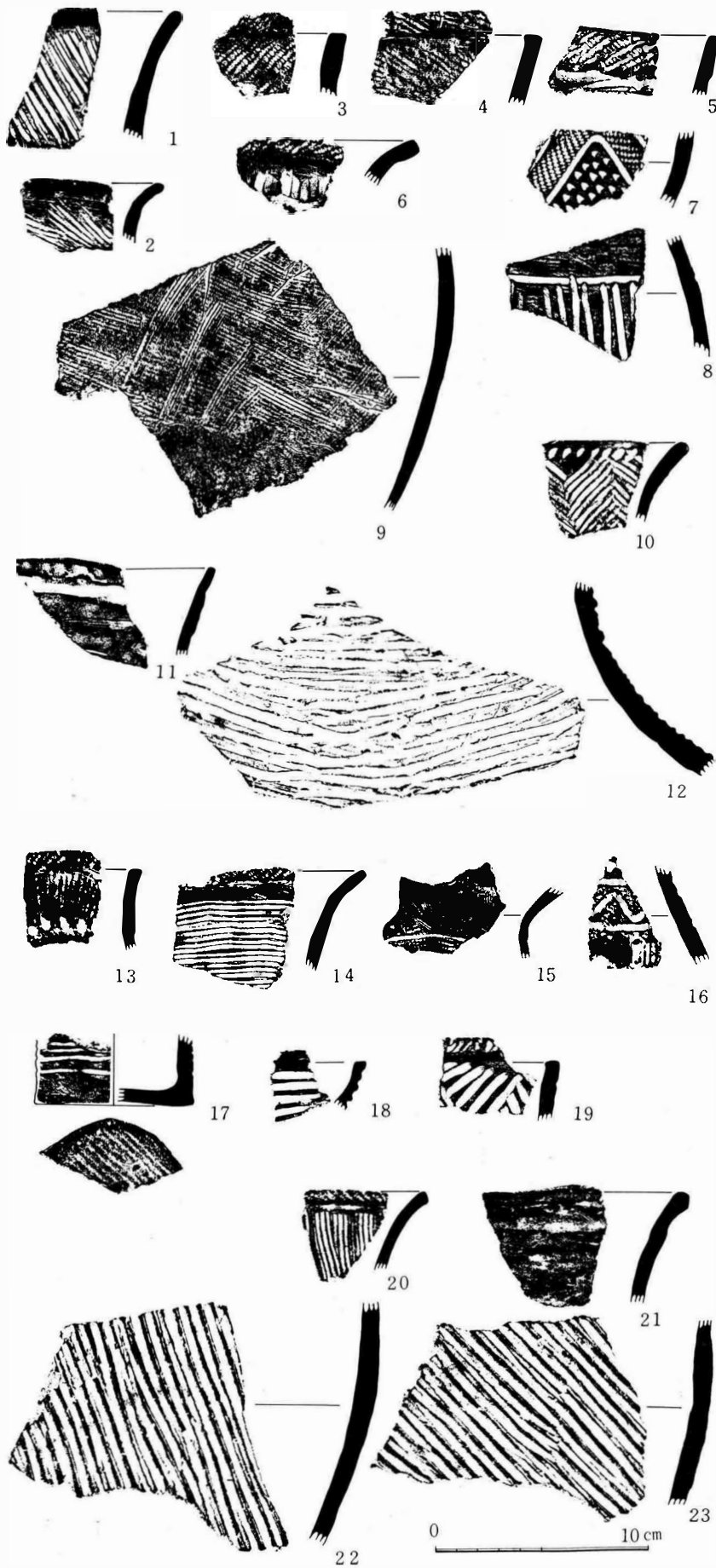
103号住居址(13・14) 13. 突帯がめぐる、黄褐色、石英粒含。14. 暗褐色、石英粒含、内面ヨコハケ。

105号住居址(10~12) 10. 灰色、石英粒含。11. 黒褐色、黄雲母含。12. 暗褐色、微石英粒含。

106号住居址(15~17) 15. 隆帯がめぐる、黄褐色、黄雲母含。16. 暗褐色、微石英粒含。17. 灰黄褐色、石英粒含。

108号住居址(18~23) 18. 灰黄褐色、石英粒含。19. 黒色、黄雲母含。20. 灰褐色、黄雲母含。21. 黒褐色、黄雲母含。22. 茶褐色、微石英粒含。23. 灰褐色、石英粒含。

109号住居址(24~36) 24. 茶褐色、微石英粒、内面ナデ整形。25. 灰褐色、微石英粒、黄雲母含。26. 黄褐色、微石英粒含。27. 暗褐色、黄雲母、石英粒含。28. 口縁部に突帯がめぐる、暗褐色、微石英粒含。29. 茶褐色、黄雲母含。30. 黄褐色、黄雲母、石英粒含。31. 赤褐色、微



石英粒含。32. コンパス文風波状文、内面に条痕文、灰褐色、石英粒多含、33. 灰黄褐色、黄雲母、石英粒含、平行線文下は赤色塗彩。34. 肩部有段、黄褐色、石英粒、黄雲母含。35. 暗褐色、石英粒含。36. 暗褐色、石英粒含。

111号住居址(1・2) 1. 暗褐色、黄雲母・石英粒含、内面ヨコナデ整形。2. 黄褐色、黄雲母・石英粒含、ヨコナデ整形。

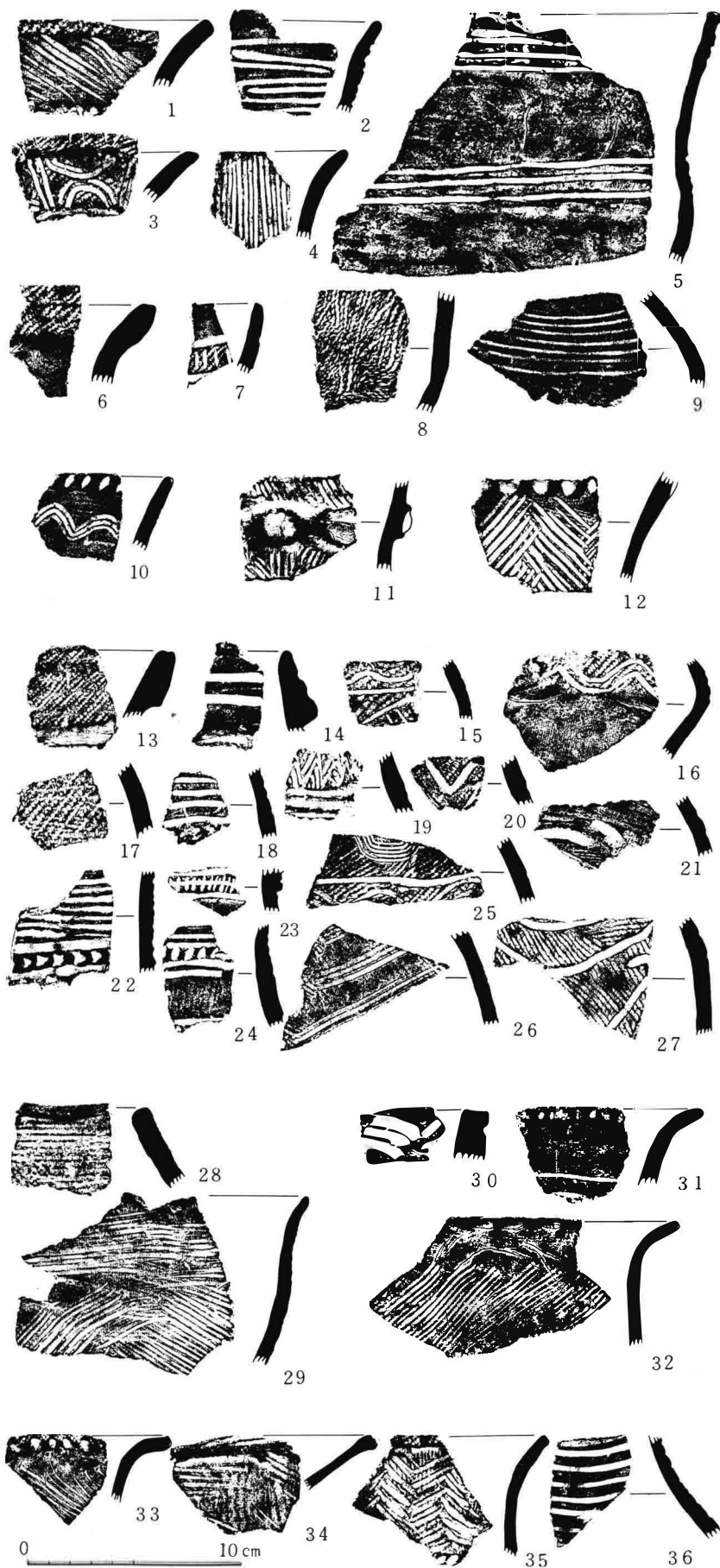
114号住居址(3~9) 3. 黄褐色、黄雲母含、内面ヨコナデ整形。4. 黄褐色、微石英粒含。5. 口縁部有段、黄白色、微石英粒含、内面ヨコナデ整形。6. 赤褐色、微石英粒含、内面ヨコナデ整形、外面赤色塗彩。7. 茶褐色、微石英粒含、内面ヨコナデ整形。8. 外面黄褐色・内面灰白色、黄雲母、微石英粒含、内面ハケナデ整形。9. 暗褐色、石英粒多含、内面ヘラナデ・ナデ整形。

115号住居址(10) 黄褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ヨコナデ整形。

116号住居址(11・12) 11. 茶褐色、微石英粒含。12. 黄褐色、黄雲母・微石英粒含、内面成形痕を残すナデ整形。

117号住居址(13~16) 13. 有段口縁、灰黄褐色、黄雲母含、内面ヨコナデ整形。14. 茶褐色、黄雲母、微石英粒含、内面ヨコハケナデ整形。15. 灰褐色、石英粒含、ハケのちミガキ整形、内面赤色塗彩。16. 茶褐色、微石英粒含、内面ハケナデ整形。

119号住居址(17~19) 17. 底面櫛歯状工具のナデ、布圧痕、外面赤色塗彩、石英粒多含。18. 灰褐色、微石英粒含、外面赤色塗彩。19. 黄



白色、黄雲母・微石英粒含。

122号住居址(20~23) 20, 暗褐色、石英粒含、内面ヨコナデ整形。

21, 灰黄褐色、石英粒多含、内面ヨコヘラ整形。

22・23, 黄白色、石英粒多含、内面ナデ整形。

124号住居址(1~9) 1, 黄褐色、黄雲母、微石英粒含。

2, 黄褐色、黄雲母・石英粒含。

3, 灰褐色、黄雲母・微石英粒含。

4, 暗褐色、黄雲母含。

5, スス附着、暗褐色、黄雲母・微石英粒含。

6, 茶褐色、黄雲母・微石英粒含、頸部外面赤色塗彩。

7, 茶褐色、微石英粒含。

8, 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。

9, 黒褐色、微石英粒含、内面ヨコナデ。

126号住居址(10~12) 10, 灰黄褐色、微石英粒含。

11, 暗褐色、石英粒多含。

12, 茶褐色、微石英粒含。

128号住居址(13~27) 13, 有段口縁、黒褐色、黄雲母・石英粒含。

14, 暗褐色、黄雲母・石英粒含。

15, 暗褐色、石英粒含。

16, 茶褐色、黄雲母・石英粒含。

17, 茶褐色、黄雲母・石英粒含。

18, 暗褐色、黄雲母・石英粒含。

19, はね上げ文状施文、灰黄褐色、石英粒多含。

20, 茶褐色、黄雲母・石英粒含。

21, 灰褐色、黄雲母・石英粒含。

22, 黒褐色、黄雲母・石英粒含。

23, 隆帯、黄褐色、黄雲母・石英粒含。

24, 灰黄褐色、石英粒含。

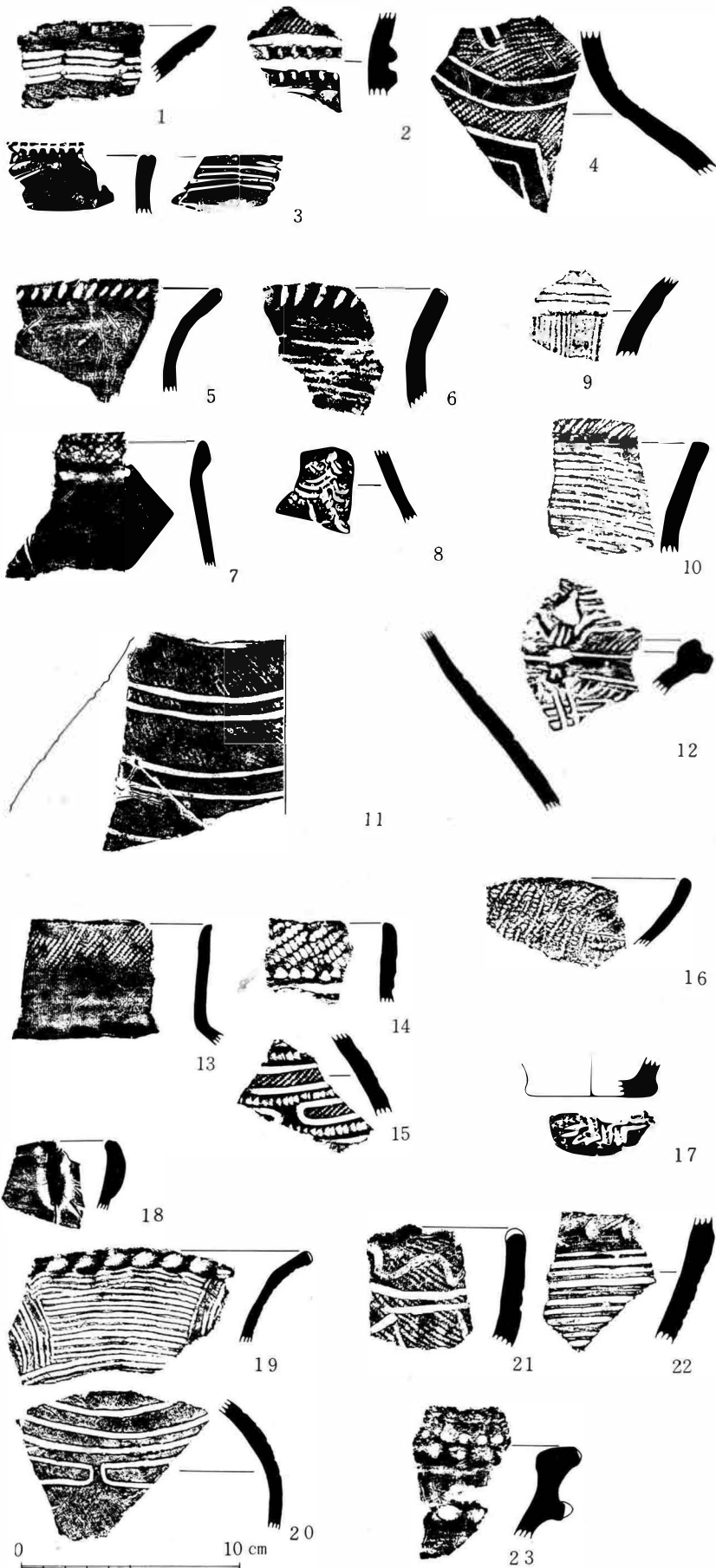
25, 灰褐色、黄雲母・石英粒含、沈線上に赤色塗彩。

26, スス附着、暗褐色、黄雲母・石英粒含。

27, 暗褐色、石英粒含。

130号住居址(28・29) 28, 無頸壺、黄褐色、黄雲母含。

29, 暗褐色、黄雲母含。



135号住居址(30~32) 30. 黄褐色、微石英粒含。31. 暗褐色、石英粒多含。32. 暗褐色、黄雲母含。

136号住居址(33~36) 33. 暗褐色、黄雲母含。34. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。35. 黒褐色、黄雲母・石英粒含、内面ハケナデ整形。36. 黄褐色、黄雲母含、外面ヘラミガキ・内面ナデ整形。

136号(下)住居址(1~4) 1. スス附着、暗褐色、黄雲母含、内面ヨコナデ整形。2. 2本隆帯、黄褐色、微石英粒含。3. 黒褐色、黄雲母含、内外面ヘラミガキ整形。4. 暗褐色、黄雲母含。

137号住居址(5~8) 5. 暗褐色、黄雲母含。6. 内外面黒色、石英粒含、内面ヨコナデ整形。7. 口縁部肥厚、暗褐色、雲母含、内面ヘラミガキ整形。8. はね上げ文、灰黄褐色、微石英粒含。

140号住居址(9) 暗褐色、石英粒含、内面ヨコナデ整形。

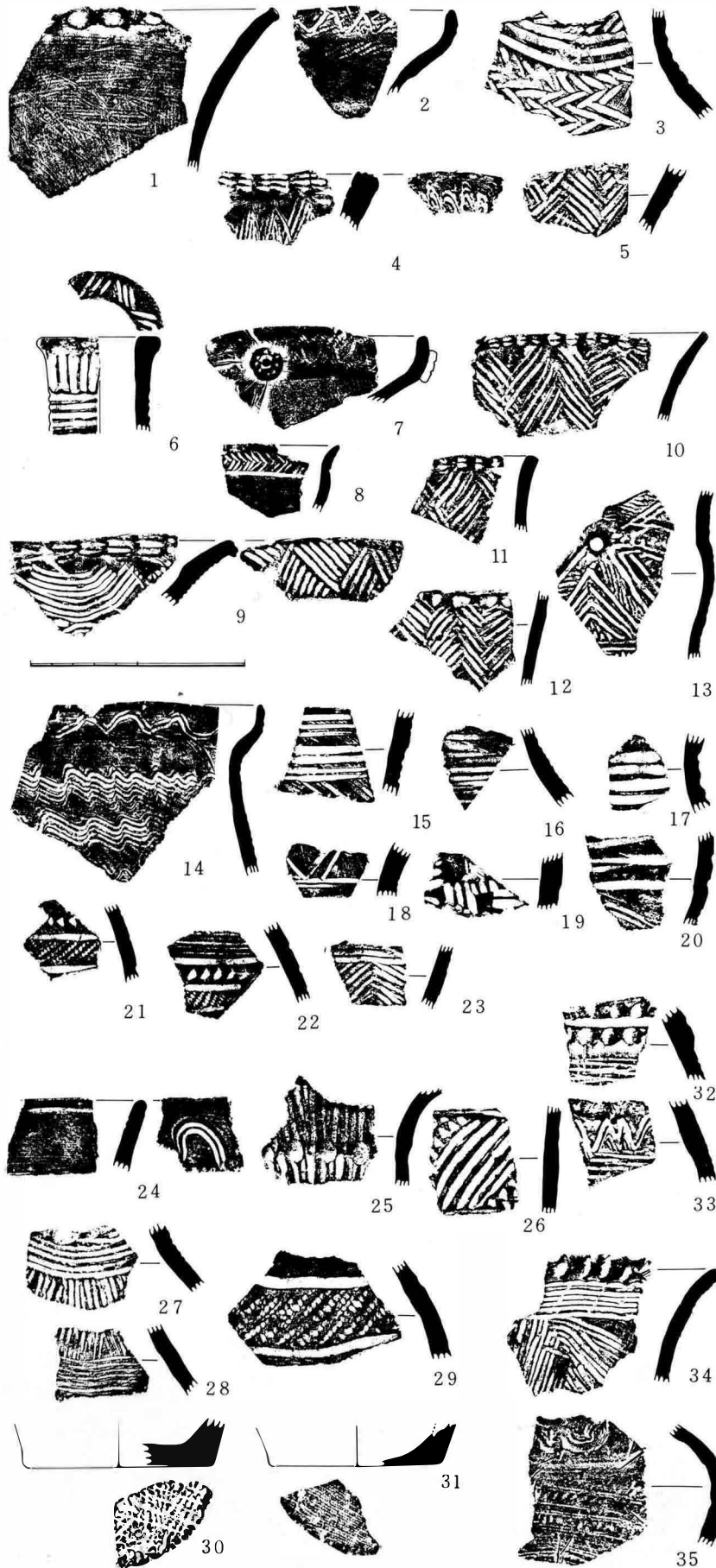
141号住居址(10~12) 10. 暗褐色、黄雲母含。11. 灰褐色、黄雲母・微石英粒含。12. 外面瘤状突起が外面に、内面は帯状になる、暗褐色、石英粒含。

143号住居址(13~15) 13. 黒褐色、黄雲母含。14. 黄褐色、微石英粒含。15. 半截竹管列点文、黄褐色、石英粒含。

142号住居址(16) 暗褐色、黄雲母含、内面ヘラナデ整形。

148号住居址(17) 櫛歯状工具によるナデのち布圧痕、暗褐色、石英粒含。

149号住居址(18~20) 18. 口縁部突起状貼付文、内外面とも赤※



III-156 その他出土土器(8)

※色塗彩、黄雲母含。19. 赤褐色、黄雲母含、内面ヘラミガキ整形。20. 暗褐色、微石英粒含、内面ヨコナデ整形。

150号(下)住居址(21・22) 21. 灰黄褐色、黄雲母含。22. 黄褐色、黄雲母含。

162号住居址(23) 口縁部は2帯の突帯、口縁部棒状工具による刺突文、黒褐色、微石英粒含。

160号住居址(1~5) 1. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。2. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。3. 灰黄褐色、黄雲母・微石英粒含。4. 口縁部押引列点文、暗褐色、石英粒・微石英粒含。5. 灰茶褐色、微石英粒含。

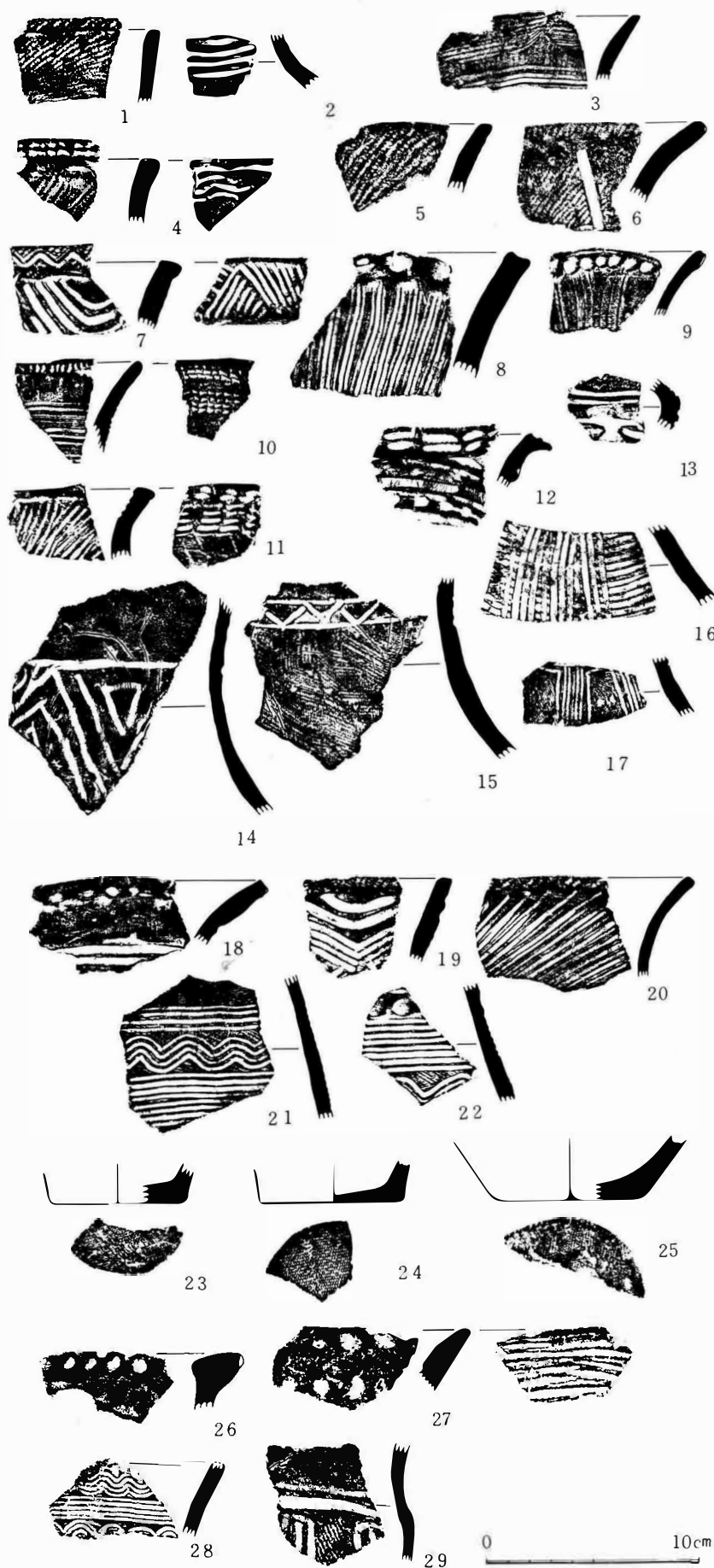
171号住居址(6~9) 6. 灰黄褐色、微石英粒含。7. 茶褐色、微石英粒含、赤色塗彩。8. 茶褐色、微石英粒含。5. 灰茶褐色、微石英粒含。

173号住居址(10~13) 10・11. 口径12cm、黄褐色、微石英粒含。12. 黒褐色、黄雲母・微石英粒含。13. 暗褐色、微石英粒含、外面赤色塗彩。

175号住居址(14~23) 14. 茶褐色。15. 暗褐色。16. 暗褐色。17. 暗褐色、石英粒含。18. 茶褐色、微石英粒含。19. 暗褐色、微石英粒含。20. 暗褐色、微石英粒含。21. 黄褐色、黄雲母含。22. 灰褐色。23. 暗褐色。14~16・22・23の胎土に黄雲母・石英粒含。

178号住居址(32・33) 32. 茶褐色、黄雲母含。33. 黄褐色、石英粒多含。

179号住居址(24~31) 24. 黒褐色、微石英粒含。25. 暗茶褐色、黄雲母・微石英粒含。26. 灰褐色、微石英粒含。27. 暗褐色、石英粒多含、外面赤色塗彩。28. 暗褐色、黄



雲母含。29. 暗褐色、黄雲母含。30. 茶褐色、石英粒多含、網代庄痕。31. 灰黄褐色、石英粒多含、布庄痕。

180号住居址(34・35) 34. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。35. 灰暗褐色、黄雲母・微石英粒含。

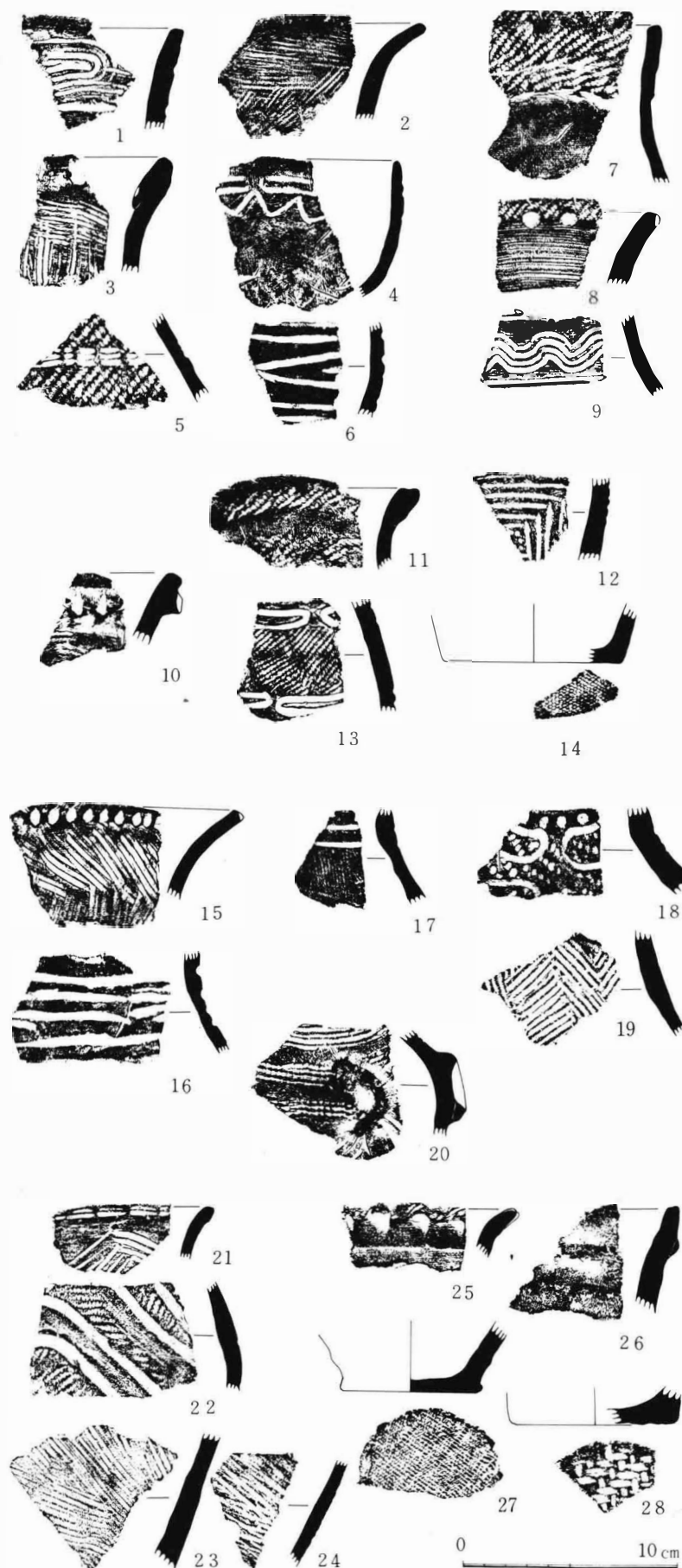
181号住居址(1・2) 1. 黄褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ヨコナデ整形。2. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。

182号住居址(3~18) 3. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。4. 黄白色、石英粒含。5. 黄白色、石英粒含。6. 灰褐色、黄雲母・微石英粒含。7. 口唇部に山形波状文、暗褐色、黄雲母・微石英粒含。8. 灰褐色、黄雲母・微石英粒含。9. 口径7.6cm、黄褐色、黄雲母・微石英粒含。10. 内面2段の櫛歯状工具による列点文、茶褐色、黄雲母含。11. 内面列点文状短線文、茶褐色、石英粒多含。12. 灰黄褐色、黄雲母含。

13. 暗褐色、微石英粒含。14. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。15. 黄褐色、石英粒多含、内面器面荒れ、下半に赤色塗彩痕。16. 黄褐色、黄雲母含。17. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。

183号住居址(18~25) 18. 黄褐色、黄雲母・石英粒含。19. 黄褐色、黄雲母含、内面ヨコナデ整形。20. 黄褐色、黄雲母・微石英粒含。21. 黒褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ヨコナデ整形。22. 黄褐色、黄雲母・微石英粒含。23. 灰黄褐色、微石英粒含、布庄痕。24. 暗褐色、黄雲母含、布庄痕。25. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含、布庄痕。

185号住居址(26~29) 26. 口



III-158 その他出土土器(10)

縁部肥厚、黄褐色、微石英粒含。27. 指頭による列点文、内面条痕文、灰褐色、黄雲母・微石英粒含。28. 口縁部の破片、コンパス文風波状文、灰黄褐色、微石英粒含。29. 灰黄褐色、微石英粒含。

184号(下)住居址(1~6) 1. 黄褐色、石英粒含。2. 黒褐色、黄雲母多含。3. 内面有段、黄褐色、黄雲母・微石英粒含。4. 椀形、暗褐色、黄雲母・石英粒含、赤色塗彩。5. 灰黄褐色、黄雲母含。6. 暗褐色、黄雲母含。

188号住居址(7~9) 7. 口縁部有段、暗茶褐色、黄雲母含。8. 暗褐色、黄雲母含。9. 茶褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ヨコナデ整形。

190号住居址(10) 口縁部に隆帯、灰黄褐色、石英粒多含。

195号住居址(11~14) 11. 口唇部凹む、黄褐色、石英粒含。12. コの字重文、茶褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ハケナデ整形。13. 暗褐色、黄雲母含。14. 茶褐色、黄雲母・微石英粒含、布圧痕。

196号住居址(15・16) 15. 黄褐色、黄雲母含、内面ナデ整形。16. 灰黄褐色、微石英粒含。

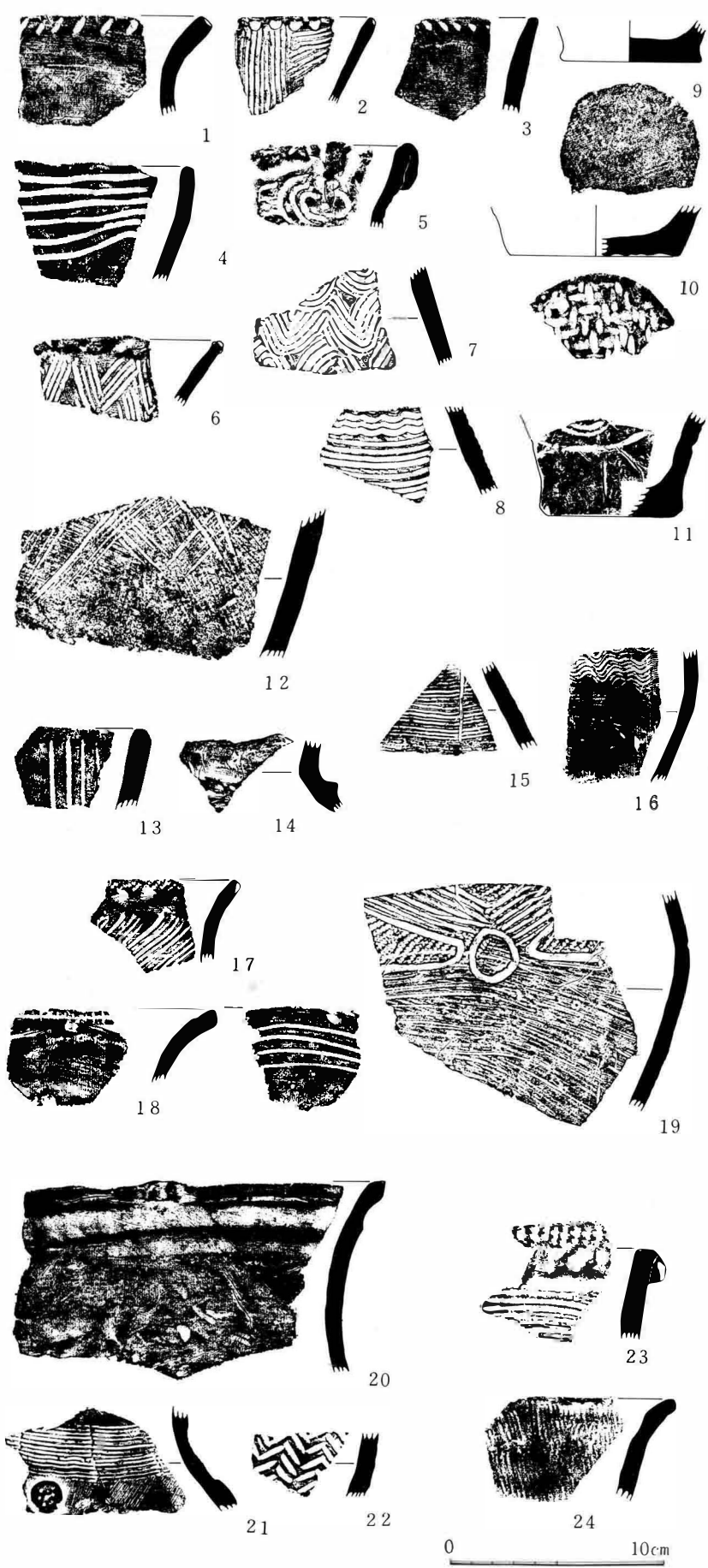
197号住居址(17) 暗褐色、黄雲母・微石英粒含、外面ヘラミガキ・内面ナデ整形。

198号住居址(18・19) 18. 棒状工具の刺突文、黄褐色、黄雲母・微石英粒含。19. 黄褐色、石英粒多含。

199号住居址(20) 耳状貼付文、暗褐色、黄雲母・微石英粒含。

201号住居址(21~24) 21. 暗褐色、石英粒含。22. 茶褐色、黄雲母・石英粒多含。23. 灰褐色、黄雲母・石英粒含。24. 灰黄褐色、黄雲母・微石英粒含。

208号住居址(25~28) 25. 茶褐色、黄雲母含。26. 黄褐色、石英粒含。27. 布圧痕。28. 網代圧痕。



二号溝址 (1~11) 1. 灰褐色、微石英粒含、内面ヨコナデ整形。2. 灰褐色、石英粒含。3. 黒褐色、黄雲母含、内面ヨコヘラミガキ整形。4. 暗褐色、微石英粒含、内面ヨコヘラナデ整形。5. 口縁部貼付文、黄褐色、微石英粒含。6. 暗褐色、黄雲母含。7. 黄褐色、微石英粒含。8. 暗褐色、微石英粒、内面ヨコナデ整形。9. 暗褐色、石英粒・黄雲母含、布圧痕。10. 灰茶褐色、微石英粒含、網代圧痕。11. 茶褐色、微石英粒含。

4号溝址 (12) 暗褐色、黄雲母・石英粒多含。内面ヨコヘラナデ。

10号溝址 (15・16) 15. 黄褐色・石英粒含。16. 黄褐色、黄雲母、微石英粒含、内面ヘラナデ整形。

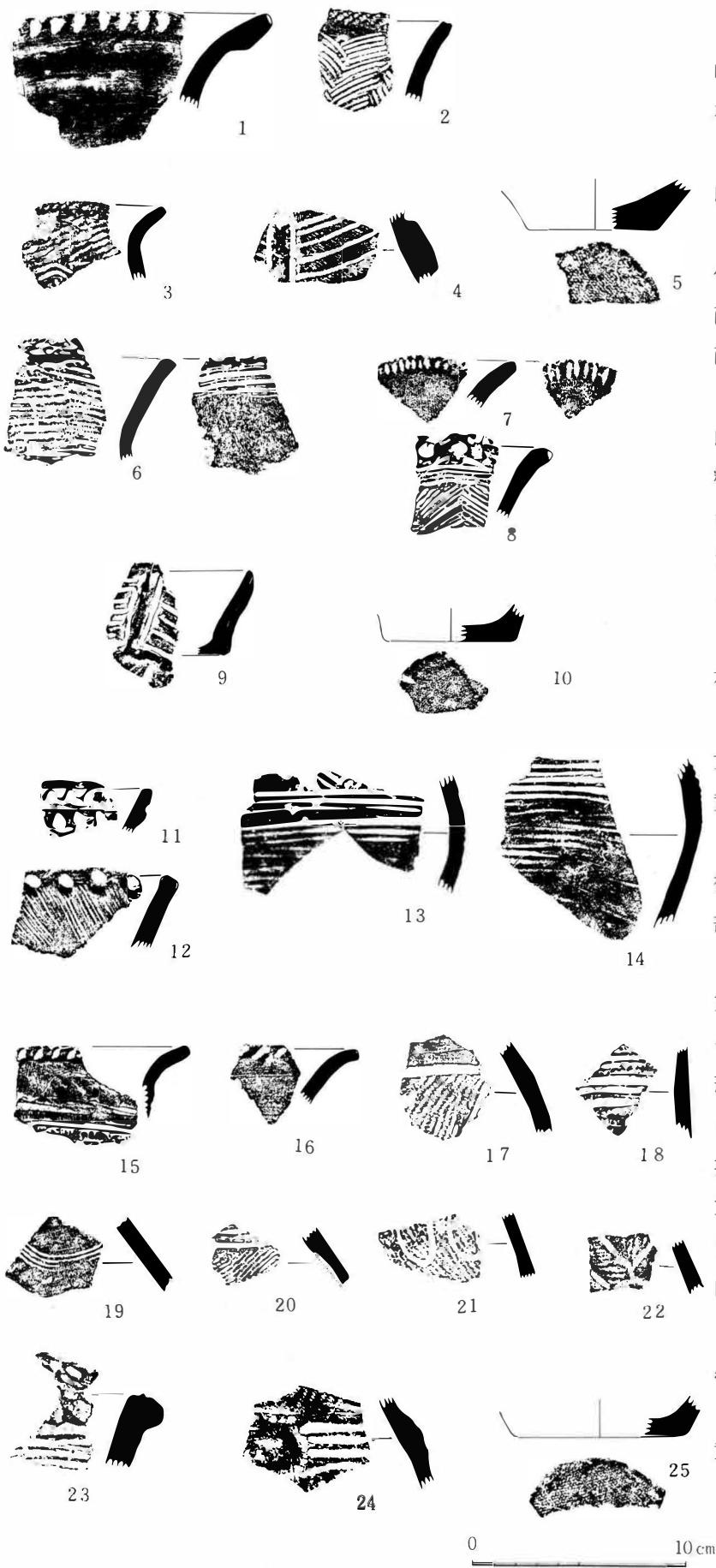
12号溝址 (13) 茶褐色、微石英粒含。

15号溝址 (14) 突帯、黄褐色、石英粒含、外面突帯より上は赤色塗彩、内面ヨコナデ整形。

16号溝址 (17~19) 17. 黄褐色、黄雲母含、内面ヨコヘラミガキ整形。18. 外面無文、内面平行線文、灰褐色、黄雲母・微石英粒含。19. 黄褐色から暗褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ヨコハケナデ整形。

19号溝址 (20~22) 20. 口縁部に突起、暗褐色、黄雲母・微石英粒含、内外面ヘラナデ整形。21. 貼付文、赤褐色、黄雲母含、平行線文の上部は内外とも赤色塗彩。22. 灰褐色、微石英粒含。

20号溝址 (23・24) 23. 口縁部に隆帯、黄褐色、黄雲母・石英粒多含、内面ヨコナデ整形。24. 暗褐色、石英粒含。



20号溝址(1・2) 1. 口縁部有段、暗茶褐色、微石英粒含。2. 灰褐色、微石英粒含。

23号溝址(3) 暗褐色、石英粒含、内面ヨコナデ整形。

26号溝址(4・5) 4. 垂下する貼付文、黄褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ナデ整形。5. 暗褐色、石英粒含、内面凹凸がある。

28号溝址(6~9) 6. 外面条痕文、内面平行線文、灰黄白色、黄雲母・石英粒含。7. 口唇部内外面に列点文、灰褐色、微石英粒含。8. 口縁部肥厚、暗褐色、黄雲母含。9. 小形浅鉢、口縁部から底部にかけ隆線、暗褐色、黄雲母含。

29号溝址(10) 暗褐色、黄雲母、微石英粒含、布圧痕。

ハ号溝址(11・12) 11. 二段の列点文、暗黒褐色、石英粒含。12. 黄褐色、黄雲母含。

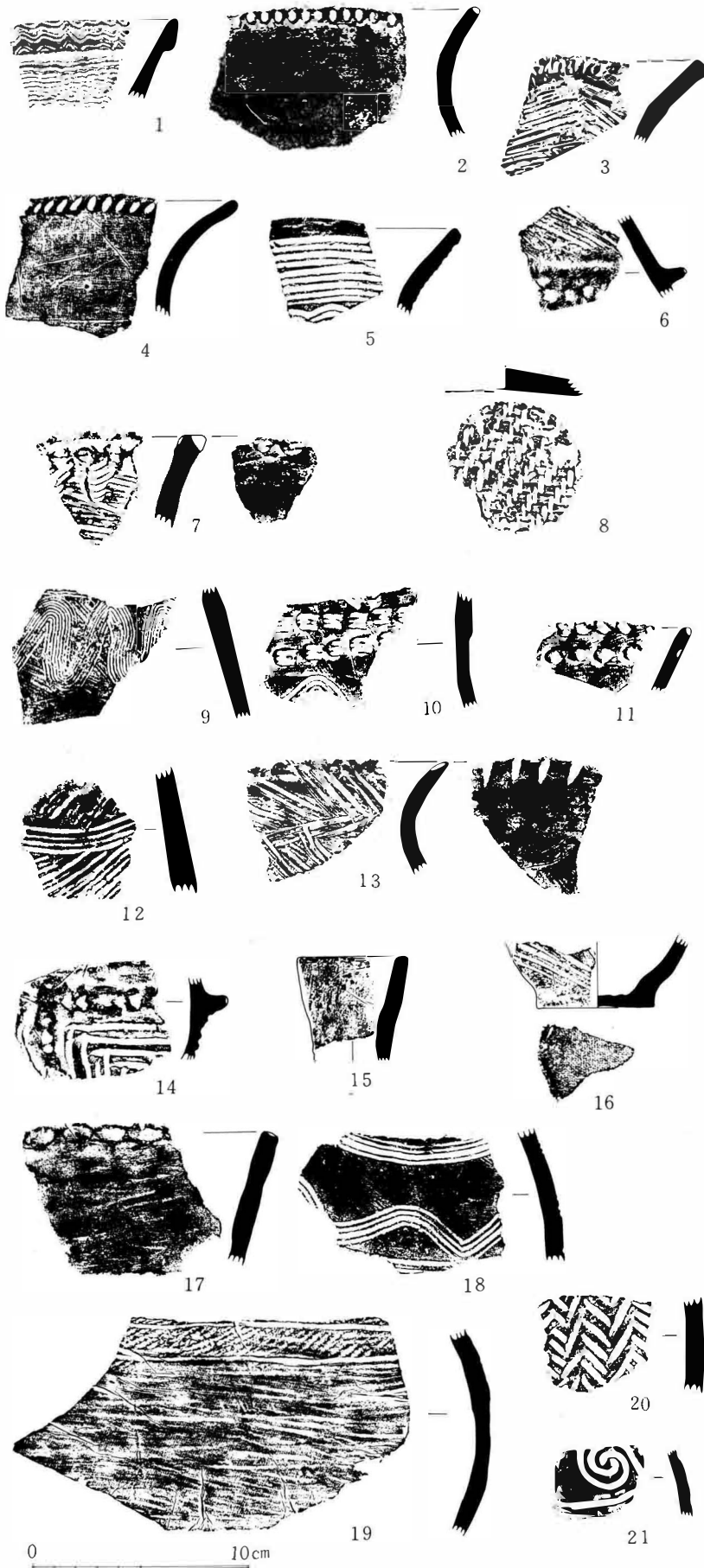
口号住居址(13・14) 同一個体、暗褐色、内面灰色、黄雲母・石英粒含、体部上半に赤色塗彩。

187号住居址南壁の土壇(15~22) 15. 暗黄褐色、微石英粒含、外面タテハケ整形のち平行沈線文、内面ヨコナデ整形。16. 灰黄褐色、黄雲母含、内外面ヨコナデ整形。17. 灰黄褐色、黄雲母・石英粒含。18. 灰褐色、黄雲母・石英粒含。19. 赤褐色、黄雲母・石英粒含、外面ヘラミガキ整形。20. 灰茶褐色、黄雲母含、内面ナデ整形。21. 灰褐色、黄雲母含。

2号井戸址(23) 口縁部に隆帯、灰黒褐色、石英粒含。

集石址(24・25) 24. 体部に突起、黄褐色、黄雲母含、25. 布圧痕。

III-160 その他出土土器(12)



土壙 4 (1) 茶褐色、黄雲母含、内面へラミガキ整形。

土壙 7 (2) 暗黄褐色、石英粒含、外面ヨコナデ・内面ヨコナデ。

136号(下)住居址土壙 14 (3~6) 3. 灰色、石英粒含。4. 暗茶褐色、黄雲母含、内面ヨコナデ整形。5. 黄褐色、微石英粒。6. 体部突起帯、暗褐色、微石英粒含。

土壙 34 (7) はね上げ波状文、暗茶褐色、石英粒含、内面ナデ整形。

土壙 36 (9・10) 9. 黄褐色、石英粒含、外面下半へラミガキのち赤色塗彩・内面ナデ整形。10. 暗褐色、小砂粒含、外面ハケのちナデ・内面ハケ整形。

土壙 38 (8) 暗褐色、石英粒含。

土壙 47 (11) 暗褐色、石英粒含、内面ナデ整形。

土壙 50 (12) 暗褐色、黄雲母含、体部上半へラミガキ・内面ナデ。

土壙 52 (13) 暗褐色、石英粒含、内面ナデ整形。

土壙 68 (14) 横・縦に突帯、黒褐色、黄雲母・石英粒多含。

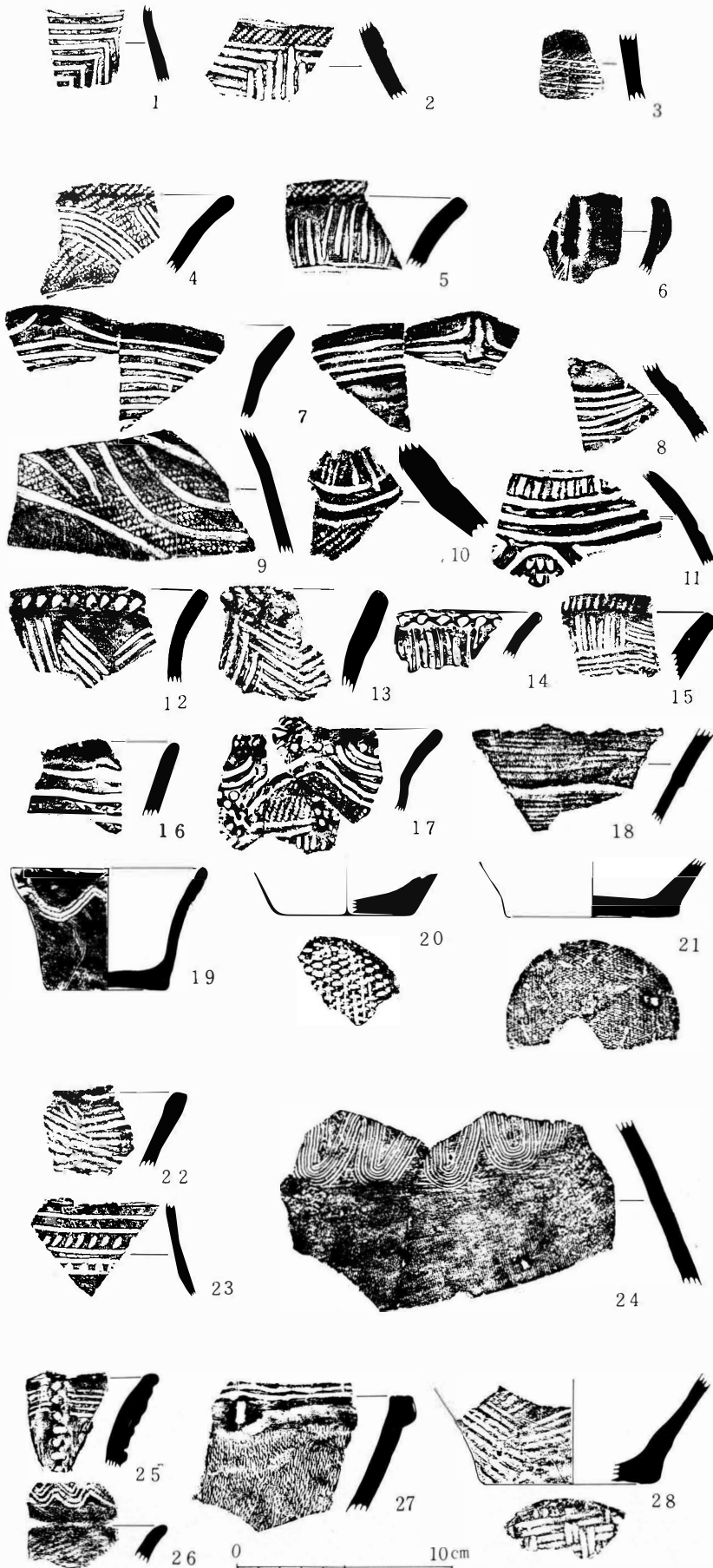
土壙 102 (16) 暗褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ナデ整形。

土壙 105 (15) 口径5 cm、灰黄褐色、微石英粒含、内面ナデ整形。

土壙 115 (17・18) 17. 暗褐色、石英粒含、内外面ナデ整形。18. 暗褐色、小砂粒含、外面へラミガキ・内面ナデ整形。

土壙ルの北壁(19) 暗褐色、黄雲母含、外面へラミガキ・内面ハケナデ整形。

20号墓壙北の土壙 (20・21) 20. 茶褐色、石英粒含。21. 暗褐色、黄雲母・石英粒含、外面へラミガキ整形。



A区(1・2) 1. 黒褐色、微石英粒含、内面へラナデ整形。2. 灰褐色、微石英粒含、内面へラナデ整形。

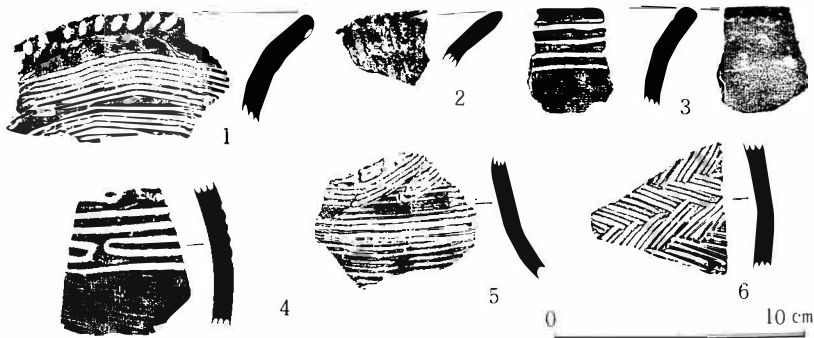
B区(3) 茶褐色、小砂粒含。

C区(4~21) 4. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。5. 黒褐色、黄雲母含。6. 貼付文、内外面赤色塗彩、黄雲母含。7. 波状口縁、灰黄褐色、小砂粒含。8. 灰黄褐色、黄雲母・微石英粒含。9. 暗褐色、微石英粒含、内面ナデ整形。10. 黄褐色、微石英粒含、体部上半赤色塗彩。11. 灰暗褐色、微石英粒含。12. 黄褐色、黄雲母・微石英粒含。13. 茶褐色、石英粒含。14. 暗茶褐色、黄雲母多含。15. 茶褐色、微石英粒含。16. 波状口縁、スス付着、黒褐色、微石英粒含。17. 口縁部に突起文、茶褐色、石英粒含。18. 有段口縁、暗黒褐色、石英粒多含。19. 口径9.0 cm・底径5.4 cm・器高5.6 cm、黒褐色、黄雲母・微石英粒含。20. 暗褐色、微石英粒含、網代圧痕。21. 暗褐色、石英粒多含、布圧痕。

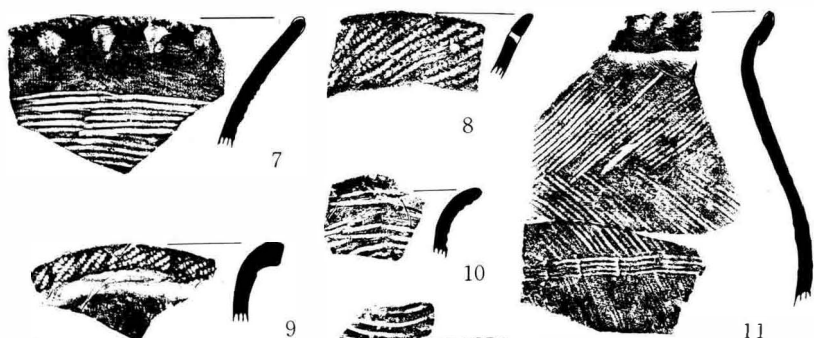
D区(22~24) 22. 口縁内部有段、赤茶褐色、黄雲母・微石英粒含。23. 黄褐色、石英粒多含。24. 茶褐色、石英粒多含、外面文様帯下は赤色塗彩。

L区(25~28) 25. 垂下する隆帯文、灰褐色、微石英粒含。26. 内面に波状文、灰黄褐色、微石英粒含。27. 口唇部に平行線文、口縁部に突起、撚糸文、黒褐色、微石英粒含。28. 灰黄褐色、黄雲母多含、底面網代圧痕。

III-162 その他出土土器(14)



F区(1~6) 1. 茶褐色、微石英粒含。2. 灰白褐色、石英粒含。3. 暗褐色、微石英粒多含、内外面へラミガキ整形。4. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。5. はね上げ文、灰褐色、黄雲母・微石英粒含。6. 暗褐色、黄雲母含。



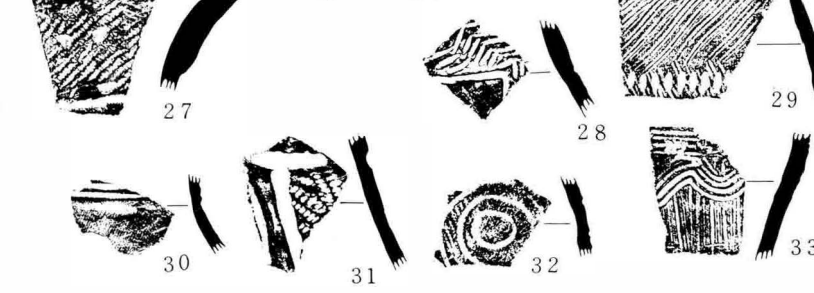
K区(7~33) 7. スズ附着、暗褐色、黄雲母・微石英粒含。8. 外からの円孔、黄褐色、黄雲母・微石英粒含。9. 茶褐色、黄雲母・微石英粒含。10. 黄褐色、微石英粒含。11. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ナデ整形。



12. 茶褐色、石英粒含。13. 口唇部に平行線文・刺突文、有段口縁、黄褐色、黄雲母含。14. 暗褐色、黄雲母含。15. 茶褐色、黄雲母多含。16. 暗褐色、石英粒含。17. 2円孔、暗茶褐色、微石英粒含。18. 暗褐色、黄雲母含。19. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含、内面ハケナデ整形。

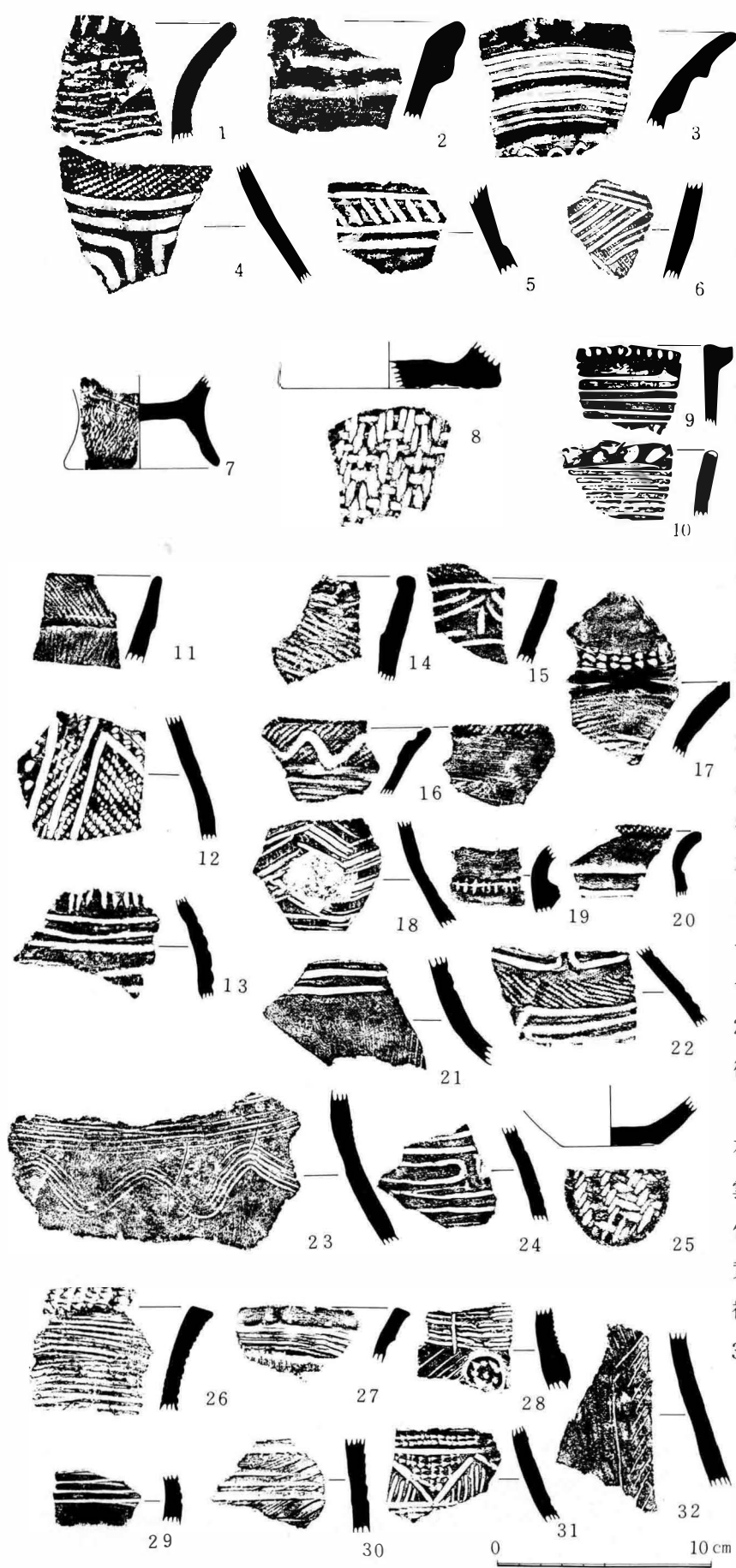


20. 内面に沈線文、灰黄褐色、石英粒含。21. 茶褐色、黄雲母含。22. 茶褐色、黄雲母含、外面に赤色塗彩、内面細かいハケナデ整形。23. 暗褐色、黄雲母含。24. 口縁部に隆帯、黄褐色、微石英粒含。25. 赤褐色、黄雲母・微石英粒含。26. 茶褐色、黄雲母・微石英粒含。27. 口縁部有段、黄褐色、黄雲母・微石英粒含。28. 黄褐色、微石英粒含。29. 暗褐色、黄雲母含。30. 灰白色、微石英粒含、内外面へラミガキ整形。



31. 灰黄褐色、微石英粒含。32. 黒褐色、微石英粒含。33. 暗褐色、微石英粒含。

III-163 その他出土土器(15)



H区(1~8) 1. 黒褐色、微石英粒含。2. 口縁部突帯文・貼付文、黄褐色、黄雲母・微石英粒含。3. 波状口縁、2本の突帯、灰黄褐色、黄雲母・石英粒含。4. 黄褐色、黄雲母含。5. 黄褐色、微石英粒含。6. 黄褐色、黄雲母・微石英粒含。7. 台付、黄褐色、黄雲母・微石英粒含。8. 灰黒褐色、微石英粒含。

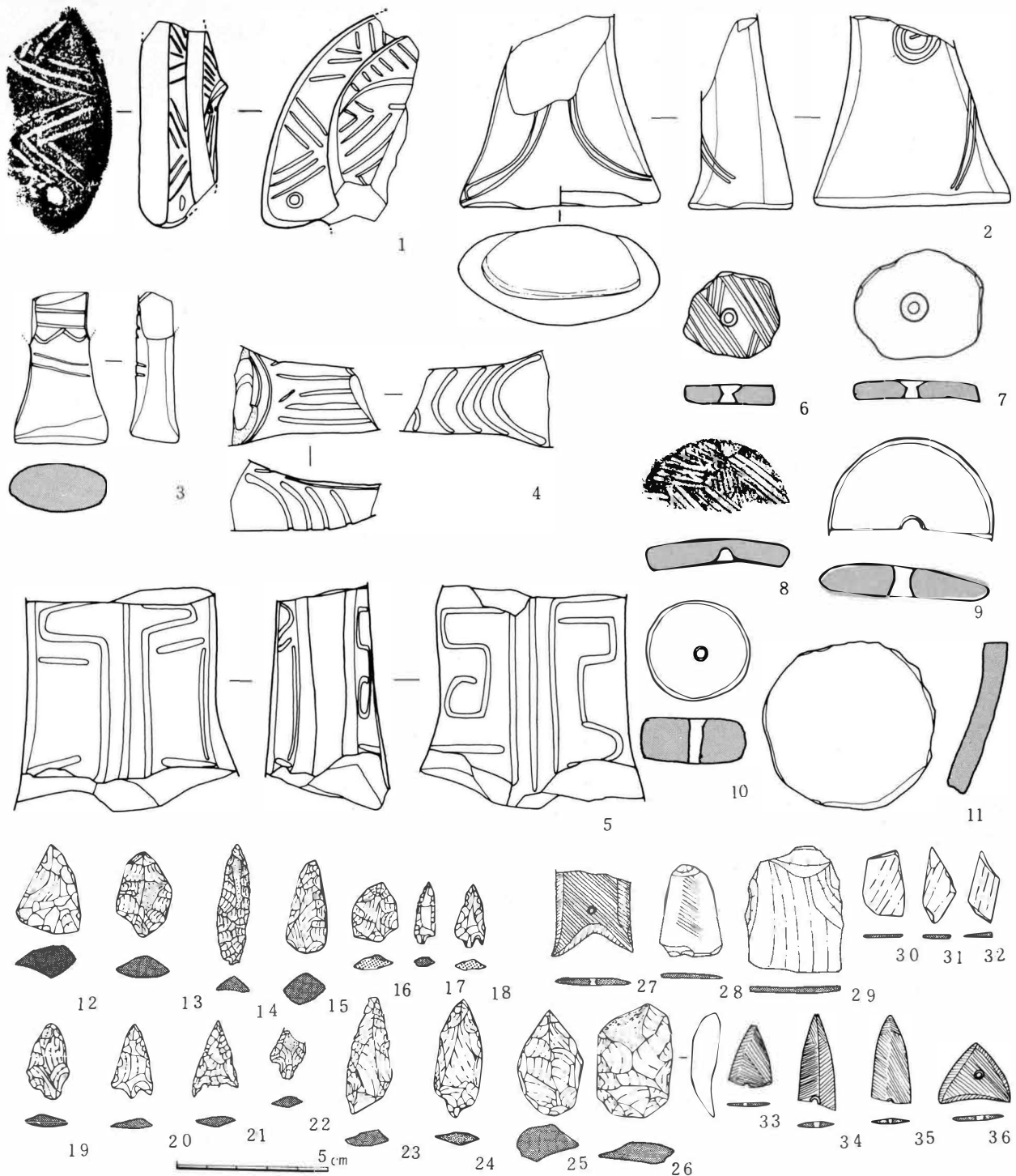
M区(9.10) 9. 口縁部突帯状に肥厚、黄褐色、黄雲母含。10. 灰白褐色、微石英粒含。

I区(11~13) 11. 口縁部有段、暗褐色、黄雲母・微石英粒含、頸部下に赤色塗彩。12. 茶褐色、黄雲母含。13. 灰白褐色、微石英粒含。

E区(14~25) 14. 内面凹む、灰白色、黄雲母含。15. 暗褐色、微石英粒含。16. 口縁部内面が有段、黄褐色、黄雲母含。17. 口唇部に櫛歯状工具による押引様列点文、暗褐色、黄雲母含。18. 暗褐色、微石英粒含。19. 頸部隆帯、黄褐色、微石英粒含。20. 削り出し隆帯、黄褐色、黄雲母・微石英粒含。21. 暗褐色、黄雲母・微石英粒含。22. 赤褐色、微石英粒含。23. 灰褐色、黄雲母・微石英粒含。24. 灰暗褐色、黄雲母含。25. 灰褐色、微石英粒含、底部網代圧痕。

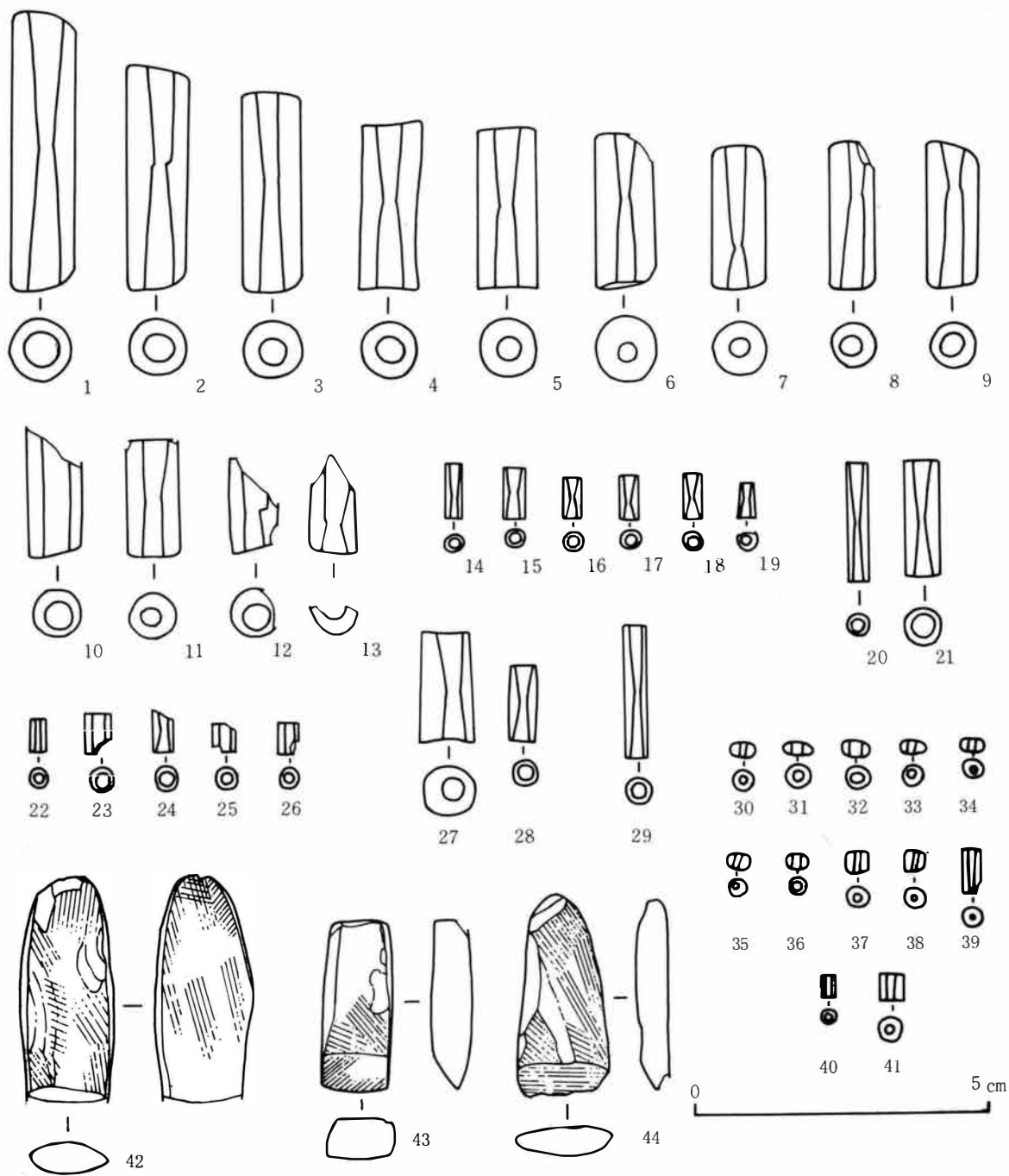
その他(26~32) 26. 黄褐色、黄雲母・石英粒含。27. 口縁部有段、黄褐色、黄雲母含、内面ハケのちナデ整形。28. 貼付文、茶褐色、小砂粒含。29. 黄褐色、黄雲母含、外面へラミガキ整形。30. 暗褐色、黄雲母含。31. 黄褐色、黄雲母含。32. 茶褐色、石英粒・黄雲母含。

III-164 その他出土土器(16)



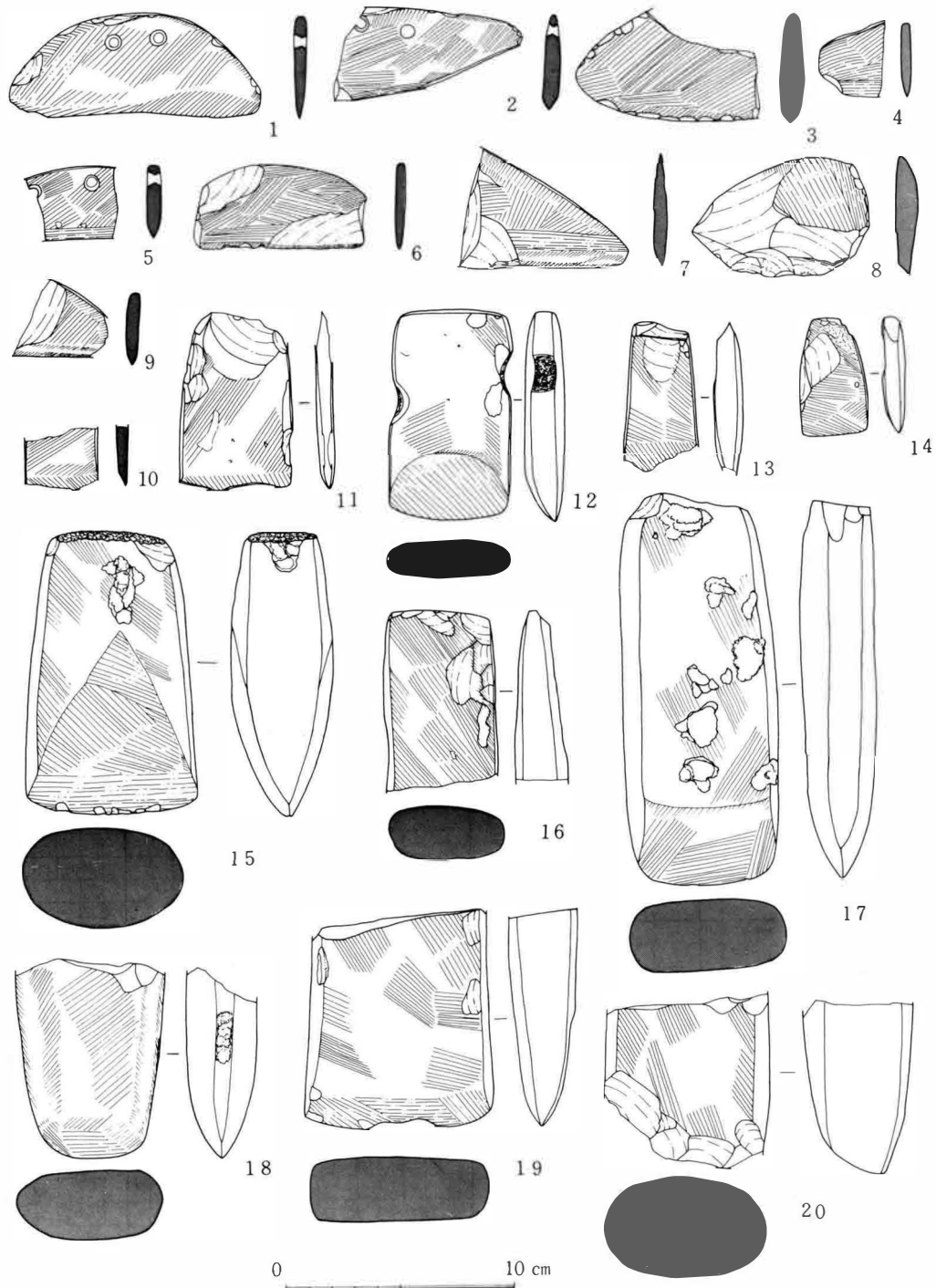
1 (SB 120)、2 (SB 91)、3 (SB 77)、4 (B区)、5 (22号墓壙)、6 (SB 111)、7 (SB 115)、8・9 (F・P 1) 土製、10 (B区)、土製、11 (SD-) 赤色塗彩土器片、12 (H区) 流紋岩、13 (SK 39)、14 (SD 25)、15 (6号墓壙)、16 (SB 84)、17 (15号墓壙)、18 (SB 109)、19 (SB 91)、20 (22号墓壙)、21 (SK 7)、23 (SB 120)、24 (SB 160)、26 (表採) チャート、27~32 (SB 209)、33 (SB 109)、34 (SB 128)、35 (SD 20)、36 (K区)、37 (SB 160) 17-19 頁岩、27~36 綠色片麻岩、他は黒曜石製である。

III-165 土製品・石鏃・搔器・石核



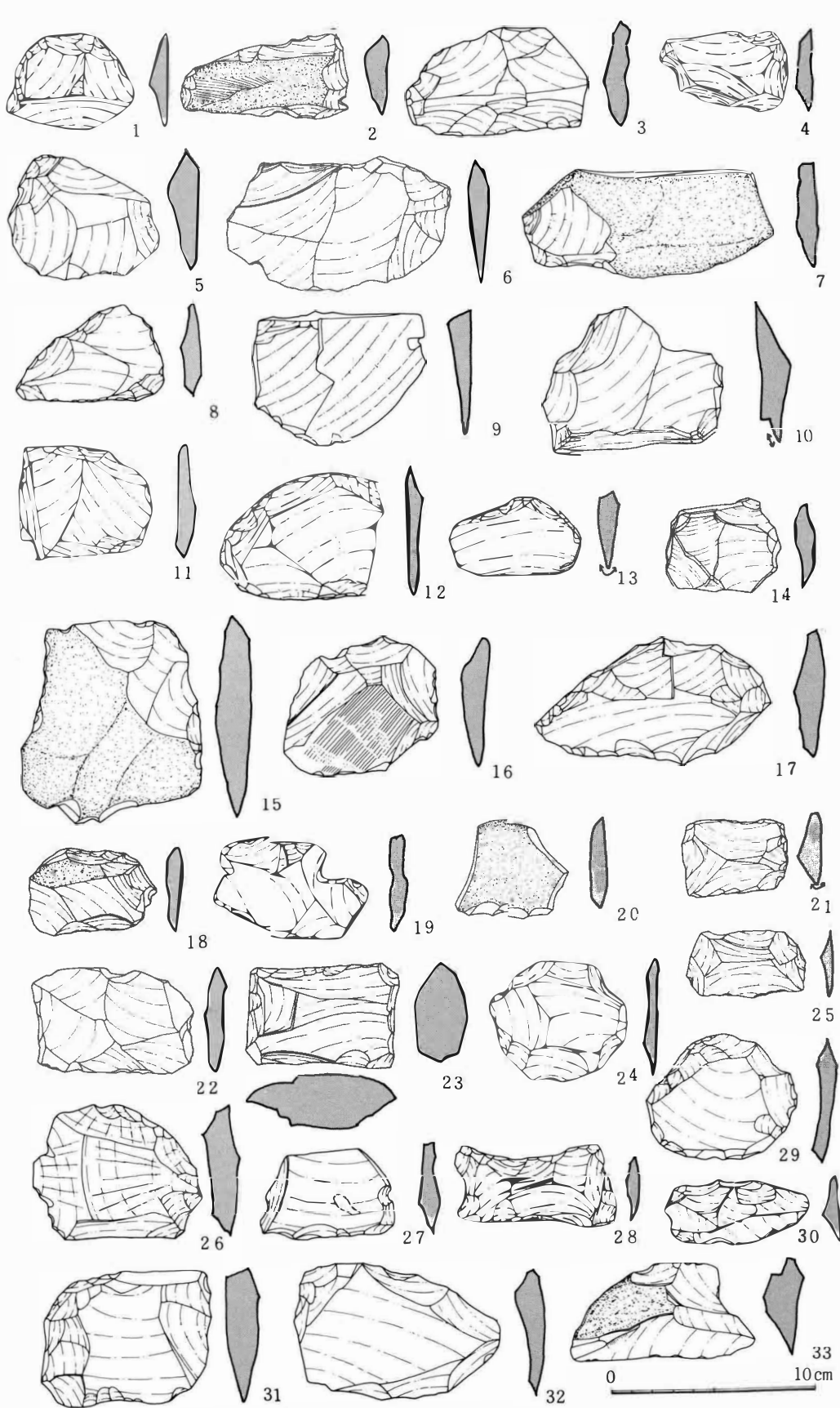
III-166 玉類(1~41), 小形片刃石斧(42~44)

1~13 (2号墓壙) 1~10は綠色凝灰岩・11~13は碧玉製の管玉。14~19(6号墓壙) 綠色凝灰岩製管玉。14・15は2分割・16は完形でともに内外面に赤色顔料付着する。20・21(15号墓壙) 完形・碧玉製管玉。22~26(18号墓壙) 23の綠色凝灰岩の他は碧玉製管玉、23~26の欠損部はみがかれ再使用する。27~28(21号墓壙) 27は碧玉製・28は綠色凝灰岩製管玉。29(SB 3の溝) 碧玉製管玉。30~39(合口壺棺) 30~38はライトブルーのガラス小玉、39は鉄石英製管玉。40(SB 48) 綠色凝灰岩製管玉。41(SB 58) 滑石製管玉。42(SB 18) 蛇紋岩製偏平片刃石斧。43(SB 114) 碧玉製偏平片刃石斧。44(F区) 碧玉製偏平片刃石斧。



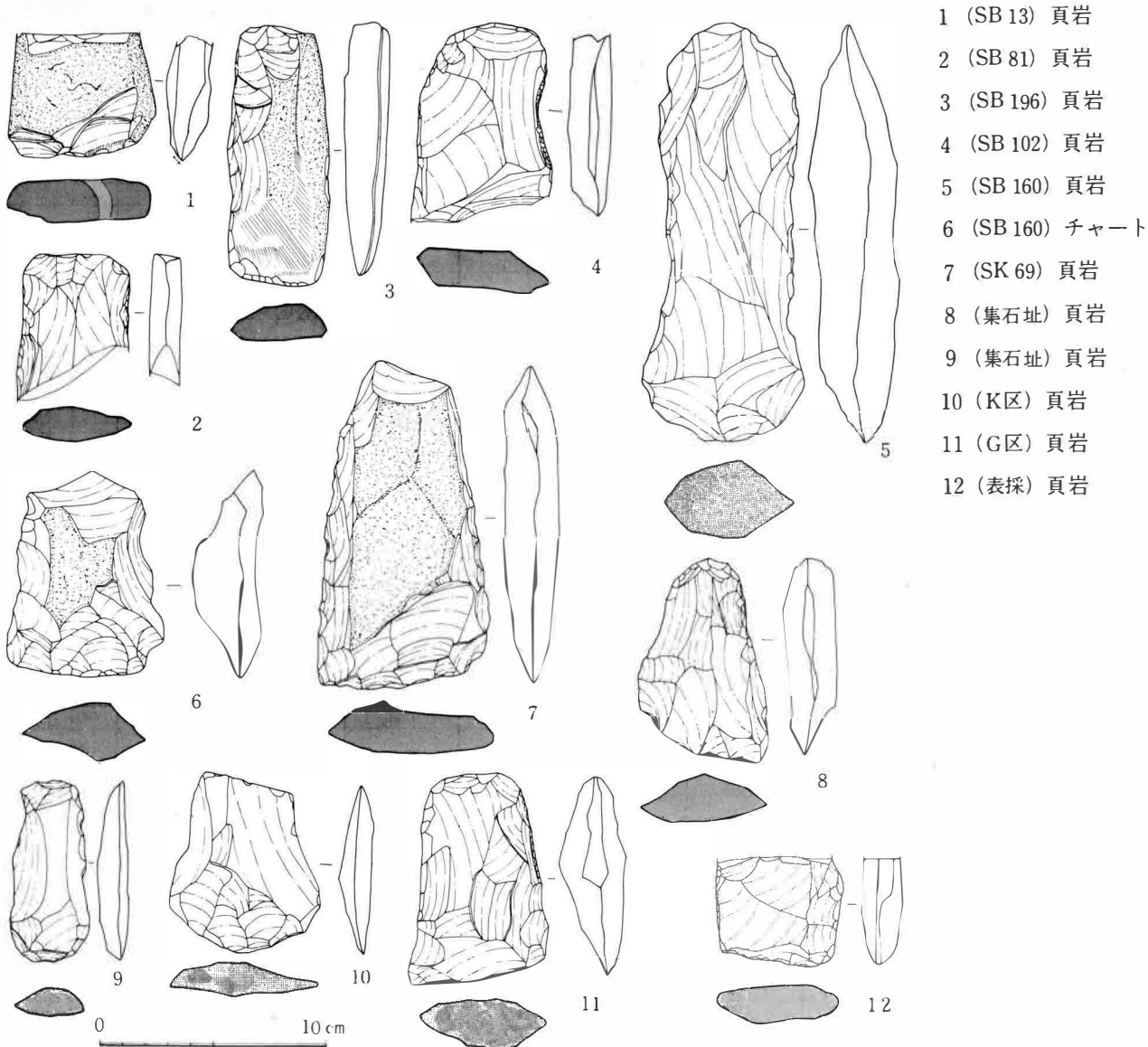
III-167 磨製石包丁(1~9), 片刃石斧(10~14), 太形蛤刃石斧(15~20)

1.(SB 118)内ぞり刃で、2孔うがたれる。頁岩製。2.(SB 182(下))外反り刃で2孔うがたれる。頁岩製。3.(SB 189)外反り刃になるが半分は欠損する。ひん岩製。4.(SB 201)外反り刃と思える。頁岩製。5.(SDハ)直刃で、2孔うがたれる。頁岩製。6.(A区)未製品であろうか、剝離面を残し、円孔がうがたれない。頁岩製。7.(K区)半分以上欠損する。頁岩製。8.(26号墓壙)未製品で、一部が磨かれるほか裏面とも剝離面のままである。頁岩製。9.(表採)頁岩製。10.(SB 124)上半を欠損する。頁岩製。11.(SB 105)上部は欠損するが、完成品であろう。頁岩製。12.(SB 109)挟入扁平片刃石斧で、この形態のものは、今回の調査で唯一のものである。石英閃緑岩製。13.(SB 184)上部と刃部は欠損する。頁岩製。14.(SB 123 炉)頭部に打痕があり、横断面は丸味を有する。15.(SB 128)刃部付近を欠損する。16.(集石址)ほぼ完形である。17.(表採)上半は欠損し、側面に打痕がある。18.(表採)上半を欠損する。刃部は末広がりになる。19.(SB 11 付近)上半部及び刃部を欠損する。体部に丸味がある。以上は石英閃緑岩製である。



- 1 (SB 22) 頁岩
- 2 (SB 31) 頁岩
- 3 (SB 39) 頁岩
- 4 (表採) 頁岩
- 5 (SB 87) 頁岩
- 6 (SB 106) 安山岩
- 7 (表採) 頁岩
- 8 (SB 120) 頁岩
- 9 (SB 117) 頁岩
- 10 (SB 117) 安山岩
- 11 (SB 120) 安山岩
- 12 (SB 123) 頁岩
- 13 (SB 130) 頁岩
- 14 (SB 140) 安山岩
- 15 (SB 141) 頁岩
- 16 (SB 142) 安山岩
- 17 (SB 173) 安山岩
- 18 (SB 154) 頁岩
- 19 (SB 160) 安山岩
- 20 (SB 81) 頁岩
- 21 (SB 183) 頁岩
- 22 (SB 207) 安山岩
- 23 (SB 207) 硬砂岩
- 24 (SB 186) 頁岩
- 25 (表採) 頁岩
- 26 (SD 24) 頁岩
- 27 (SD 11) 頁岩
- 28 (B区) 頁岩
- 29 (SD 20) 頁岩
- 30 (表採) 安山岩
- 31 (集石址) 頁岩
- 32 (M区) 頁岩
- 33 (SD 28) 頁岩

III-168 横刃石器(打製石包丁)



- 1 (SB 13) 頁岩
- 2 (SB 81) 頁岩
- 3 (SB 196) 頁岩
- 4 (SB 102) 頁岩
- 5 (SB 160) 頁岩
- 6 (SB 160) チャート
- 7 (SK 69) 頁岩
- 8 (集石址) 頁岩
- 9 (集石址) 頁岩
- 10 (K区) 頁岩
- 11 (G区) 頁岩
- 12 (表採) 頁岩

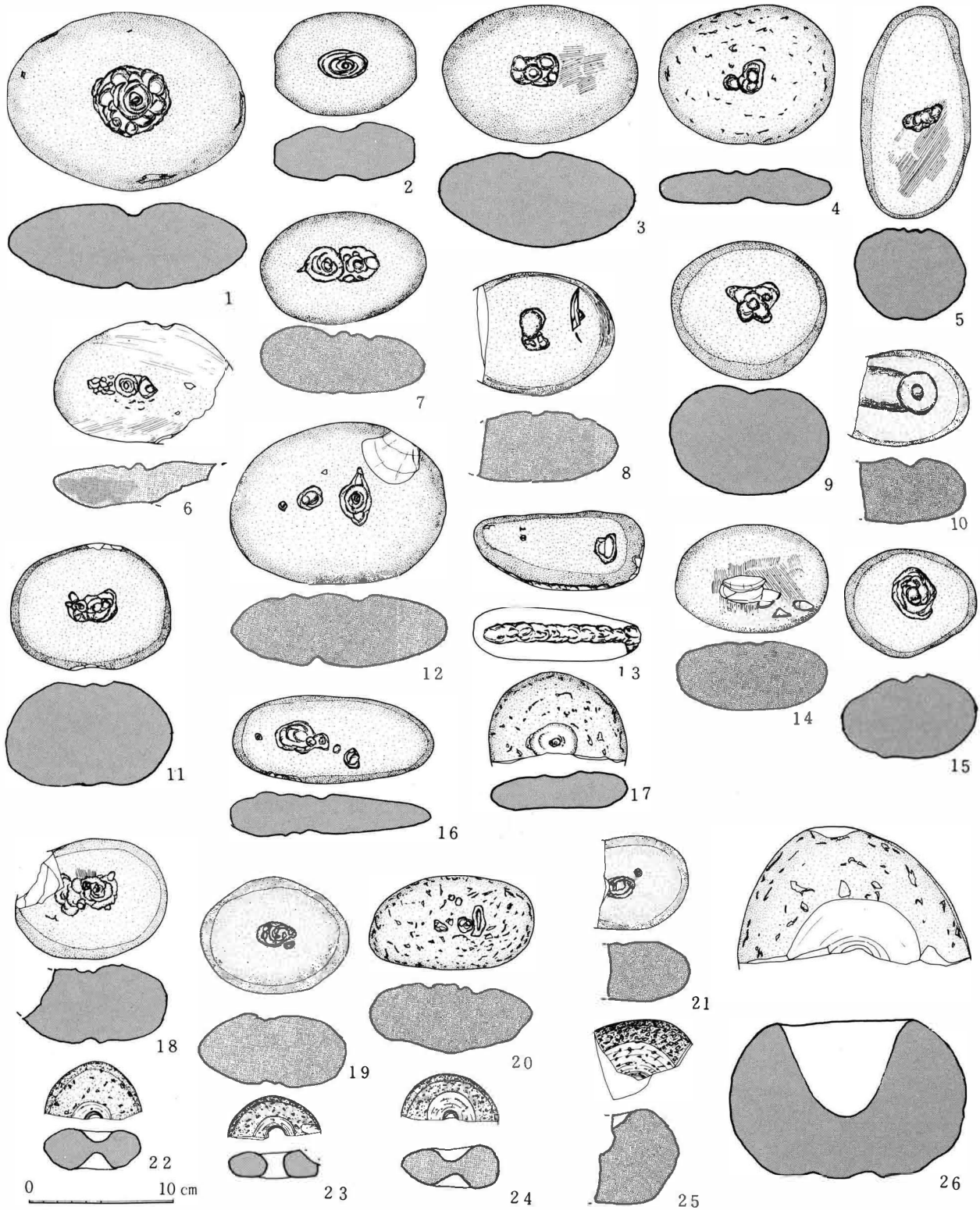
III-169 打製石斧

本来これらの土製品・石器は、弥生時代中期に位置づくものと考えられている。遺構と時期的に合うものは、以下のとおりである。

III-153 図1～39 までの木棺墓出土の管玉、及び弥生時代後期壺棺出土のガラス小玉と管玉は、身に付けていたものであろう。

住居址に伴うものは、109号住居址の磨製石鏃(III-165-33)、118号住居址の磨製石包丁(III-167-3)、120号住居址の打製石鏃(III-165-23)・横刃石器(III-168-8・11)・土偶(III-165-1)、123号住居址の横刃石器(II-168-12)・太形蛤刃石斧(III-167-15)、207号住居址の横刃石器(III-168-22)、及び弥生時代後期初頭の209号住居址から磨製石鏃・同未製品・剥片(III-165-27~36)、弥生時代後期後半のファイアerpit(F.P1)より土製紡錘車(III-165-8・9)が出土しているにすぎない。他は覆土に含まれた遺物と考えられる。

次頁から紹介する磨石、凹石等は、弥生時代から平安時代の住居址から出土しており、時期を断定することができない。また砥石も弥生時代後期から出現するものと考えられるが、磨製品が中期からみられ、これも一様には考えられなく、果たして出土遺構に付属するかは今後の検討を待ちたい。



III-170 凹石(1~24), 石臼(25・26)

1 (SB 38) 安山岩、両面が凹む。2 (SB 43) 安山岩、両面使用。3 (SB 117) 片面使用で磨石でもある。4 (SB 77) 安山岩、扁平で両面使用する。5 (SB 155) 安山岩、両面使用で磨石として使われる。6 (SB 92) 安山岩、両端は磨石として使用。7 (SB 107) 安山岩、両面使用。8 (SB 153) 安山岩、片面使用。9 (SB 184) 安山岩、片面使用。10 (SB 153) 両面使用。11 (SK 70) 安山岩、両面使用。12 (SB 77) 安山岩、両面使用。13 (表採) 安山岩、片面使用。14 (表採) 安山岩、片面使用。15 (SK 115) 安山岩、両面使用。16 (集石址) 安山岩、両面使用。17 (表採) 安山岩、片面が凹む。18 (SK 113) 安山岩、両面使用。19 (SK113) 安山岩、両面使用。20 (表採) 安山岩、両面使用。21 (F.P3) 安山岩、片面使用。22 (K区) 安山岩、両面使用。23 (22号墓壙) 安山岩、環状。24 (SB197) 安山岩、両面使用。25 (表採) 石臼、軽石。26 (SB199) 石臼、安山岩。



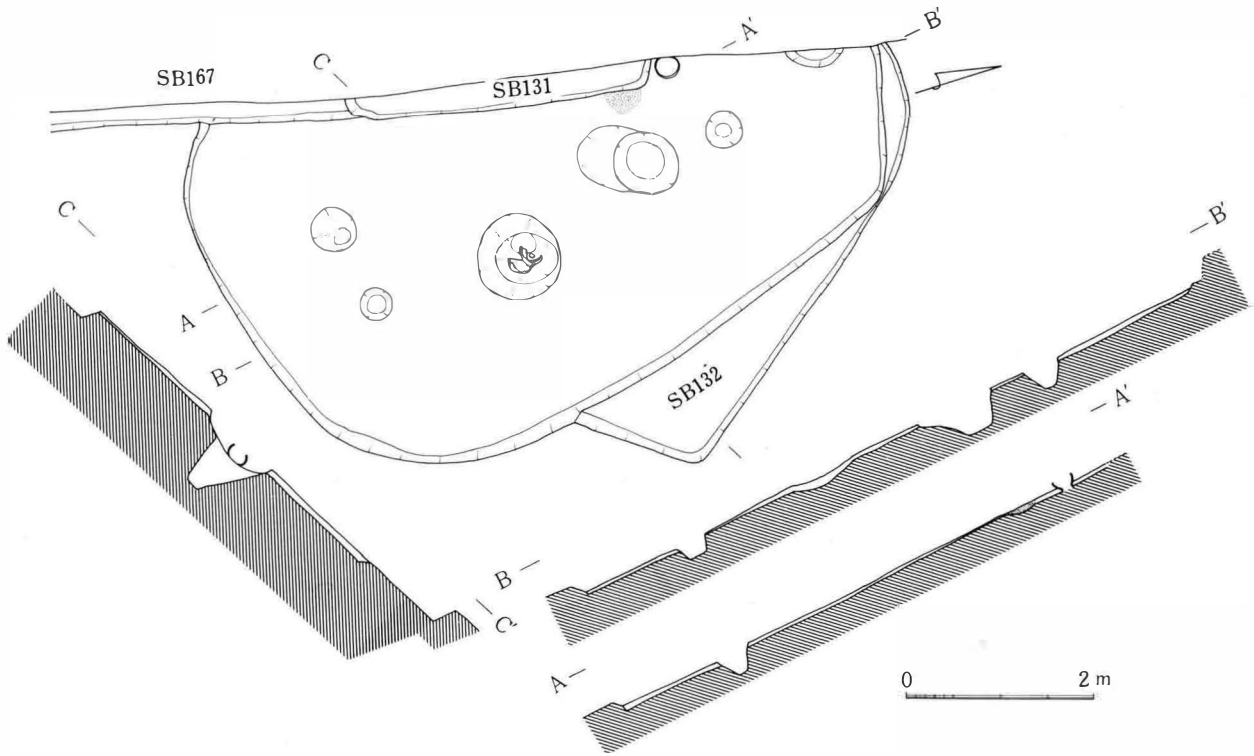
III-171 敲打器 (1~7), 砥石 (8~28), 磨石 (29~38)

1 (SB 43) 磨石。2 (SB 15) 磨石。3 (表採)。4 (B区)。5 (SD 18)。6 (SK 130)。7 (表採) 磨石。8 (B区) 定角。9 (SB 114)。10 (SB 179)。11·12·13 (表採)。14 (SB 10)。15·16 (SB 9)。17 (SB 16)。18 (SD 26)。19 (SB 75)。20 (B区)。21 (SD口)。22 (SB 128)。23 (SB 109)。24 (SB 8)。25 (SB 56)。26 (SB 21)。27 (SD=)。28 (SB 155)。29 (表採)。30·32~34 (SB 4)。31 (SB 21)。35~37 (SB 120)。38 (SB 101)。39 (井戸址1) 片麻岩自然石。

安山岩 (1~4·7·25)、硬砂岩 (5·6)、泥岩 (8)、砂岩 (9~14·16·18~24·26·27)、軽石 (15)、凝灰岩 (17)、石英閃緑岩 (28)、ひん岩 (30)、頁岩 (31·32)。

(矢口忠良)

第3節 弥生時代後期前半の遺構と遺物



III-172 109号・131号・132号住居址実測図

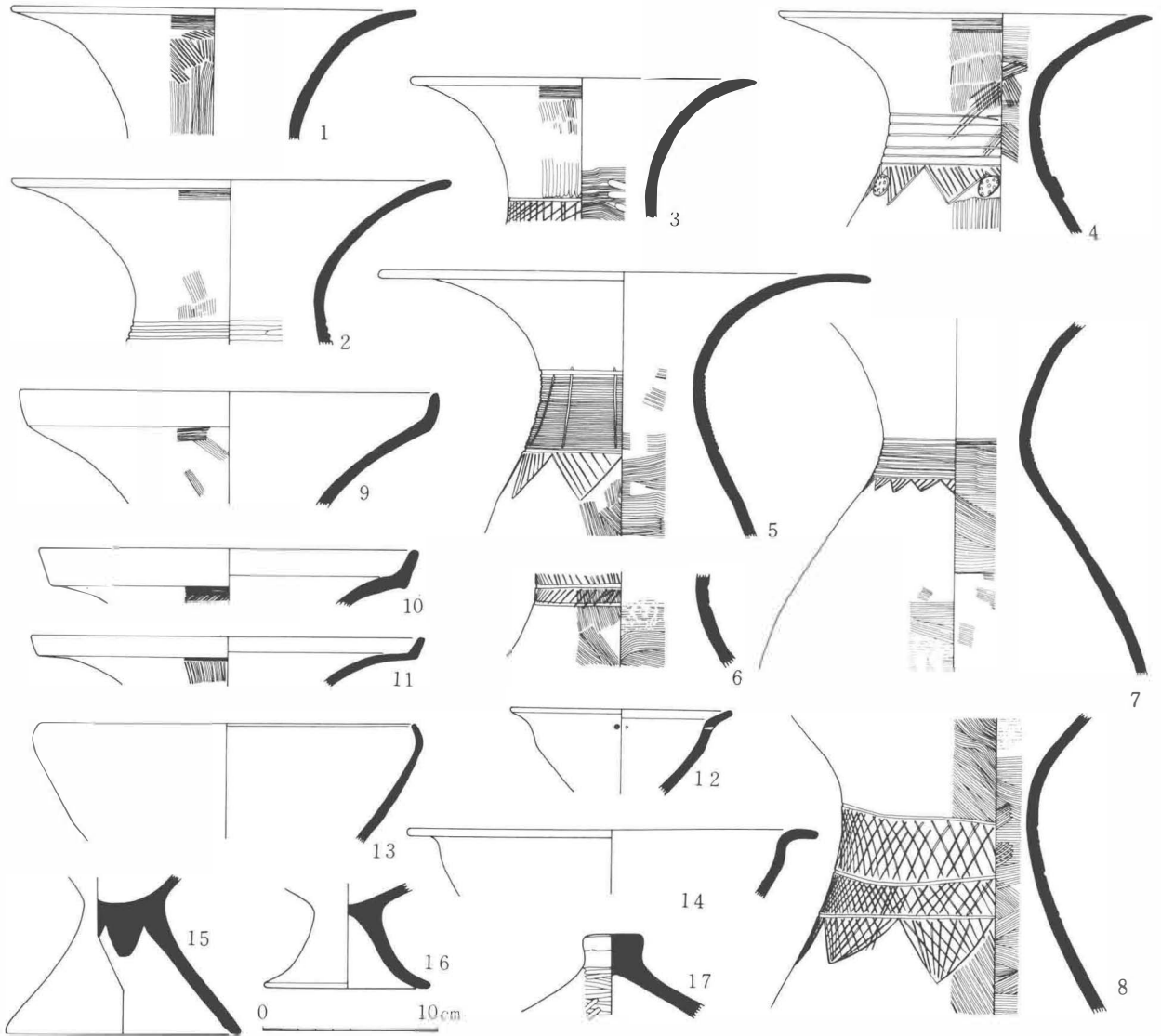


III-173 107号・109号・131号・132号住居址

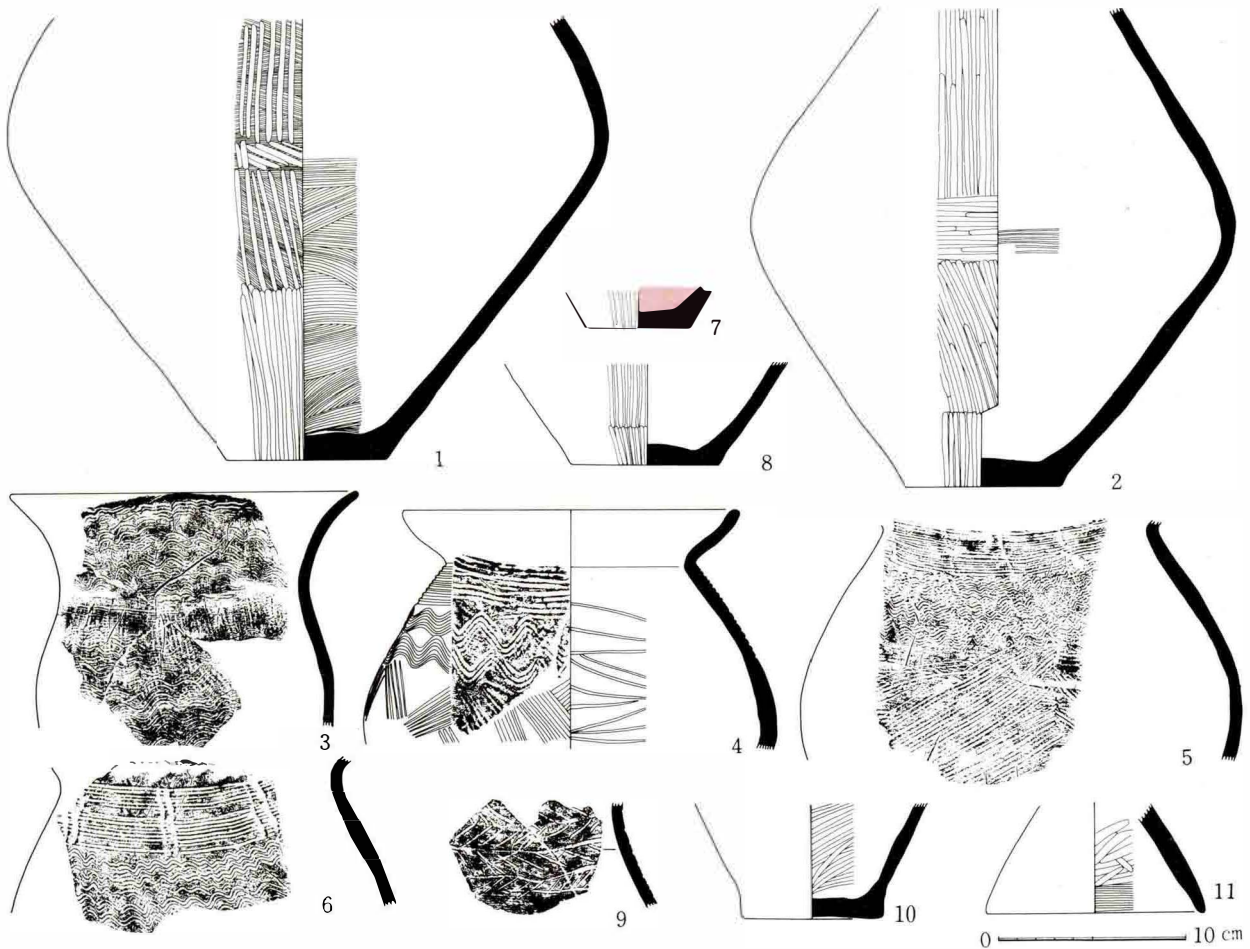
109号住居址 132号住居址を切り、107号・131号住居址に切られて検出された隅丸長方形を呈する住居址である。規模は長軸7.2m・短軸約5.0mを測り、壁高は北壁11cm・南壁9cm・東壁17cmで、西壁は調査区外のため不明である。主軸はN15°Wである。床面は貼床がしてあり土器片が多数出土した。主柱穴は4個で調査区外の1個の他3個が検出された。炉は中央北寄りに口縁部を欠く甕体部が逆位に埋設されている。貼床下に、径40cm・深さ6cmの地床炉が検出された。



III-174 109号住居址



III-175 109号住居址出土土器(1)



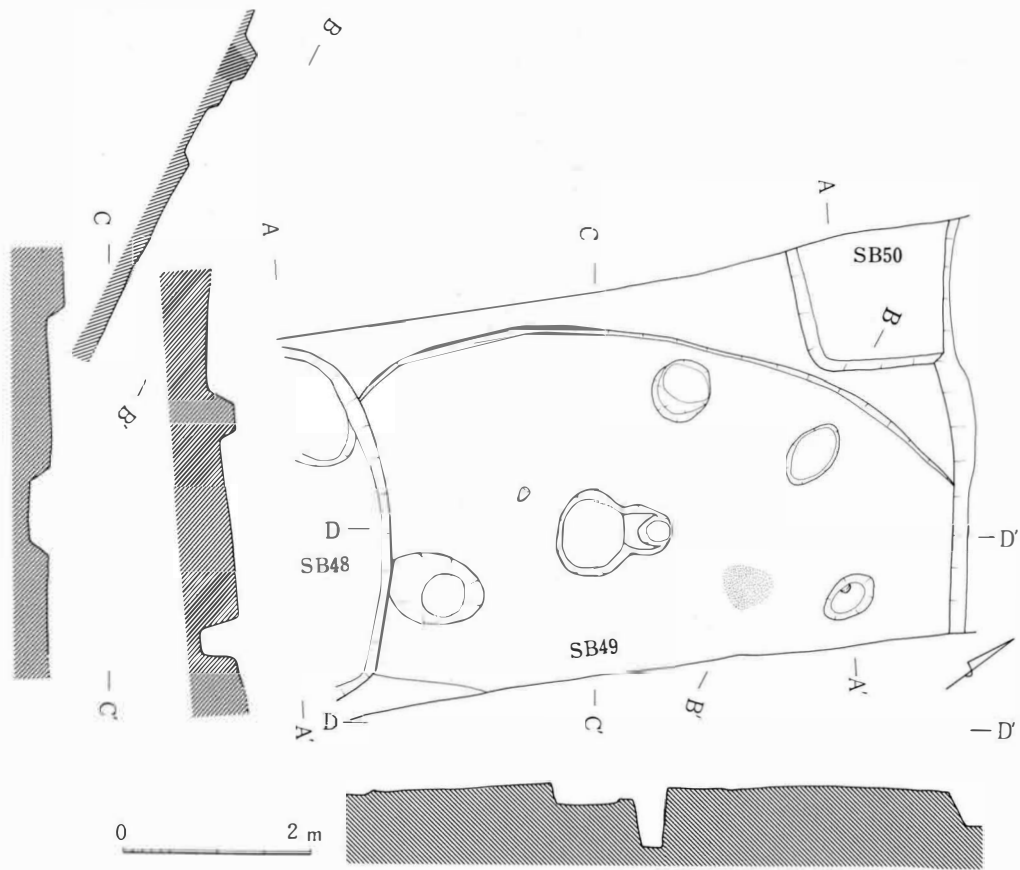
III-176 109号住居址出土土器(2)



III-177 109号住居址炉

覆土からの出土量が非常に多く、それも壺形土器が多い。口縁部が朝顔形に大きく外反するもの(III-175-1~5)と口縁が立ち上がるもの(III-175-9~11)があり、1~3は内面に赤色塗彩が施され、9~11は内面と口縁部外面に赤色塗彩される。文様は頸部までで、櫛とへら状工具による平行線文と格子目状文・斜行短線文・鋸歯文・ボタン状貼付文

を組み合せる。壺形土器の体部下半で、体部の最大径になり底部へと続いている。(II-176-1・2)内面の整形はハケナデのちへらミガキになるものも多く、外面は頸部文様帯付近まではハケナデが施される。体部から底部にかけては、へらミガキ痕が顕著である。胎土に石英粒を含み、焼成はやや不良のものが多い。甕形土器(III-176-3~10)については、壺形土器に比して出土量は少ない。5は埋甕炉として逆位に使用されたものである。器形は口縁が外反するものと、やや内弯するものとある。文様は頸部下に櫛状工具による簾状文、波状文を施したものと、なお体部に波状文、斜行線文を施したものとある。口縁部は内外面共にへらミガキされる。胎土には石英粒を含み、焼成は良好なものが多い。高坏形土器はその殆どが内面あるいは内外面共に赤色塗彩されている。坏部の器形は口縁が内弯するものと、殆ど水平に強く外反するもの、また小形で外反するものがある。III-175-12は坏頸部に2孔一対の円孔がうがたれる。脚部は裾が広がるものと広がらないものとある。III-175-15は坏と脚部の接合部は未整形のまま残る。坏、脚部共にへらミガキされ、胎土に石英粒を含み、焼成は良好である。他に無文の蓋形土器が1点出土している。

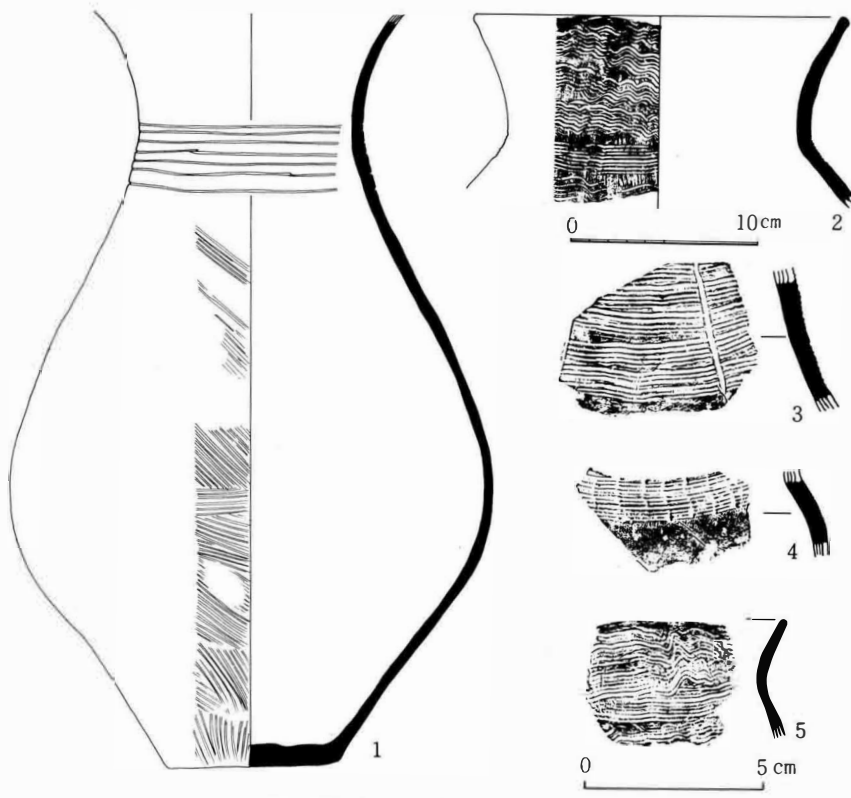


III-179 49号住居址実測図



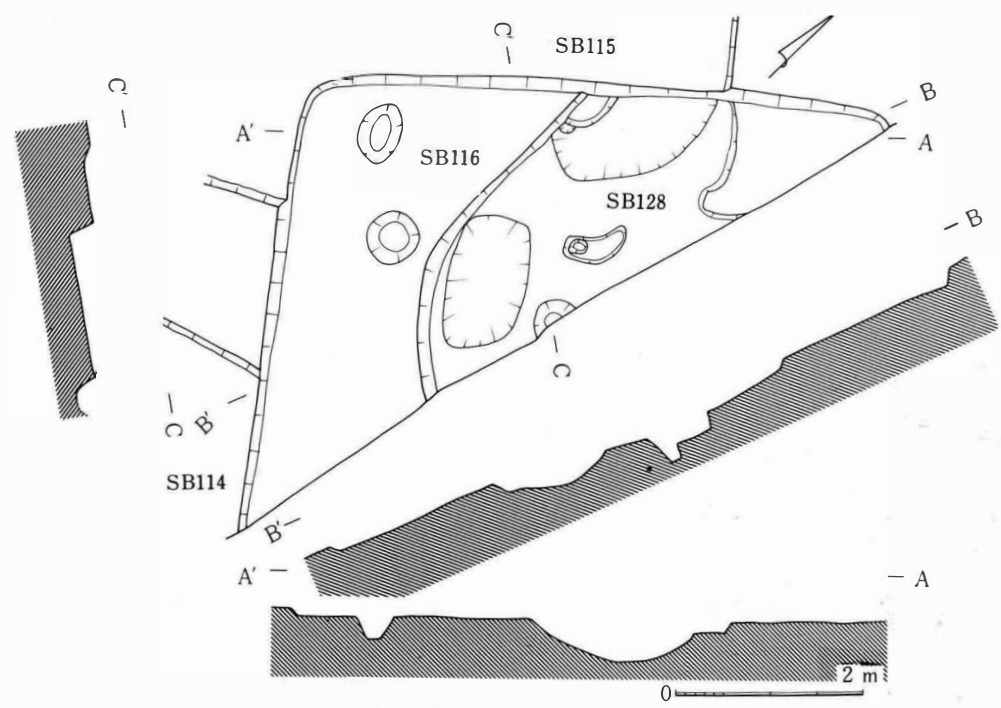
III-180 49号住居址

北壁は51号住居址に、南壁は48号住居址に切られ、東壁は調査区外のため、不明な部分が多い。形態は隅丸方形になるものと思われ、主軸方向をN 30°Eにとり、一辺4 m前後を測る。掘り込みは西壁で15 cmを測る浅い住居址である。床面は中央が高くなり軟弱である。炉は北側にあり地床炉形態になる。



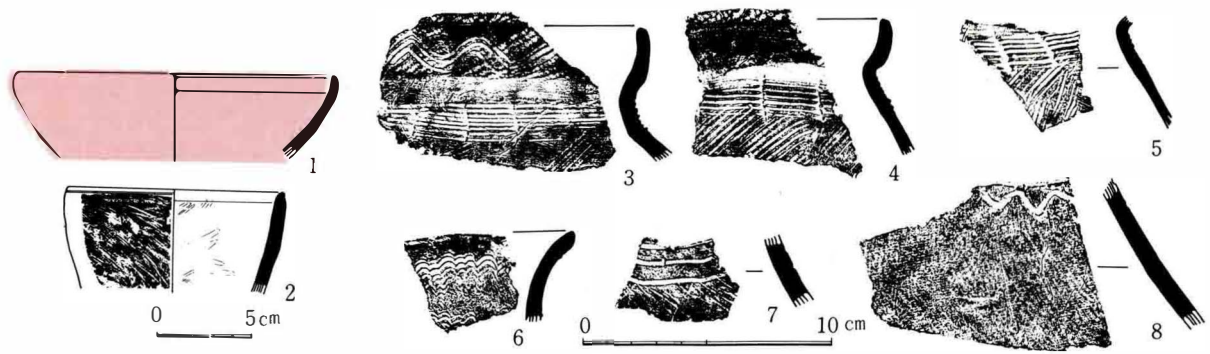
III-181 49号住居址出土土器

51号住居址と大きく重複して検出されたため、遺物は混在して出土しているが、その出土量は少ない。壺形土器はIII-181-1が西壁近くの床面から出土し、口縁部を欠くがほぼ完形である。文様は頸部にヘラ状工具による平行線文が施されるだけで、体部はハケナデ整形痕が残る。焼成はやや不良である。3は棒状工具によるT字状文になる。甕形土器(2・4・5)は口縁部が外反し、櫛状工具による簾状文・波状文・平行線文が施される。口縁部内面はヘラミガキされ、胎土に黄雲母を含む。焼成は良好である。



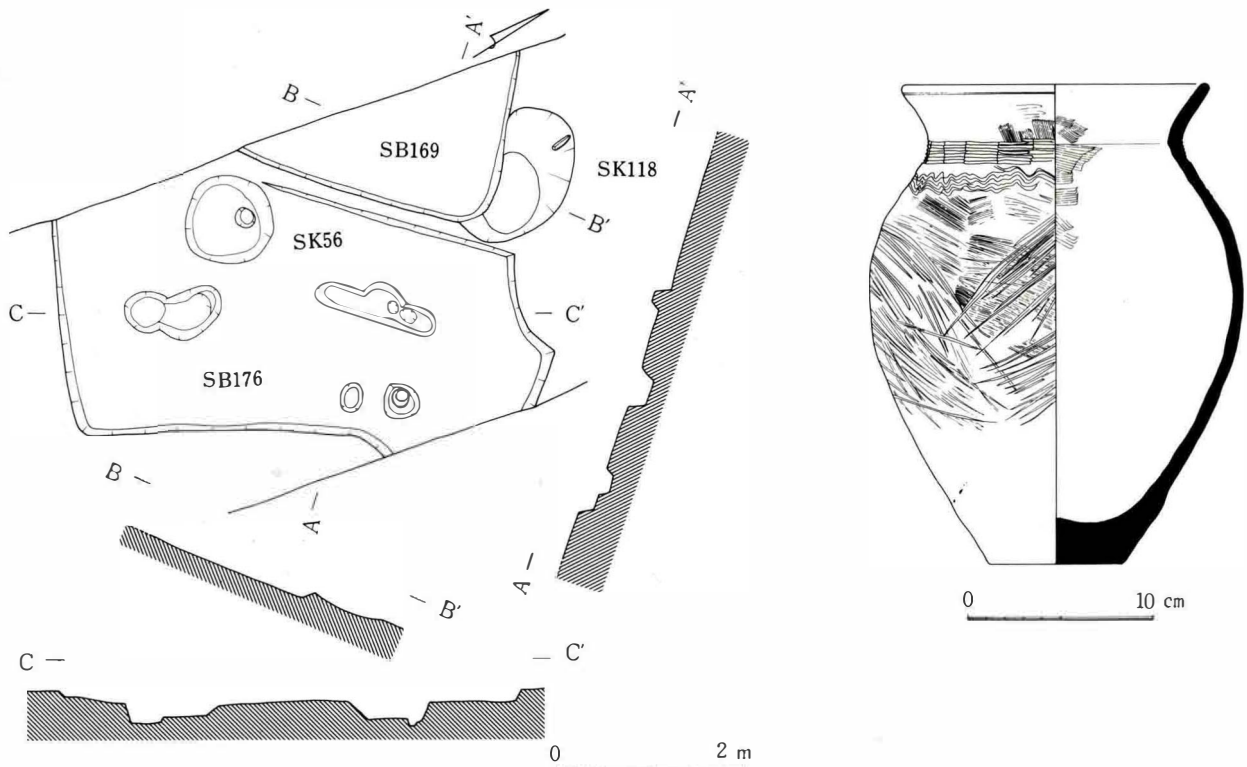
III-182 128号住居址実測図

116号住居址の床面下に検出され、西北部は115号住居址、北側は116号住居址によって破壊され、残る半分以上は調査区外にあたるため僅かに西南部が残存しているにすぎない。形態は隅丸方形を呈すと思われるが、その規模は不明である。残存部の壁高は南壁で16cm・西壁22cmを測る。柱穴は調査区外接点から1個検出し、径50cm・深さ23cmになる。4本柱になるとと思われる。床面の状態は非常に悪く、116号住居址構築時に影響を受けたものと思われる。西壁沿いに不整長方形・不整楕円形の舟底状の落ち込みがみられるが、何の施設か不明である。このほか炉址等の付属施設は確認できなかった。



III-183 128号住居址出土土器

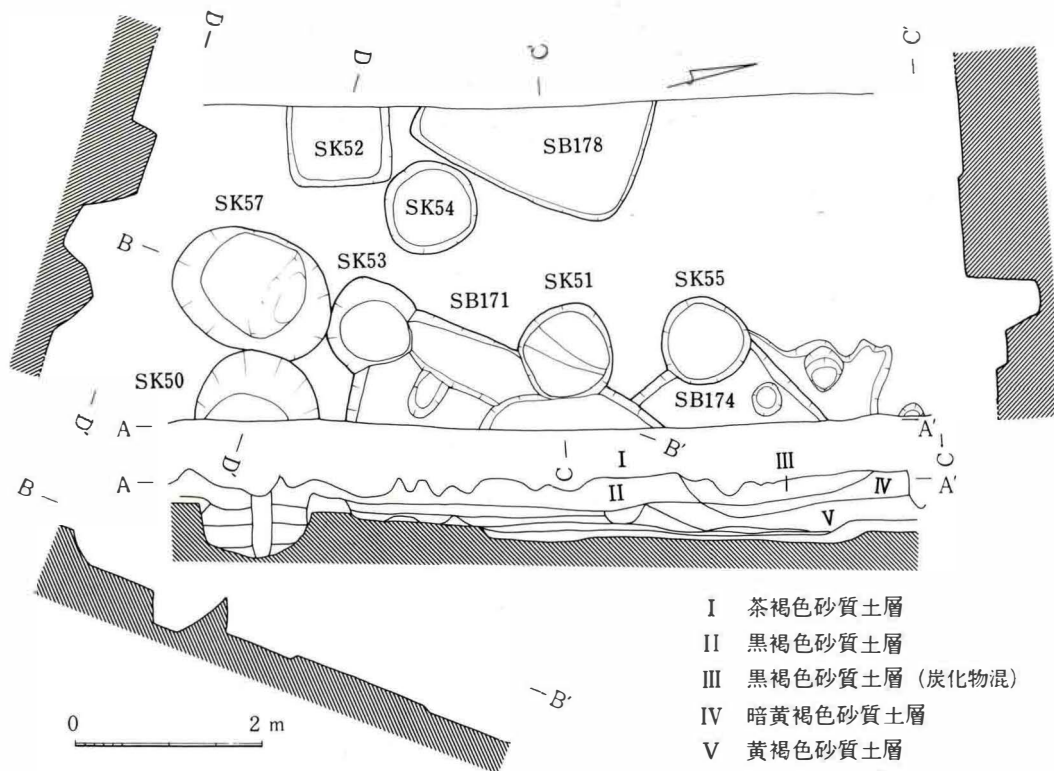
出土量は少ない。甕形土器(3~6)は口唇部に縄文を施し、口縁部が内弯するものと口縁が外反するものがある。3は口唇部にLRの縄文を横転し、その下を波状文がめぐり、頸部は簾状文になる。体部は櫛状工具で斜行条線文が描かれる。壺形土器(7・8)の頸部には平行線文と斜行短線が伴う鋸歯文が施され、8には1本の波状文がめぐる。高坏形土器(1)は坏部が碗形で、内外面に赤色塗彩されている。他に浅鉢形土器(2)が出土している。



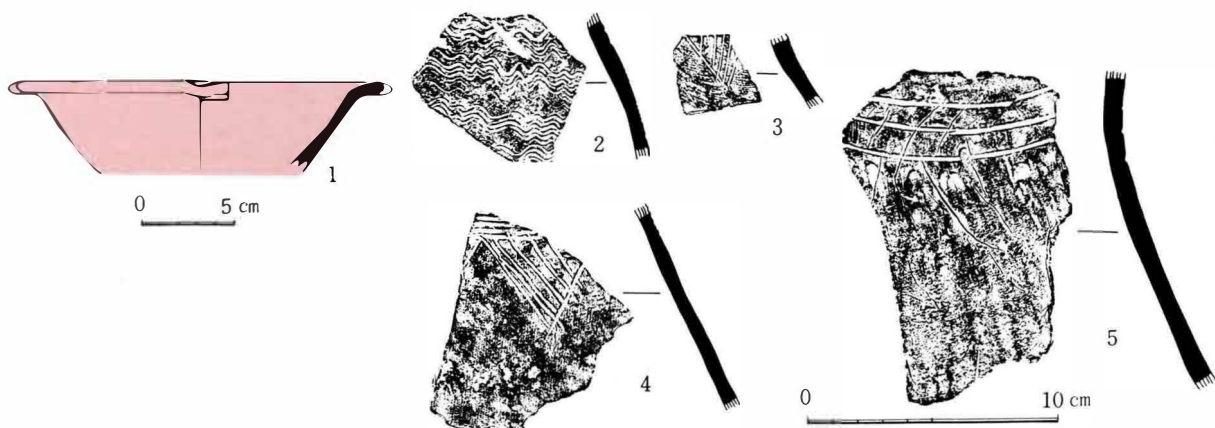
III-184 176号住居址実測図・出土土器

168号・169号住居址と重複して検出された。両住居址共に遺物の出土は殆どないが本住居址より新しく、両住居址により破壊されているため約3分の1が残存するにすぎない。形態は長方形を呈するものと思われるが、その規模は不明である。壁高は残存する南壁で7cm・東壁で9cmを測る。床面は貼床が施され、平坦である。柱穴はいくつか検出されたが、支柱穴を特定することは出来ない。また東壁ピットには、甕形土器の完形品が正位で埋葬されており、注目すべき出土状態である。

遺物の出土量は少ない。甕形土器はピット内出土の完形品がある。口縁部が外反しやや胴長である。文様は頸部に簾状文と波状文を各一帯施し、体部に斜行条線文が施される。整形は内外面共にハケナデされ、外面体部下半はタテヘラミガキ、内面も体部以下に同様整形がみられる。色調は黄灰褐色から黒茶褐色を呈し、胎土・焼成共に良好である。口径16.5cm・最大径19.7cm・底径7cm・器高24.5cm。他に壺形土器・高坏形土器片が出土している。



III-185 178号・171号・174号住居址, 土壙50~55実測図

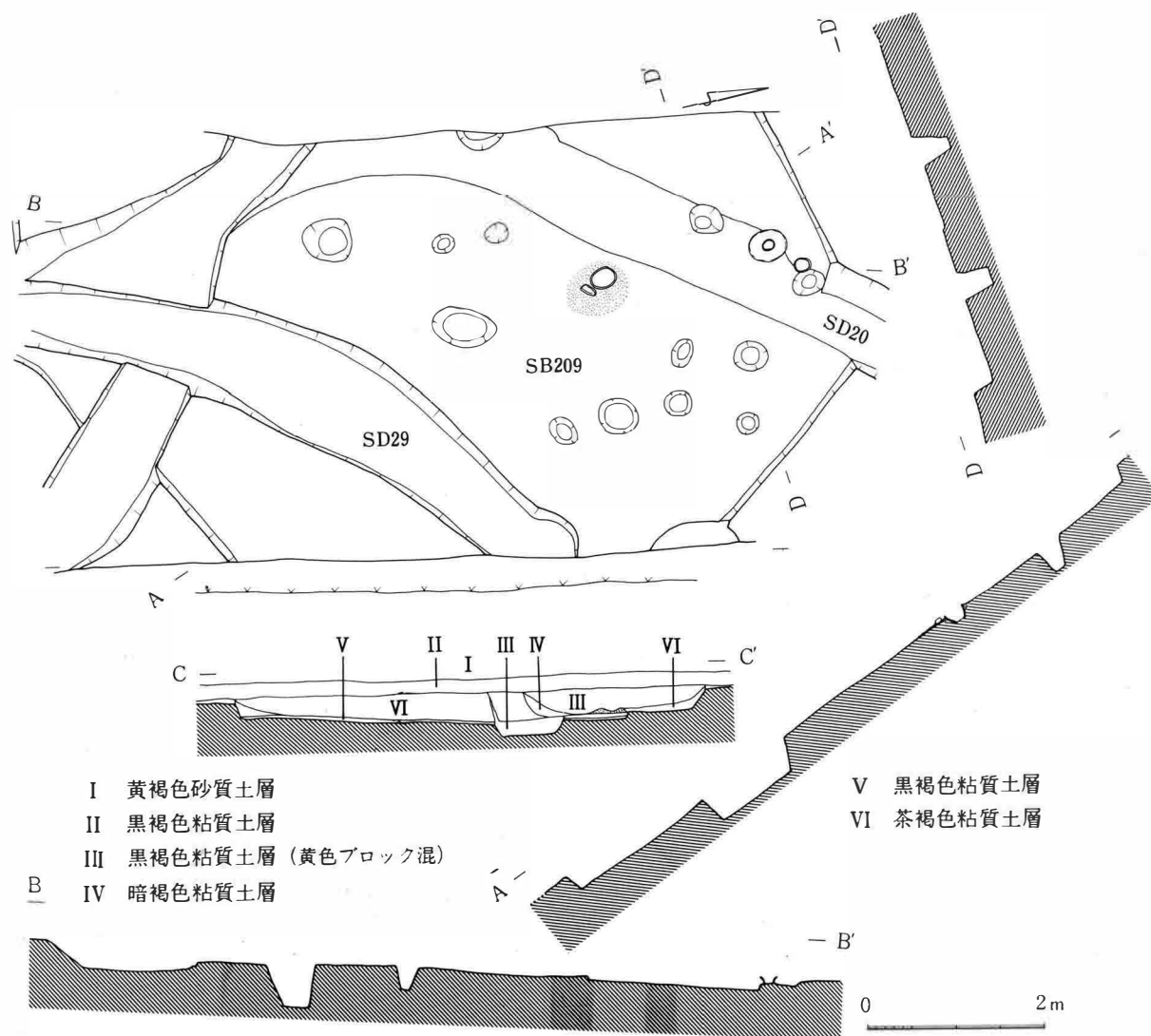


III-186 178号住居址出土土器

178号住居址 調査区外に西半分以上ある方形の住居址で、規模は南北2.88 mを測り、壁高は北壁5 cm・南壁12 cm・東壁6 cmになる。床面は平坦で軟弱である。柱穴・カマド等の施設は確認できなかった。

出土遺物は少量にすぎない。1は高坏形土器の坏部である。坏体部は椀形になるものの口縁部は強く屈曲外反し、口唇部に相対する2対の注口様突起がつくり出される。内外面ともにていねいにヘラミガキが施され、赤色塗彩される。2は甕形土器体部片で帯状の櫛描波状文がめぐる。3・4は壺形土器体部上半の破片である。3はハケナデ整形後、細いヘラ状施文具によって左下りの斜行短線文を伴う鋸歯文があり、4には平行線文下を同様鋸歯文が配されるが、斜行短線文は右下りに施文される。5は同様施文具により左廻りに平行線文が描かれる。文様帯はハケナデ整形で、その下部はヘラ状工具によるナデツケ整形になる。

土壙50 円形を呈し、規模は径1.3 m・深さ50 cmを測る。土壙51 円形を呈し、径1.0 m・深さ70 cmを測る。土壙52 長方形を呈するものと思われ、南北軸1.0 m・深さ25 cmを測る。土壙53 円形を呈し、径1.0 m・深さ33 cmを測る。土壙54 円形を呈し、規模は径0.95 m前後で、深さ29 cmである。土壙55 不整円形を呈し、規模は0.9×0.97 mを測る。53は弥生中期、50・52・55は同後期、54は古墳後期、51は奈良時代の遺物を出土する。



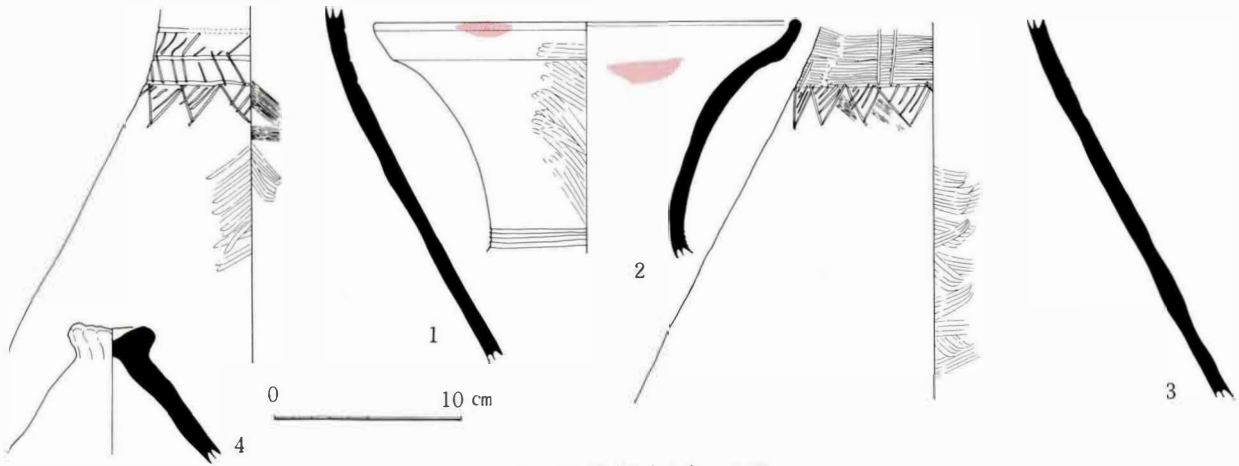
III-187 209号住居址, 29号溝址実測図



III-188 209号住居址

住居址の中央部を調査地が横断する形で検出された。形態は隅丸方形を呈すると思われる。規模は南北で7.7mを測るが東西軸は不明である。主軸はN 22° E方向になる。壁高は北壁 20 cm・南壁 23 cm・東壁 27 cmを測る。床面は29号・20号溝址に切られているが貼床は良好な状態で残存した。炉は中央北寄りに壺形土器体部上半が逆位に埋設されたもので枕石を伴う。

なお、覆土から磨製石鏃とその未製品及び剥片 (III-165-27~32) が出土した。

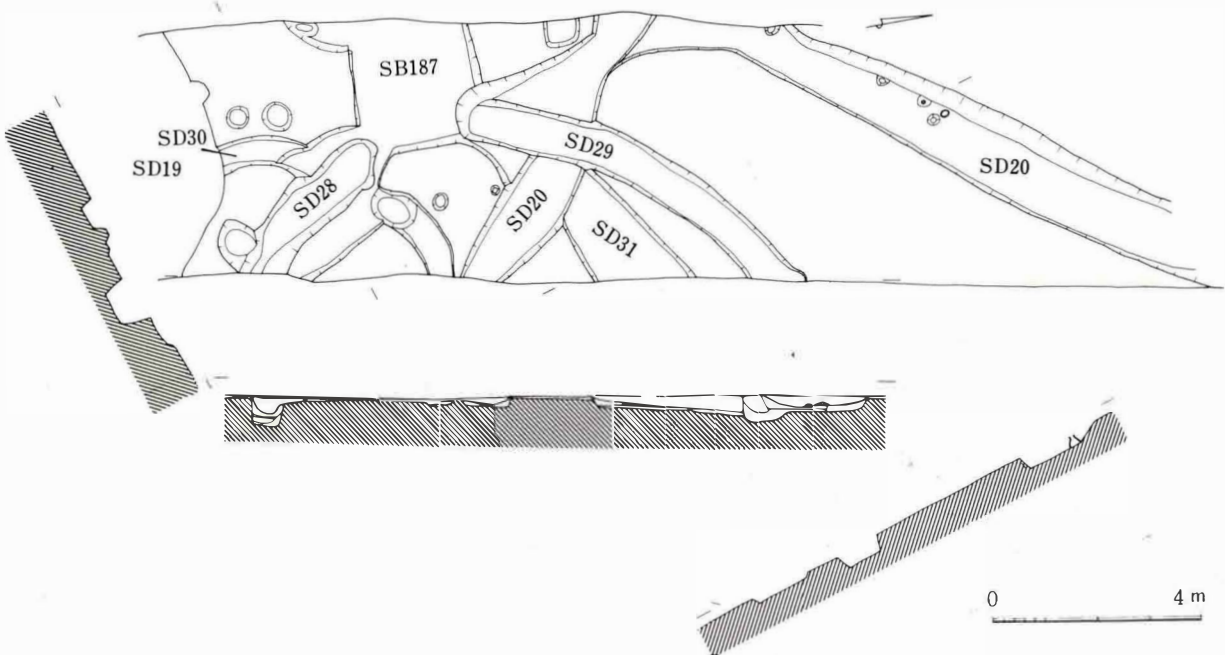


III-189 209号住居址出土土器



III-190 209号住居址炉

出土量は多くない。壺形土器は、炉に使用されたもの(1)と、20号溝址内から出土したもの(2・3)が形態をとどめる。1は頸部に平行線文と斜行線文を伴う鋸歯文が施される。2は口縁部が内弯し、口縁部外面と口縁部内面に赤色塗彩痕が認められる。3は楯描横帯文とそれを切る縦線文、斜行線文と鋸歯文が施文され、内面はハケナデ、外面は文様帯付近はハケナデ、外はヘラナデされる。他に蓋形土器(4)が出土している。



III-191 19号・20号・28号～31号溝址, 187号住居址実測図

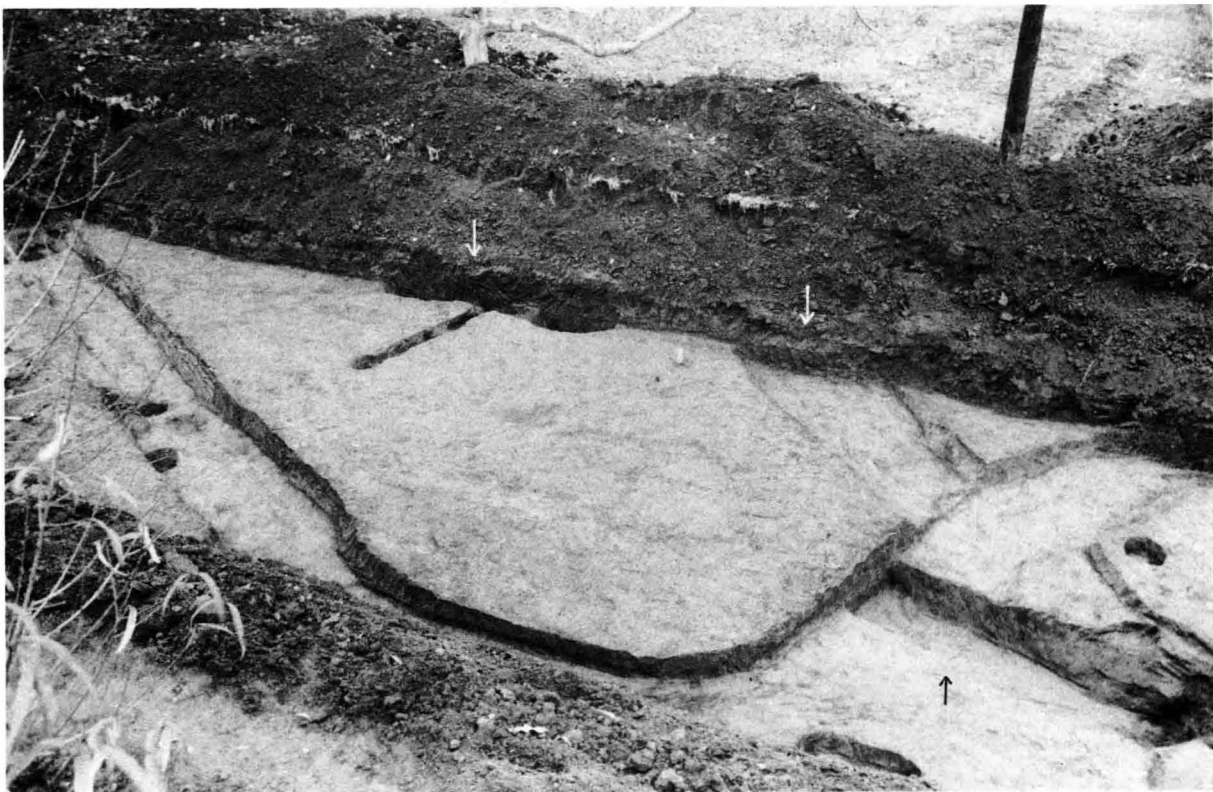
20号溝址 209号住居址より古い。形態は長方形を呈するものと思われ、今回の調査では、西と南側の一部を検出したにすぎない。西側溝の幅は、0.9～1.4 m・深さ30～32 cmを、南側はやや不規則になるものの1.2 mを最大値とするU字溝になる。黄褐色粘質土を掘り込み、覆土は暗褐色砂混り粘質土である。出土遺物は少なく、覆土中より壺・甕・高坏形土器片を検出したが、図上復元できるものはない。また石器に、磨製石鏃(III-165-35)、横刃石器(III-68-29)がある。

30号溝址 環状を呈するものと思われる。幅0.6 m・深さ20 cm前後になる。出土遺物はない。

31号溝址 20号溝址より古く、幅1.2～1.5 mで、深さ17 cmを測る。覆土中よりガラス製小玉片が出土した。



II-192 19号溝址（円形溝址）



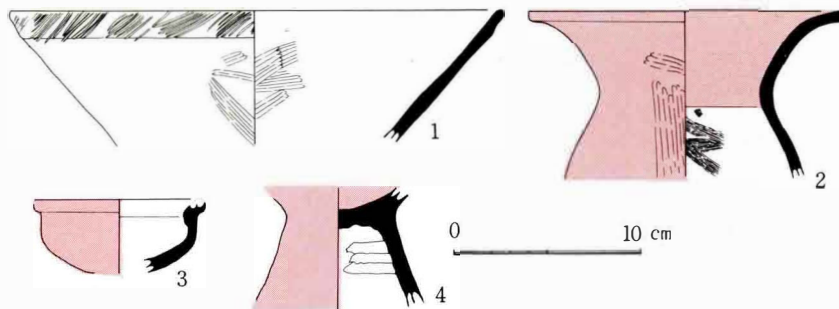
III-193 20号溝址

19号溝址 径約8mの環状をなし、幅は0.7~1.7m・深さ25cm前後を測る。遺物は箱清水式期のものである。

28号溝址 最終形態は不明。幅0.9m・深さ66cmを測る。箱清水式期の土器片が出土している。

29号溝址 最終形態は不明。幅0.9m前後・深さは70cmになる。箱清水式期の土器片が出土している。

ホ号溝址 8号木棺墓を切る南北方向の溝址で、吉田式期の壺・赤色塗彩された浅鉢が出土している。

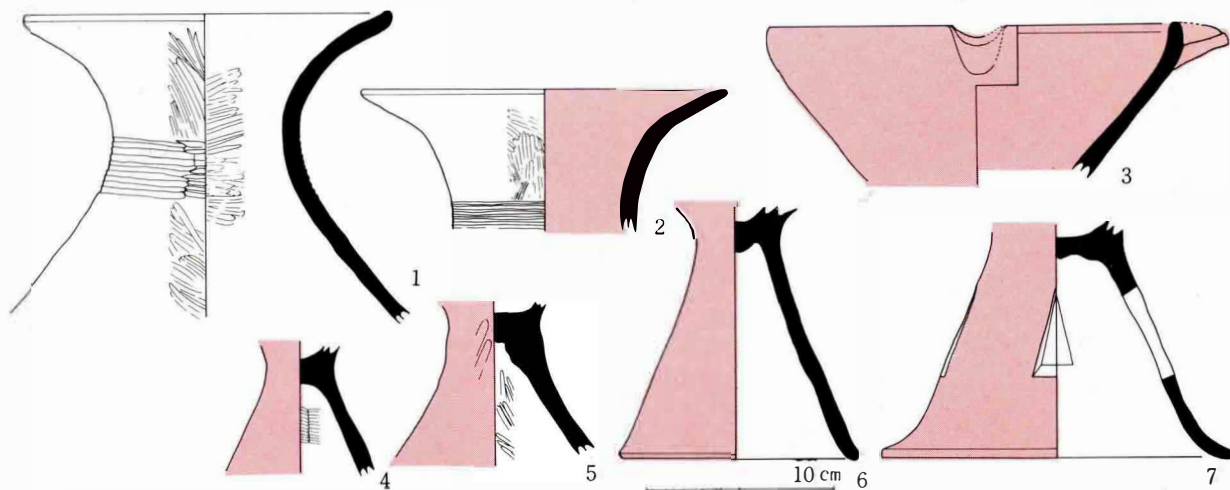


III-194 19号・20号溝址出土土器

図上復元できるものは以下の器種で、19号溝址の壺形土器（1・2）、小形の高坏形土器と思われる坏部（3）が、20号溝址からは高坏形土器脚部（4）が出土しているにすぎない。



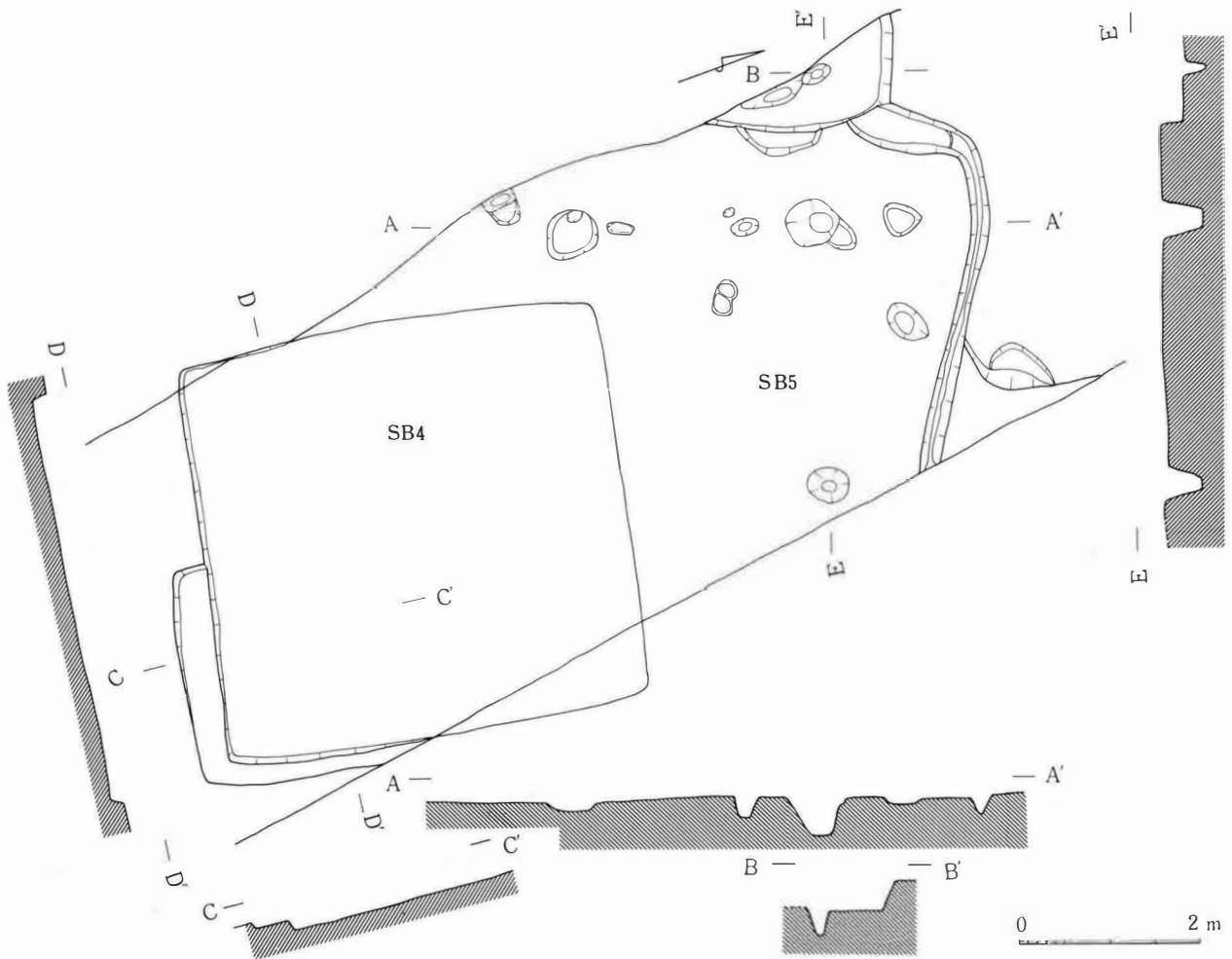
III-195 土壇 96, 182号住居址



III-196 土壇 96 出土土器

土壇 96 182号住居址の貼床下から検出され、上面は不整隅丸方形を呈し、底面は隅丸方形を呈する。規模は上面 2.7×2.8 m、中段で 1.5×1.55 m を測り、底面は平坦である。深さは 56 cm になる。底面は非常に堅緻で部分的に赤褐色を呈する貼床である。出土量は多くない。1の壺形土器は口縁が外反し、頸部に楯状工具による横線文を施す。高坏形土器は鉢形の坏部に注口の突起部をもつものと、脚部が出土した。（矢口栄子）

第4節 弥生時代後期後半の遺構と遺物

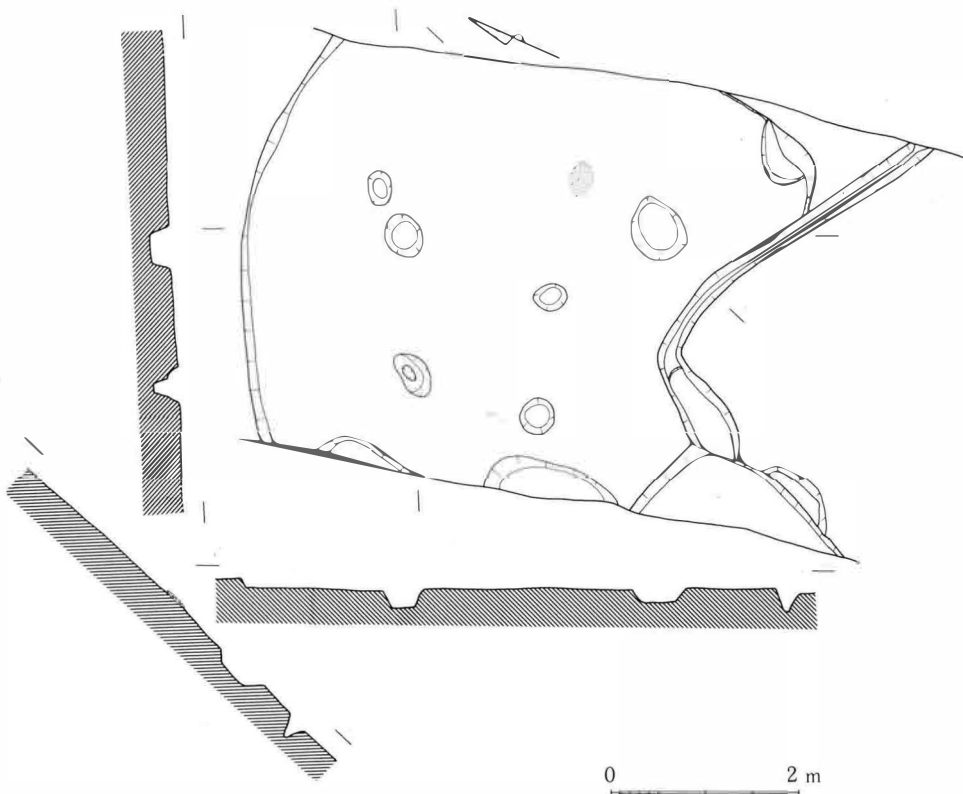


III-197 4号・5号住居址実測図



III-198 4号・5号住居址

5号住居址 7号より新しく、4号住居址より古い。形態は隅丸長方形になるとわれ、主柱穴が3個確認されている。出土遺物は少なく、全容を知り得ないが、壺・甕・高坏・蓋形土器が出土している。

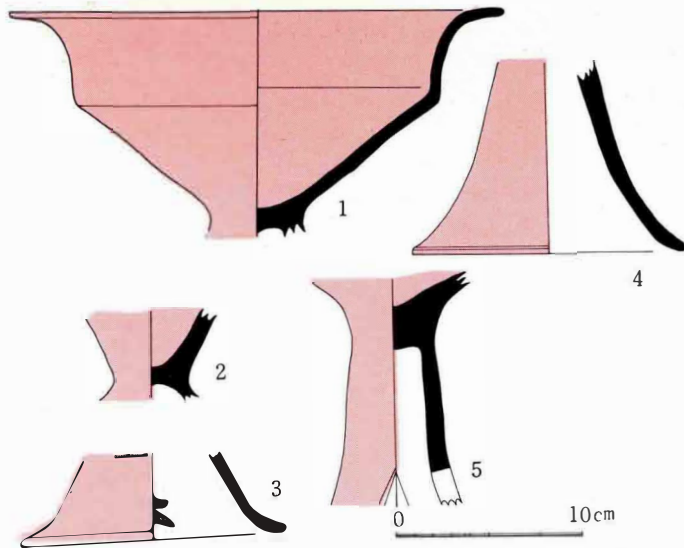


III-199 7号住居址実測図

7号住居址 5号・6号住居址に切られる。主軸はおよそ東西方向になり、形態は短軸5.60mのやや胴張りの隅丸長方形を呈すると思われる。支柱穴と思われるものは3個検出されているが、4本長形配列または6本を長方形に配置していた可能性がある。東壁側柱穴間のやや壁寄りに焼土が検出されているが、炉址であるか否かは明確ではない。床面は平坦であるが軟弱である。検出面からの掘り込みは浅い。



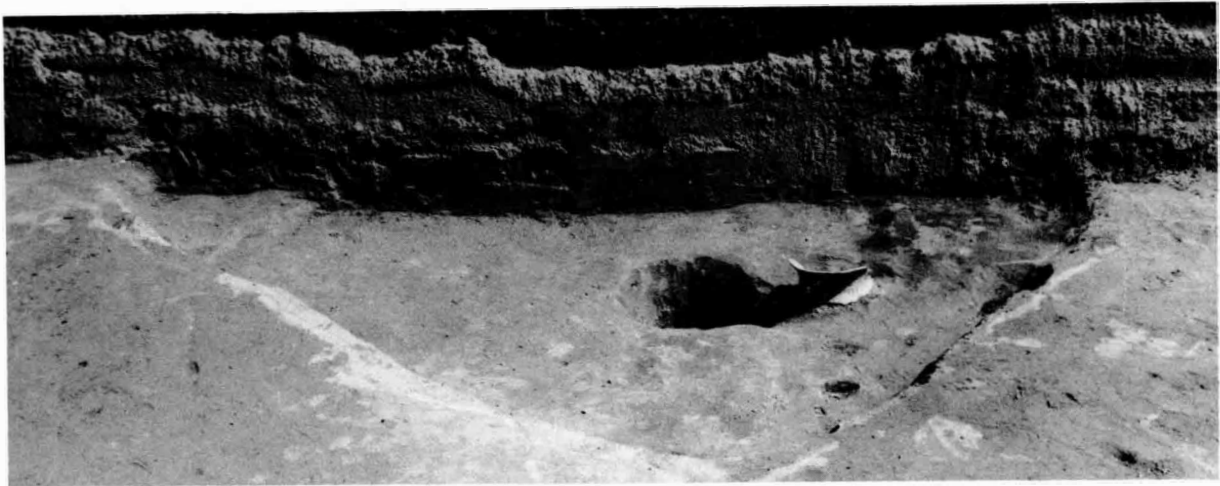
III-200 7号住居址



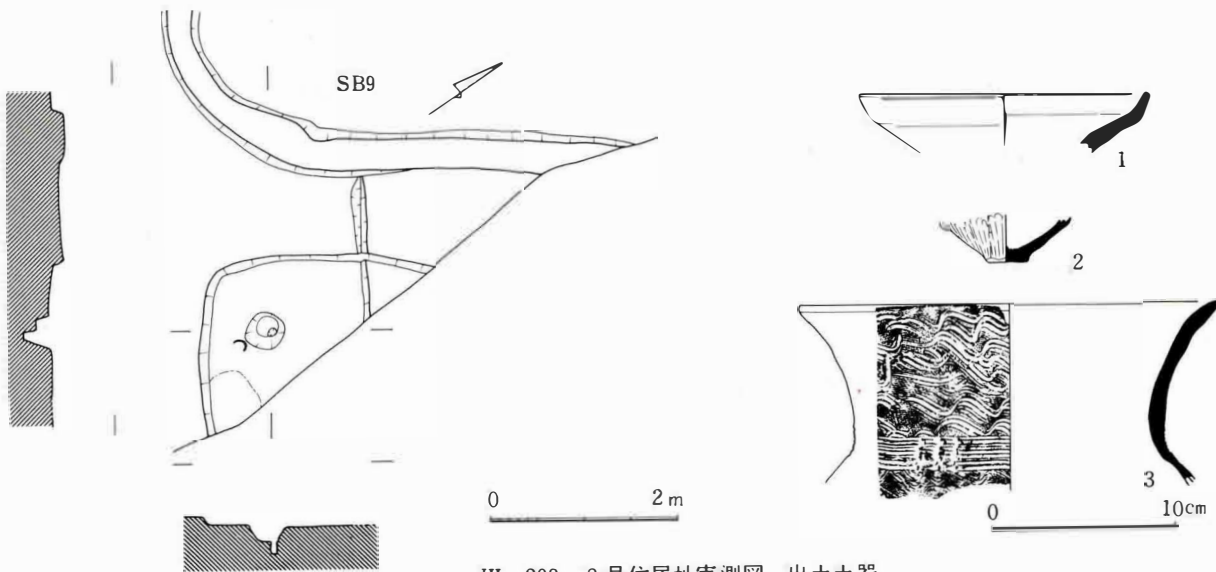
III-201 5号(1)・7号(2~5)住居址出土土器

両住居址から箱清水式期の高坏形土器が出土している。5号住居址出土の1は、底部より直線的に外開した坏部が、中位で屈曲して立ち上がり、口縁部が水平に近く外反する形態になる。内外面ともヘラミガキで、赤色塗彩される。

7号住居址からは、坏底部ならびに脚部が出土している。脚部形態は、4の端部が折れ曲がるよう強く外開するものと、3の素直に外開して終る2形態がある。5は脚部に三角形透かし3孔がへらによりあけられる。また脚部上位が筒状を呈する点、特徴的である。外面は赤色塗彩される。



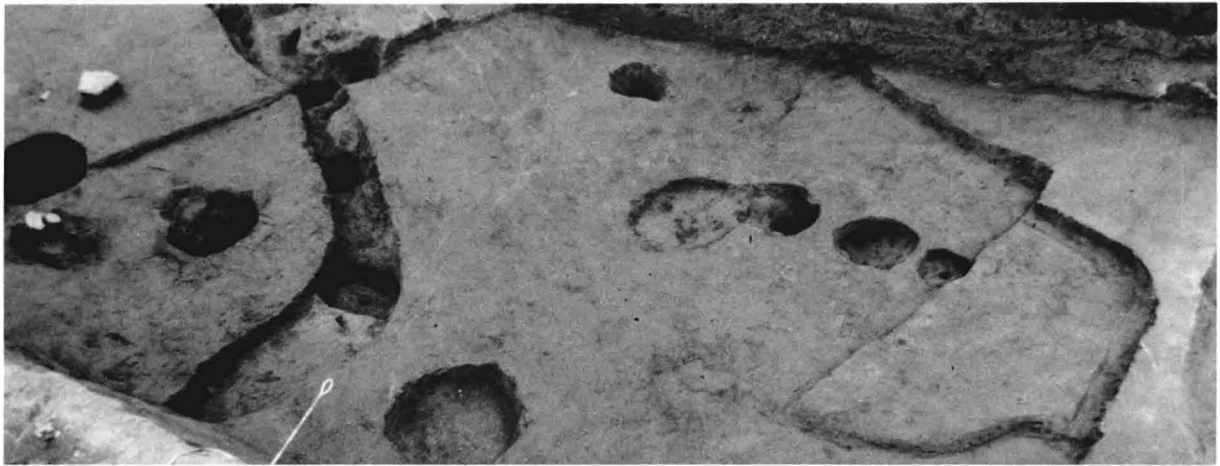
III-202 8号住居址



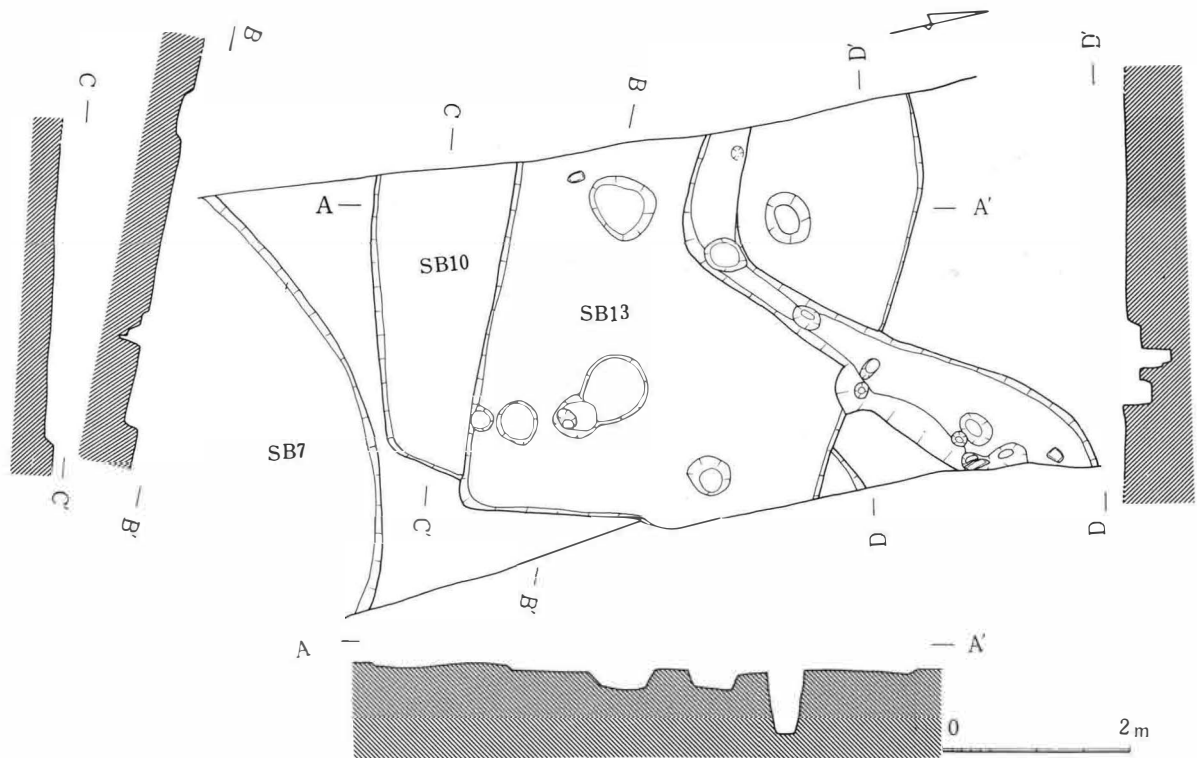
III-203 8号住居址実測図, 出土土器

13号住居址に切られている。形態は隅丸長方形を呈すると思われるが、未調査部分が多く詳細は不明である。南壁沿いに、柱穴ならびに不整形円形状に炭化物が検出された。

壺・甕・鉢形土器が出土している。1は壺口縁部で受口状口縁を呈し、ヘラミガキ整形される。3の甕形土器は、楕円波状文を施文後、頸部に簾状文が施される。このほか砥石(III-171-24)が出土している。



III-204 10号・13号住居址



III-205 10号・13号住居址実測図, 10号住居址出土土器

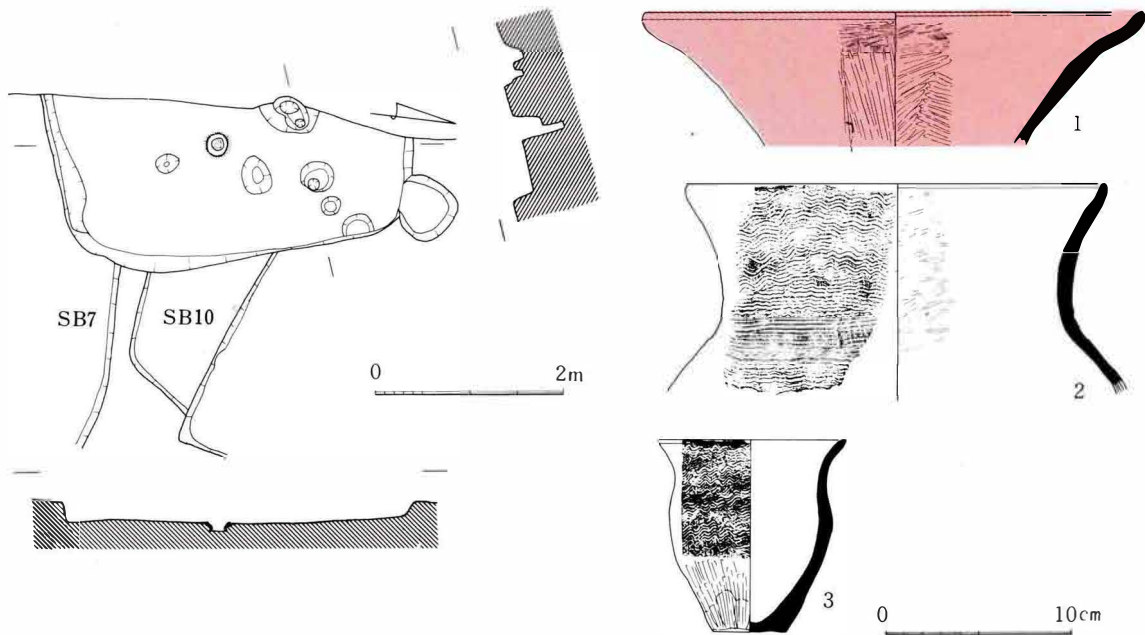
近隣の住居址との重複関係は、古い方から10号→13号（古墳時代前半）→9号（同）住居址の順である。

10号住居址 形態は残存部から隅丸長方形を呈すると思われるが、規模及び内部施設等は不明である。

出土遺物は、そのほとんどが箱清水式期の土器で、器形には壺・甕・高坏・台付甕・蓋形土器が出土している。図上復元できるものは、1の小形台付甕があり、口縁部は頸部よりゆるく屈曲した短いもので、端部に最大径がある。2は截頭円錐形の蓋形土器で、上部につまみが付される。整形は内外面ともナデにより仕上げられる。壺・高坏形土器には赤色塗彩がみられる。



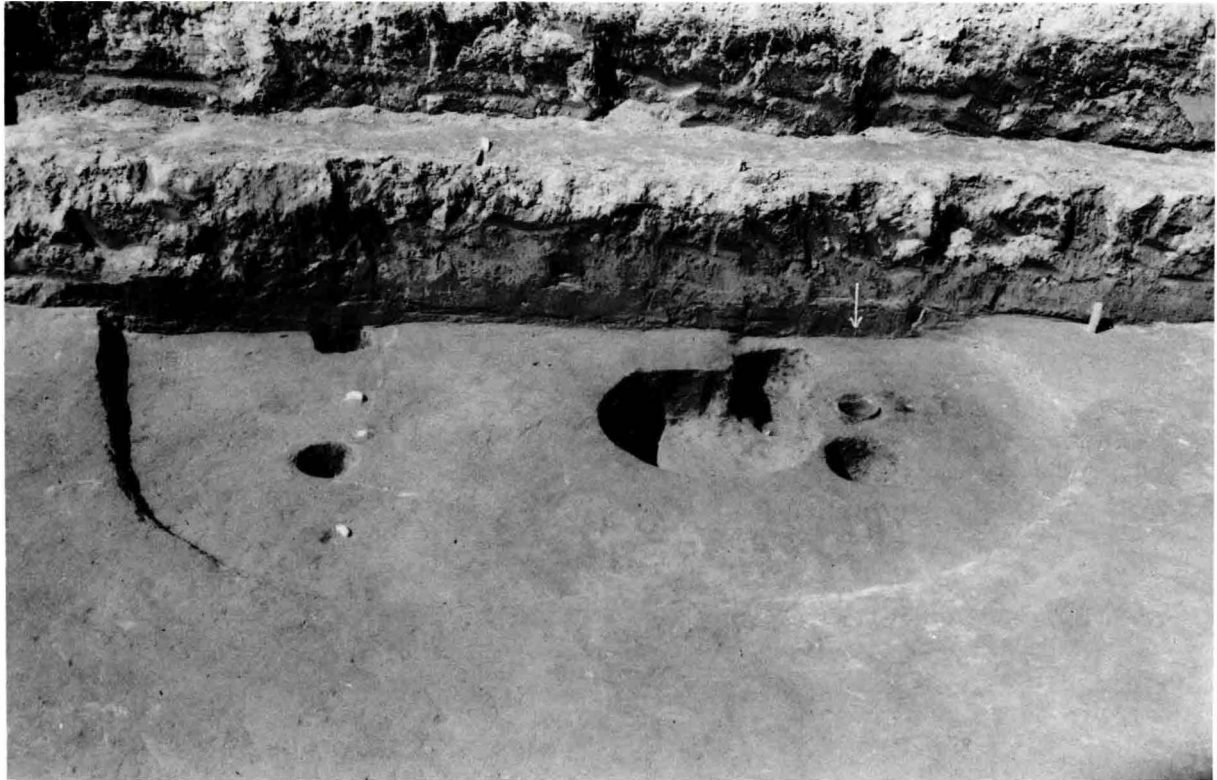
III-206 11号住居址



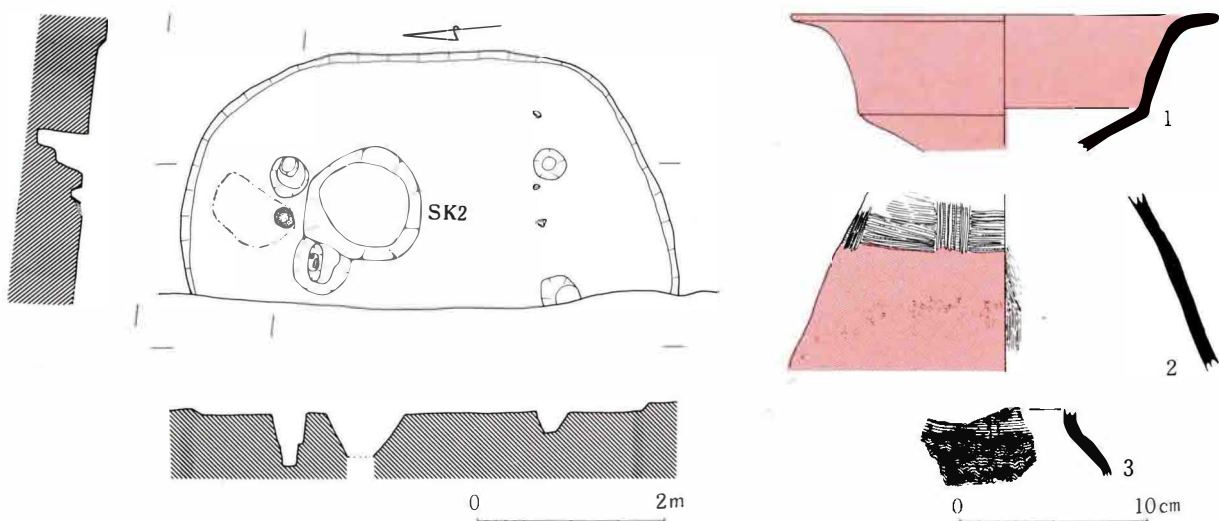
III-207 11号住居址実測図・出土土器

形態は長軸3.82mの隅丸長方形を呈する住居址で、7号・10号住居址を切って構築されている。支柱穴配列は不明であるが、5個の柱穴が検出されている。炉は住居址中央部より北側に位置しており、甕形土器の口縁部から肩部を逆位に埋設した埋甕炉形態になる。また住居址北東隅に方形の張り出し部分が検出されるが、性格等は不明である。掘り込みは、北壁8cm・南壁11cm・東壁12cmを測る。

出土土器は、1の壺形土器と2・3の甕形土器がある。1は口縁部が頸部より朝顔状に大きく外反する形態になるが、口縁端部は内弯気味に立ち上がる。2は大形の甕形土器で、炉に使用されていたものである。口縁部は頸部より緩やかに立ち上がりつつ外反し、端部にて内弯気味に再度立ち上がる。頸部に楯描簾状文を施文後、波状文が施される。3は小形の甕形土器であるが、口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、端部は丸味を持つ。口縁部に最大径がある。文様は頸部に簾状文が施文されず、波状文だけである。



III-208 12号住居址，土壙2（井戸址）

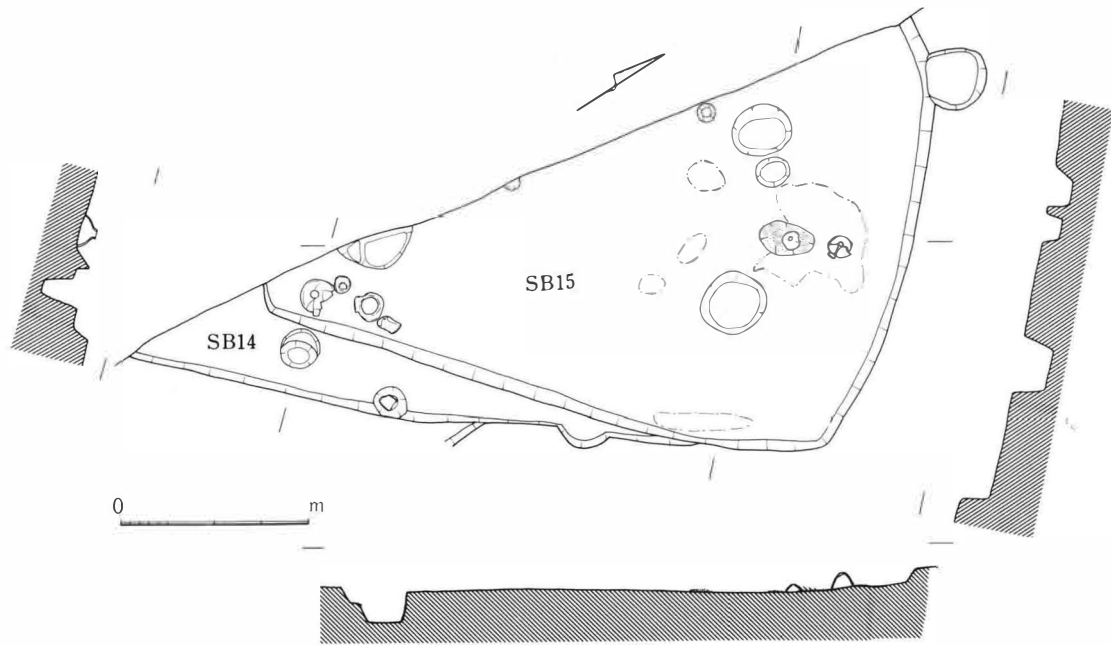


III-209 12号住居址，土壙2実測図，12号住居址出土土器

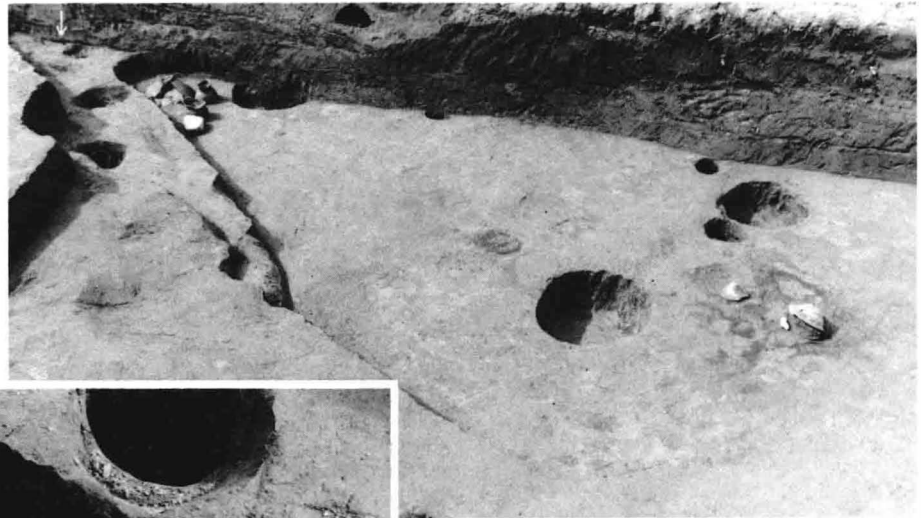
12号住居址 長軸約5.2mのやや胴張りの隅丸長方形態を呈する。主柱穴は3個検出され、長方形に配列される。炉は南側柱穴間中央やや壁寄りに検出された。壺形土器体部上半を逆位に埋設した埋甕炉形態である。またこの炉址から奥壁にかけて約80cm程の不整形形状に炭化物が集中して検出された。

出土量は少なく、壺・甕・高坏形土器が出土している。2は炉に使用されていたもので、肩部に楡描T字文が施文され、文様帯以外は赤色塗彩される。1の高坏は、坏中位で鋭く屈曲して口縁部が水平に近く強く外反する形態になる。ヘラミガキ後、赤色塗彩が施される。3は甕形土器の肩部で、簾状文・波状文が施される。

尚、土壙2は、本住居址より新しく、古墳時代後期の遺物が出土している。

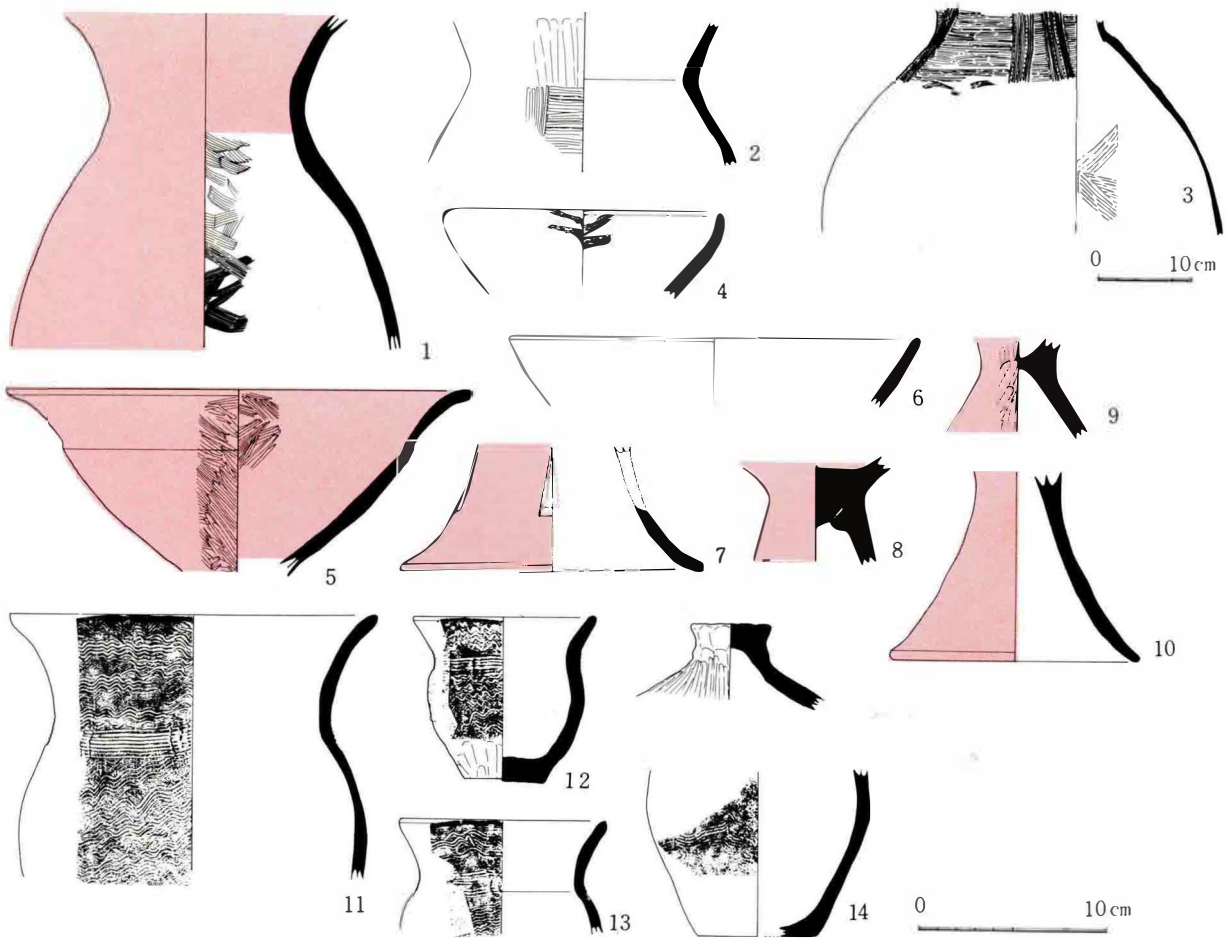


III-210 14号・15号住居址実測図



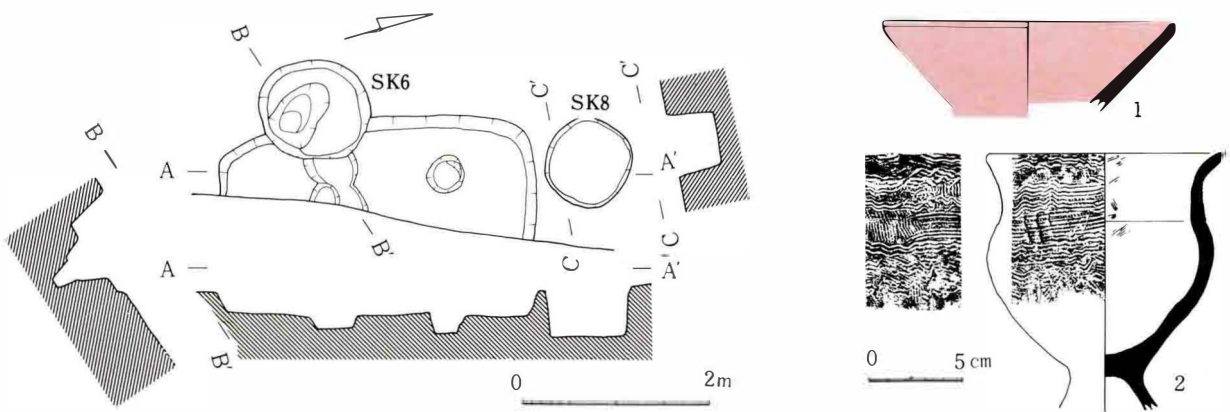
III-211 14号・15号住居址・15号住居址土器出土状態

15号住居址 27号住居址を切って構築され、14号住居址に切られている。形態は6.20×4.60mのやや胴張りぎみの隅丸長方形を呈すと思われる、およそ北東方向に主軸がある。主柱穴は3個確認されているが、4個を長方形に配列していたものと思われる。炉は北東側柱穴間中央やや壁寄りに検出され、地床炉である。炉周辺ならびに北東側主柱穴周辺には炭化物が集中して検出されている。また、住居址東南隅ならびに炉周辺の床面上から土器が比較的集中した状態で検出された。床面は平坦であるが貼床は認められない。掘り込みは、東壁で8cm・南壁で14cmを測る。



III-212 15号住居址出土土器

壺・甕・高坏・蓋形土器が出土している。壺形土器の3は体部の球形化が著しい。1は頸部文様帯がなく、2はくの字状に強く屈曲する頸部になる。甕は中形のもの(11)と小形のもの(12~14)がある。11の波状文は、施文順序が簾状文を最後に描くという善光寺平では類例の少ない資料である。高坏は坏中位に屈曲を有する(5)と坏部が椀状を呈す(4・6)の2形態が存するが、壺形土器の特徴とともに比較的新しい時期のものと考えられる。



III-213 17号住居址実測図・出土土器

17号住居址 19号住居址を切って構築され、土壇6に切られる。形態は短軸約3.40mの隅丸長方形を呈すると思われ、主軸はおよそ東西方向になる。主柱穴は1個確認されているが炉址等の詳細は不明である。



III-214 17号住居址

出土遺物(III-213) 壺・甕・高坏形土器がある。図上復元できるものは台付甕と鉢形土器がある。台付甕は口縁部が短く外反して終り、体部に最大径がある。文様は頸部に櫛描簾状文を施文した後波状文を施す。鉢形土器は体部が直線的に外開する形態を呈し、内外とも赤色塗彩される。



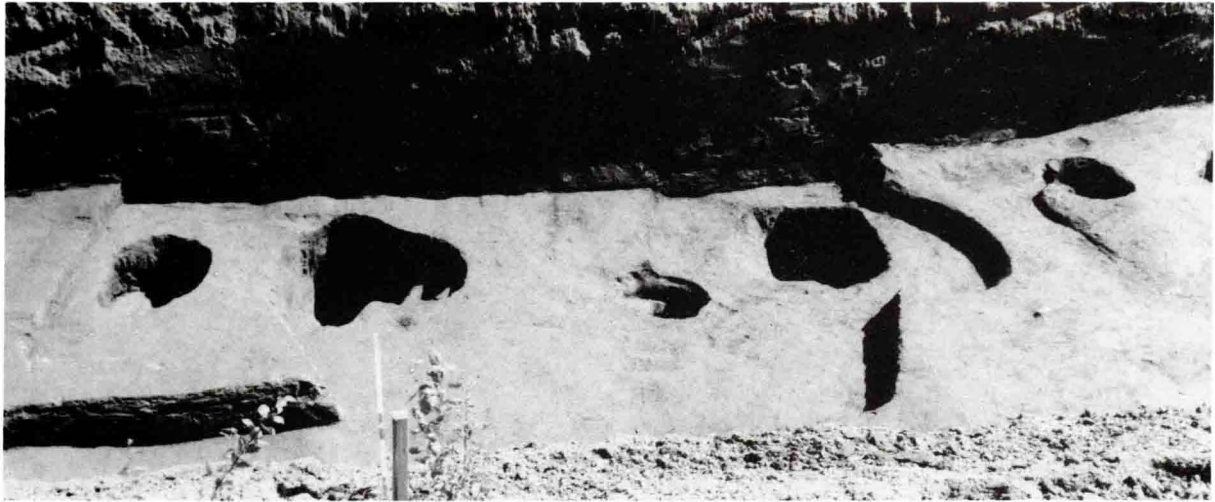
III-215 18号住居址

18号住居址 24号住居址を切って構築され土壇15・16に切られている。形態は一辺約4.80mの方形を呈し、支柱穴は2個検出されている。炉址等の詳細は不明である。

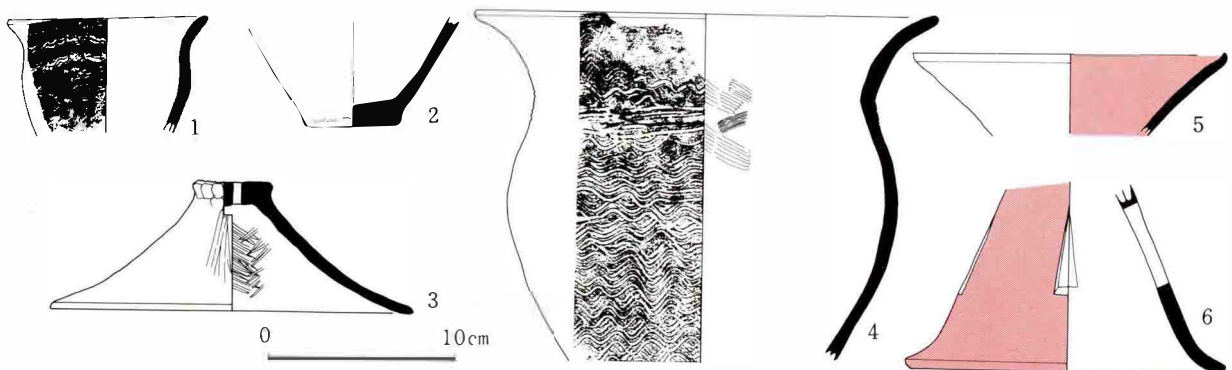
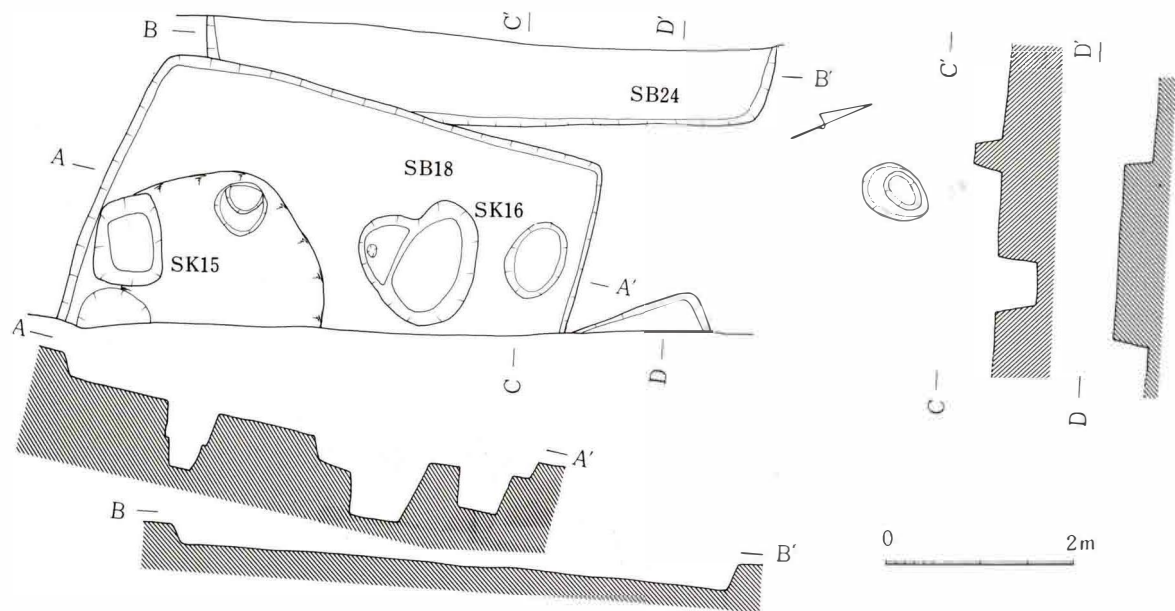
24号住居址 18号住居址に切られるが、形態は一辺約6.0mの方形を呈すると思われる。

18号住居址からは図示した小形の甕・蓋・鉢形土器が出土しているほか、高坏形土器片がある。

24号住居址からの出土遺物量は少なく壺・甕・浅鉢・高坏形土器が出土している。5の壺形土器は口縁端部が若干立ち上がる形態を呈し、内面だけ赤色塗彩される。4の甕形土器は口縁部に最大径を有し、櫛描波状文を下から上の順序に施文した後に、頸部に櫛描簾状文を描く。6の高坏形土器脚部に4個の三角窓がうがたれる。



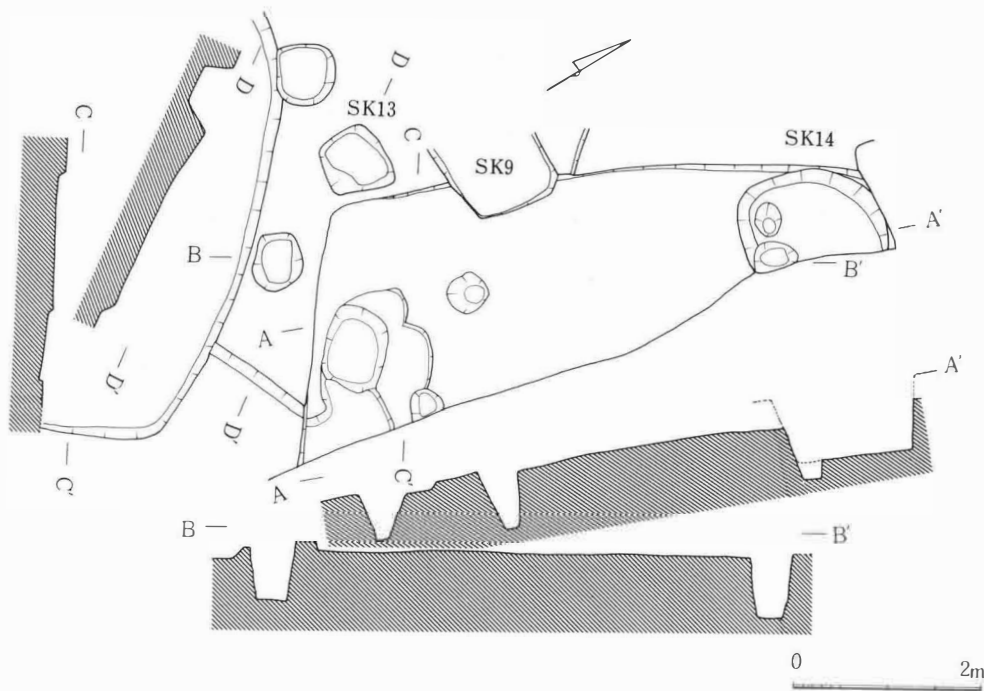
III-216 18号・29号・24号住居址



II-217 18号・24号住居址実測図, 18(1~3)・24号(4~6)住居址出土土器

22号住居址 形態は一辺約5.0mの方形を呈すると思われるが、18号住居址に切られ、また西側半分が調査区外のため、炉は不明であるが、柱穴は東南隅に一個確認された。壁高は南壁で65cmを測る。

23号住居址・26号住居址 弥生中期の25号住居址と重複するため、かろうじて北壁の一部を確認されたにすぎない。検出面からの掘り込みは、25cmを測る。

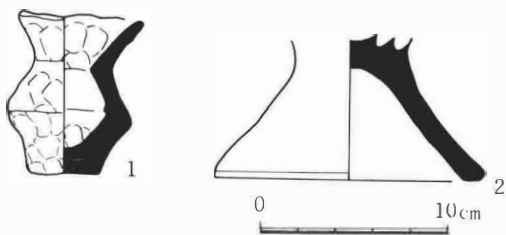


III-218 21号住居址, 土壇13・14実測図

21号住居址 長軸約6.0mのやや胴張りの隅丸長方形形態を呈すると思われる、土壇9・14に切られる。主柱穴は2個検出されているが、4個長方形配列と思われる。炉址等詳細は不明である。

土壇14 一辺1.20mの隅丸方形を呈し、深さ80cmを測る。

土壇13 不整形を呈し、深さ30cmを測る。性格は不明である。



III-219 21号住居址出土土器

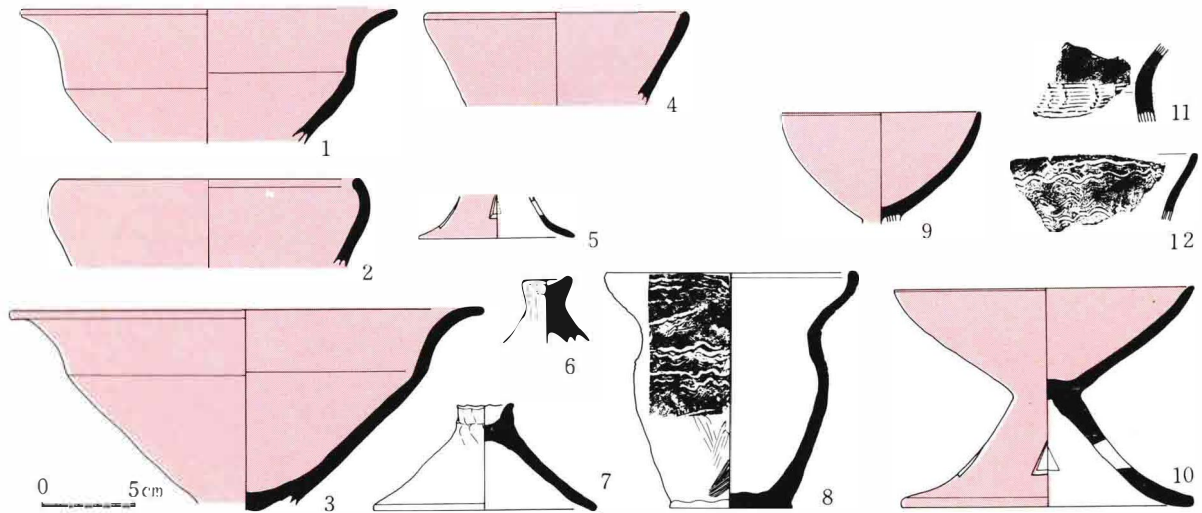
出土量は少ないが、壺・甕・高坏・台付甕・鉢形土器片が出土している。1は壺形土器のミニチュア品であるが、内外面ともに指頭による調整痕を顕著に残している。2は小形高坏形土器の脚部破片で、短くハの字状に強く外開して終る形態を呈する。石器に砥石(III-171-26)と磨石(同-34)が出土している。



III-220 21号・25号・23号・26号・20号住居址



III-221 22号住居址



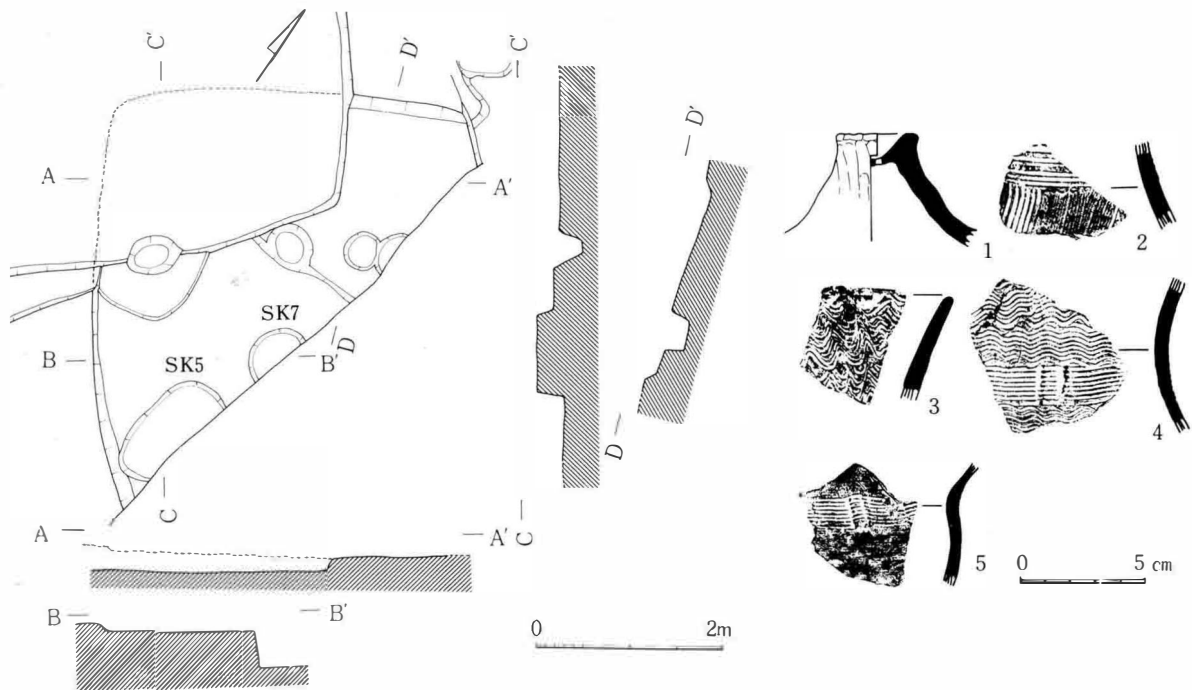
III-222 22号(1~8)・23号(9~12)住居址出土土器

22号住居址 出土量は比較的多く、壺・甕・台付甕・高坏・蓋形土器が出土している。8は小形の甕形土器で、口縁端部は内弯して立ち上がり受口状を呈し、この部分に最大径がある。施文は雑になされるが、内面には丁寧なヘラミガキ整形が施されている。高坏形土器は、坏部中位に屈曲を有するもの(1・3)、坏部が底部より直線的に外開して終るもの(4)、口縁部が内弯するもの(2)の3形態が認められる。いずれも、内外面ともにヘラミガキ整形され、赤色塗彩される。5は小形高坏形土器の脚部であるが、脚端部付近で強く外開する形態を呈する。また、三角形透かし孔を4個あけている。

23号住居址 出土量は多くなく、図上復元できるものは以下の器形である。9は高坏の小形のもので、坏部は底部より内弯気味に立ち上がり、椀状の坏部を呈する。10は中形の高坏であるが、底部より直線的に外開し、端部で若干内弯する坏部と、ハの字状に外開して終る脚部に分類できる。口縁部径と脚端部径とはほぼ等しく、また、脚部には三角形透かし孔を4個あけている。12は甕形土器で、口縁端部が内弯ぎみに立ち上がる形態を呈する。



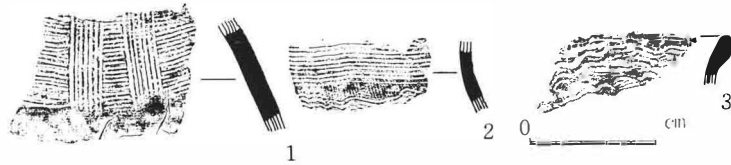
III-223 23号住居址



III-224 27号住居址実測図・出土土器

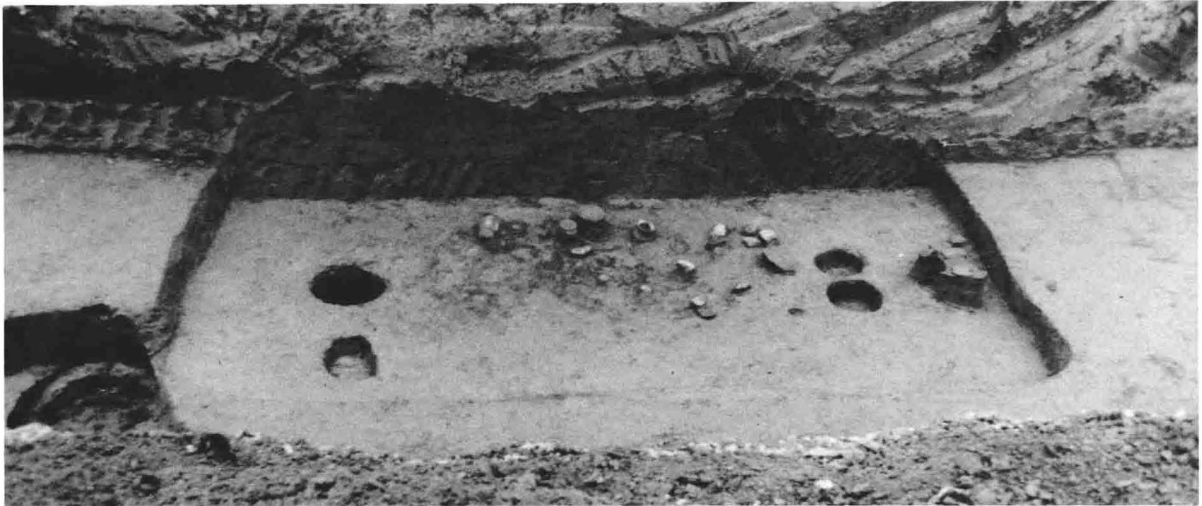
27号住居址 形態は短軸約3.80mのやや胴張りの隅丸長方形を呈すると思われるが、14号・15号・16号住居址に切られているため柱穴・炉址等の詳細は不明である。

出土土器は30余点と少ないが、蓋形土器ならびに壺・甕形土器の破片がある。1は蓋形土器で端部が長く外開し、天井部でくびれ状を呈してつまみ部を形成し、上面には小円孔が一孔うがたれている。2は壺の肩部破片と思われ、櫛描横線文が描かれ、その下に縦に垂下する文様が認められる。3・4は甕形土器の破片であるが、いずれも櫛描波状文と櫛描簾状文とが描かれている。

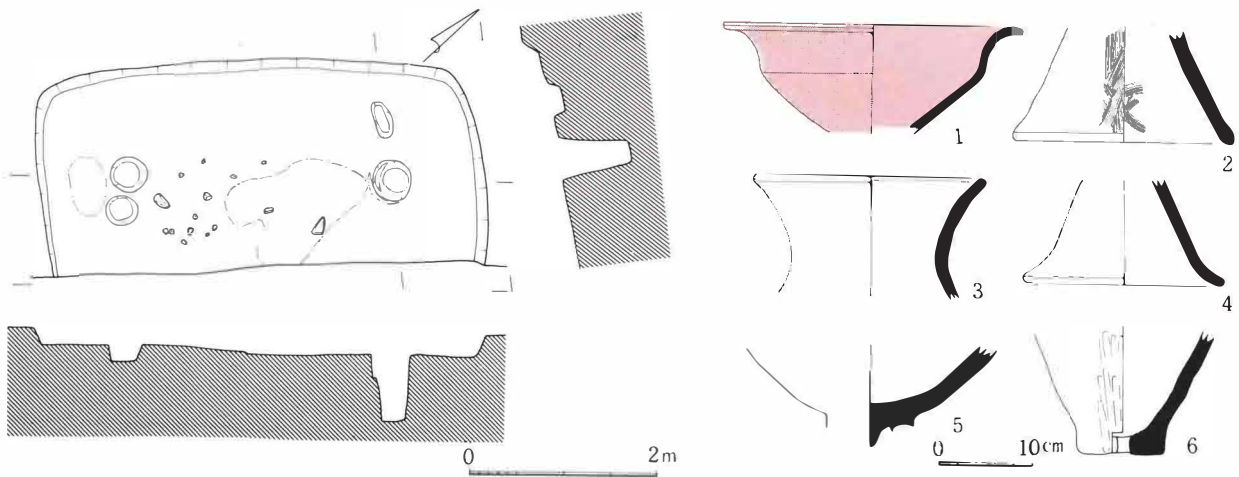


III-225 29号住居址出土土器

壺・甕形土器の破片が出土している。1は壺肩部の破片であるが、櫛描T字文が描かれる。施文原体は同一で、文様帯以外は赤色塗彩される。2・3は甕形土器の破片である。3は折り返し口縁を呈し、口唇部にも施文がなされる。2は頸部破片で、櫛描横線文と波状文が施される。



III-226 31号住居址

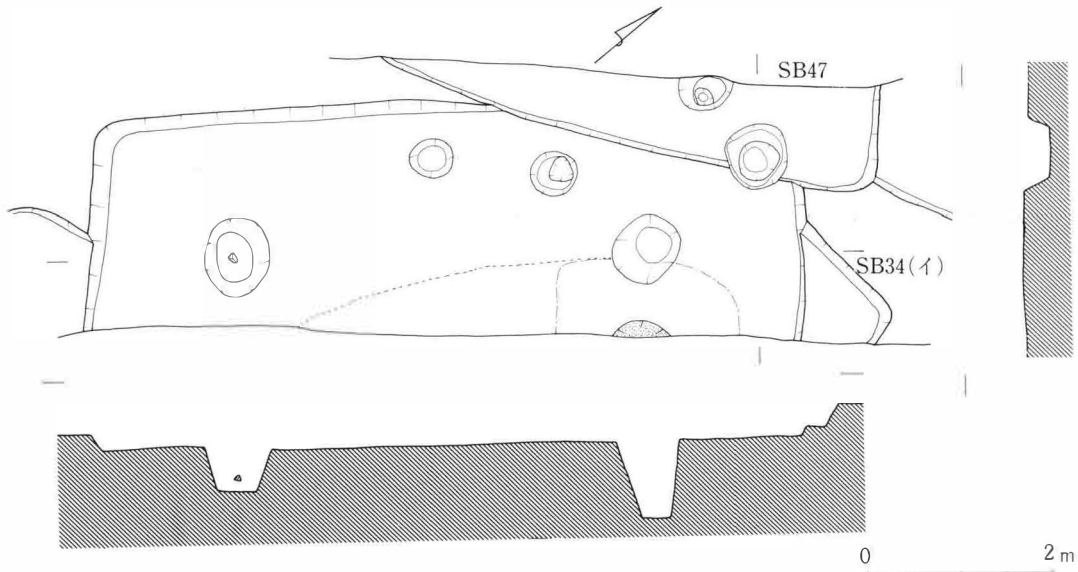


III-227 31号住居址実測図・出土土器

34号・47号住居址を切って構築され、32号住居址に切られている。長軸約4.70mの隅丸長方形形態を呈する。主柱穴は2個確認されたただけであるが、4個の長方形配列と思われる。補助支柱と考えられる柱穴も2個検出されている。炉址は不明である。

出土土器には、壺・高坏・甑形土器がある。壺形土器の3は、口縁部はそれほど大きく開かない小形品であると思われる。高坏形土器には、坏中位に鋭い屈曲をなして口縁部が外反する(1)と、椀状の坏部を呈する(5)の2つの坏部形態が認められる。2・4は高坏の脚部であり、ともにハの字状に短く開いて終る形態を呈する。甑形土器の6は、底部に一孔を有し、体部は底部より直線的に外開し、鉢形を呈する。

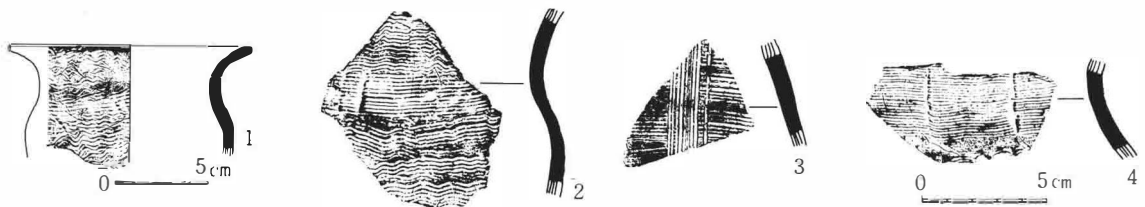
34号(ロ)住居址 31号・65号住居址下から検出された住居址で、34号住居址を切り、47号住居址に切られる。長軸7.50mの隅丸長方形形態を呈すると思われる、およそ北東に主軸を向ける。主柱穴は2個検出され、4個長方形配列かと思われる。北東側柱穴間に炉が位置し、地床炉である。住居址中央部には貼床が認められる。47号住居址も隅丸長方形プランを呈すると思われるが規模、構造等詳細は不明である。



III-228 34号(ロ)・47号住居址実測図



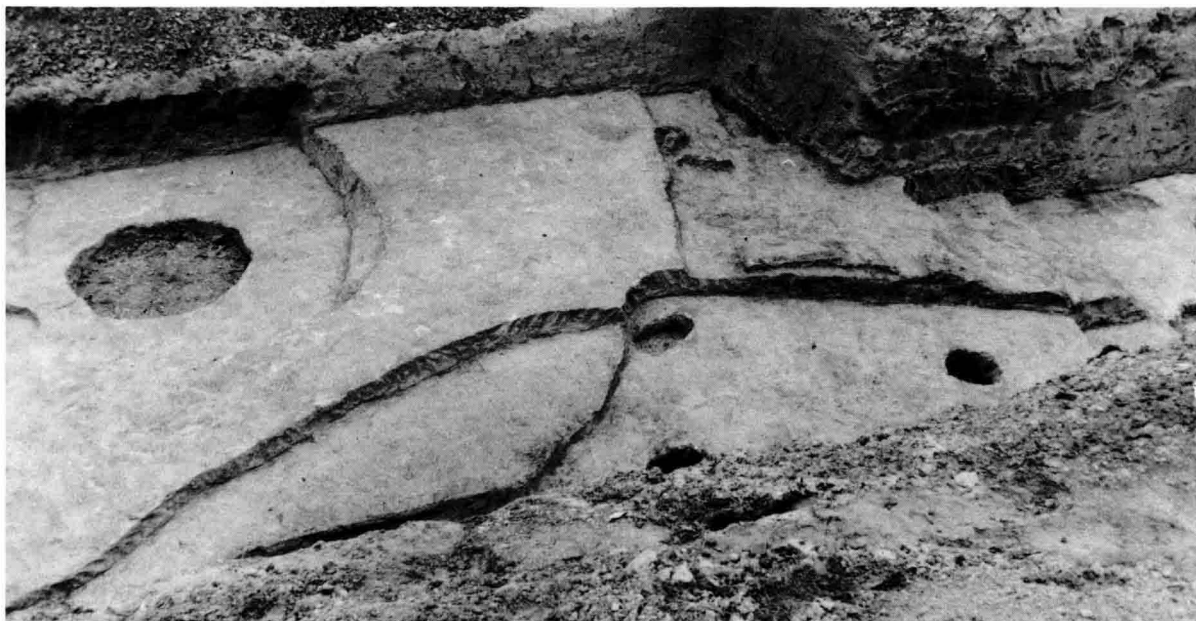
III-229 34(ロ)号, 47号住居址



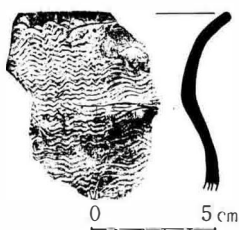
III-230 34号(イ)(1)・(ロ)(2~4)住居址出土土器

34号(イ)住居址からは、小型の甕形土器が出土している。口縁部は頸部より強く外反し、端部は丸みをおびる。また口縁部に最大径がある。文様は、頸部に櫛描簾状文を施文した後、波状文が施される。

34号(ロ)住居址からは、壺・甕形土器の破片が出土している。3は壺頸部破片である。櫛描T字文が施文されている。2・4は甕形土器頸部付近の破片で、2は頸部に櫛描簾状文を施文した後に櫛描波状文が施文され、4は頸部に櫛描簾状文が2段施文されている。



III-231 37号・33号・35号住居址



甕形土器破片が出土している。口縁部は頸部より緩やかに外反して丸みをもつ。文様は櫛描波状文が施文されているだけで、簾状文は施文されない。内面はヘラミガキ整形が施される。このほか石器に砂岩製の砥石が出土している。

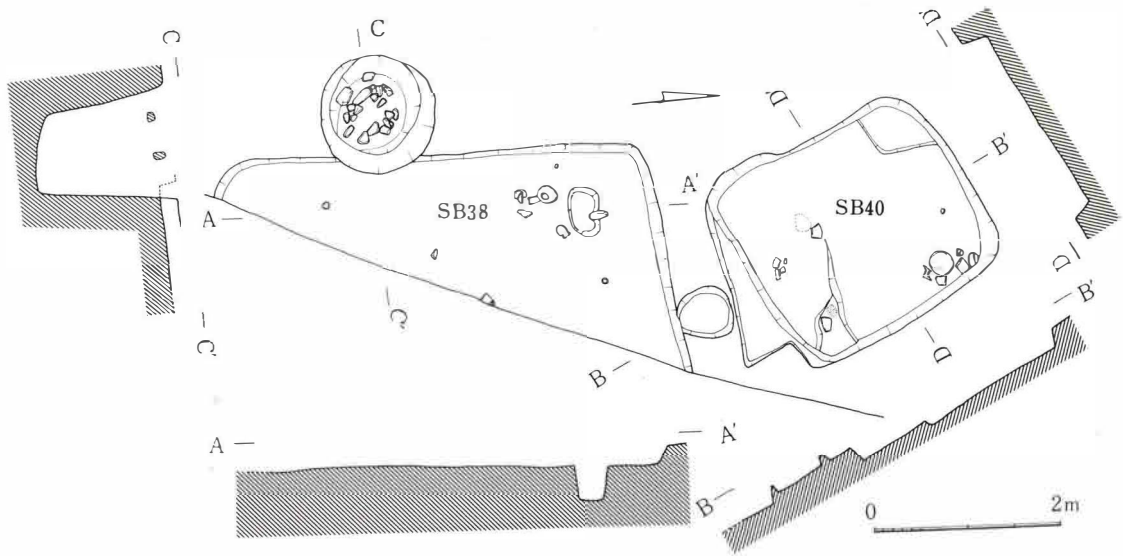
III-232 37号住居址出土土器



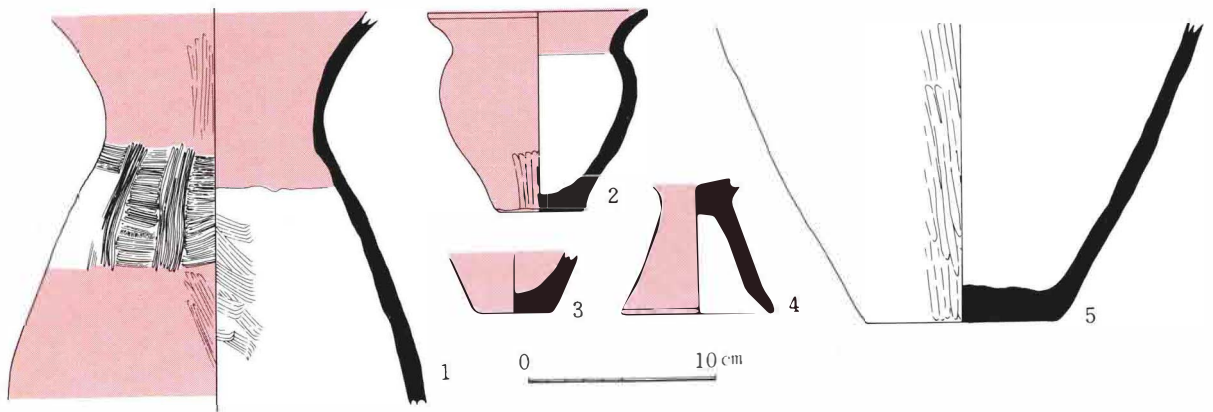
III-233 38号住居址



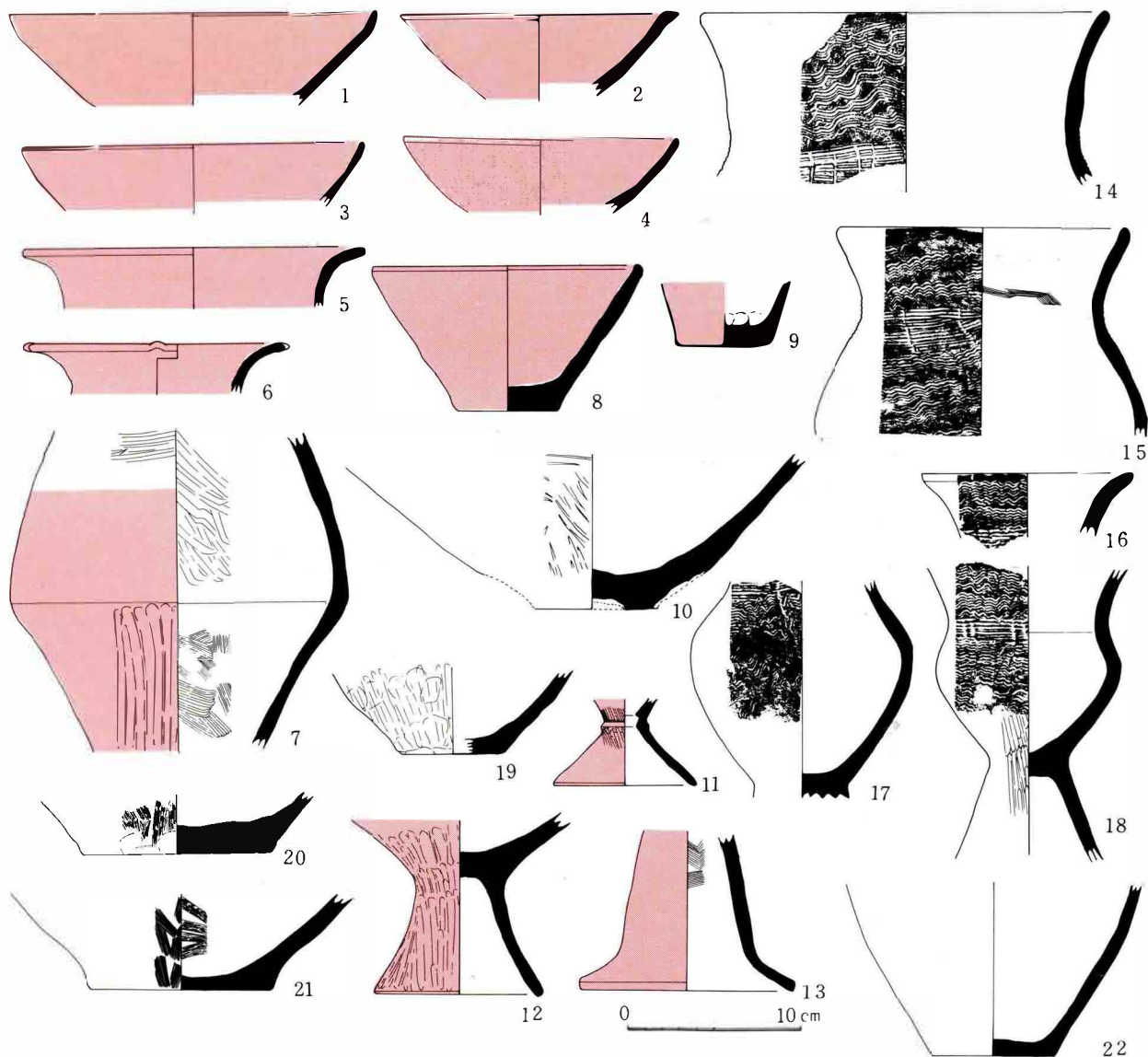
III-234 40号住居址



III-235 38号·40号住居址实测图



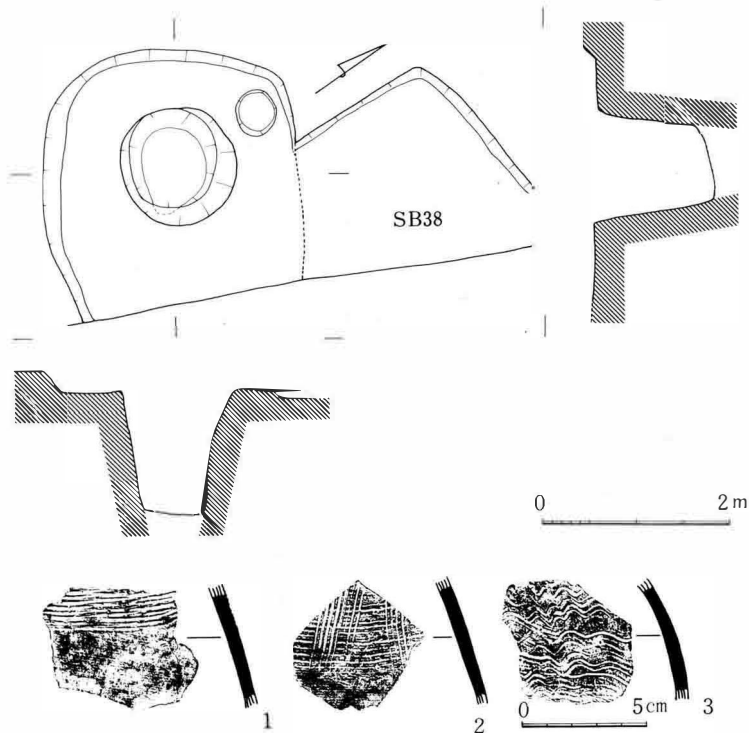
III-236 38号住居址出土土器



III-237 40号住居址出土土器

38号住居址出土土器(III-236) 壺・小形広口壺・高坏形土器とミニチュア土器が出土している。1は頸部下に楯描T字文を施す該期の典型的な壺形土器で、5は体部下半片である。2は小形の広口壺で、口縁部は頸部より強く外反し口縁部に最大径を有す。3はミニチュア品であるが、内外面ともヘラミガキ整形され赤色塗彩される。4は高坏脚部で、短くハの字状に外開し、底部でさらに外開して終る。また凹石(III-171-1)が出土している。

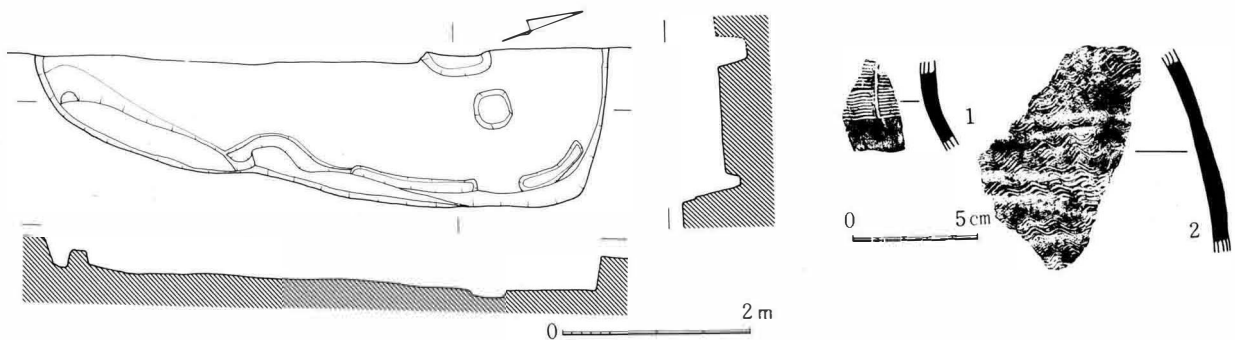
40号住居址出土土器 出土量は多く、壺・甕・台付甕・鉢形土器がある。6は口縁端部に山形突起が付される。7は壺体部片であるが、下半のくびれ部に鋭さが無い。10・19~21は壺底部片である。5は広口壺で、口縁部はゆるやかに立ち上がり、端部で強く外反する。14は大形の甕形土器で、口縁部はゆるやかに外反する。頸部に楯描横線文とヘラ切りT字文が施される。15は体部中位に最大径があり、口縁端部は内弯気味に立ち上る。文様は頸部に二段の楯描波状文を描いたのち、口縁部と体部に帯を意識した楯描波状文になる。16~18は小形の台付甕で、体部中位に最大径のある17と口縁部に最大径のある18の二形態がある。文様はいずれも頸部に楯描簾状文を施文したのち、波状文が描かれる。1~4は高坏形土器である。1は直線的に外開した坏部が端部で内弯気味に立ち上り、2の口縁部は水平様になり、3・4は椀形になる。11は脚部片で、坏部との接合部付近に断面三角形の突帯がめぐらされる。12・13も脚部であるが、12は短くハの字形に外開して終る。8・9は鉢形土器であるが、体部はいずれも底部より直線的に外開して終る形態になるものと思われる。22は甕形土器の体部下半である。



III-238 39号住居址、土壌 22 実測図・出土土器



III-239 38号・39号住居址、土壌 22



III-240 41号住居址実測図・出土土器

39号住居址 38号住居址、3号井戸址に切られる。2.66×(2.90)mのやや胴張りの隅丸長方形を呈する。支柱穴・炉址等詳細は不明である。主軸はN 55°W方向になる。

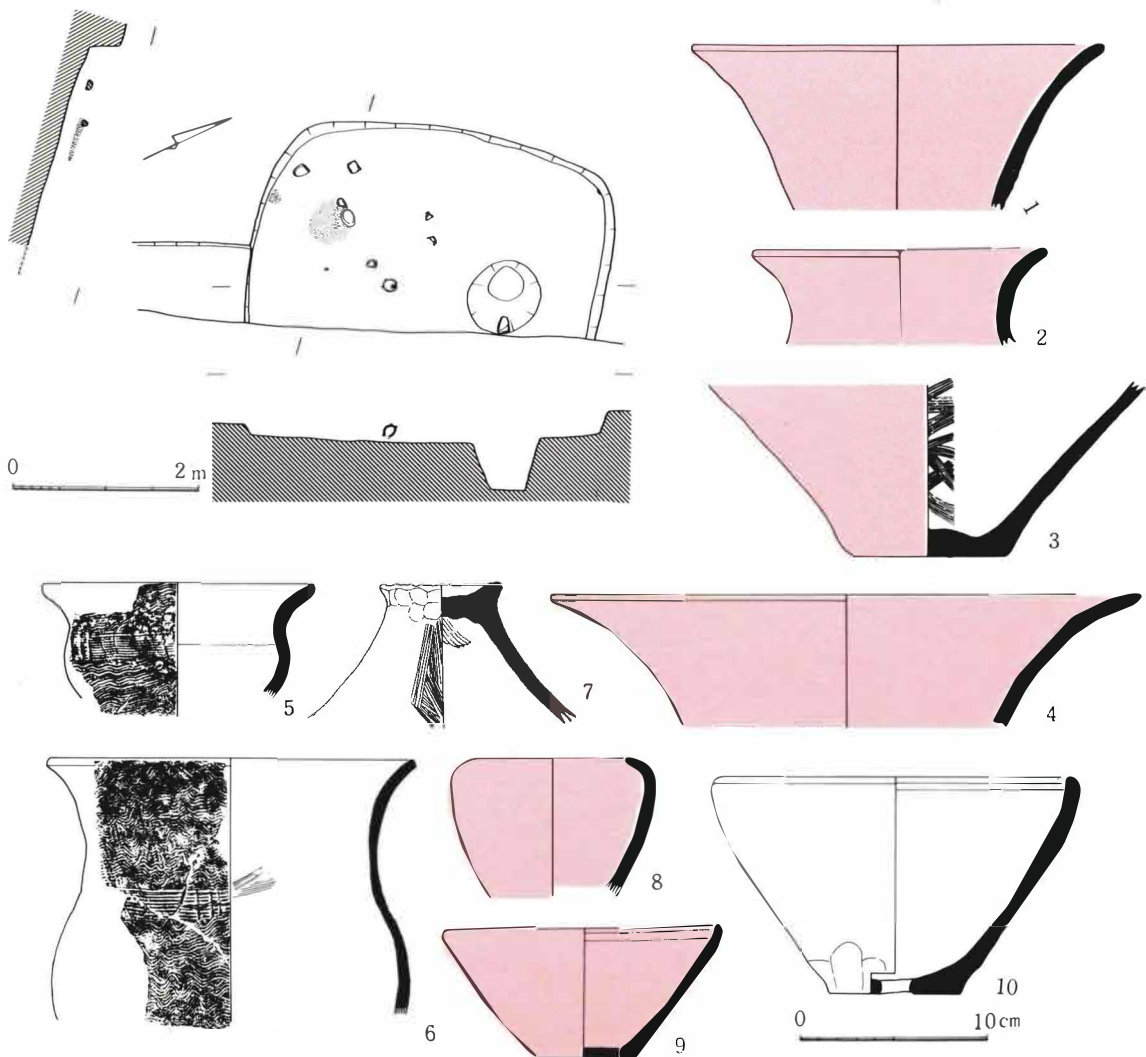
出土土器は破片であるが、壺・甕形土器がある。1・2はともに壺肩部の破片であり、楯描T字文が施されている。3は甕形土器体部上半の破片で、楯描波状文が3段、下から上の順序に施文されている。

41号住居址 79号住居址を切って構築されている。長軸約6.0 mの隅丸長方形を呈すると思われる。未調査部分が多く炉址等は不明だが、柱穴1個ならびに周溝が東壁側で検出されている。

出土土器量は少なく、器種には壺・甕・高坏形土器がある。1の壺は櫛描横線文をへらで切るへら切りT字文が施される。2の甕は体部上半の破片であるが、櫛描波状文が6段、上から下への順序に施文されている。



III-241 41号住居址



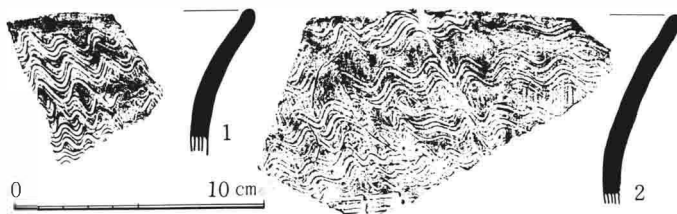
III-242 43号住居址実測図・出土土器



III-243 43号住居址

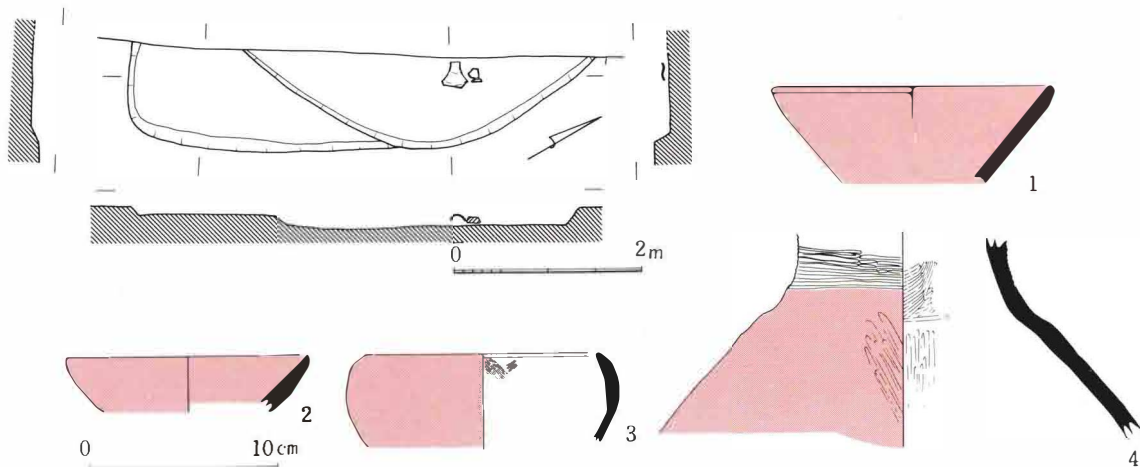
43号住居址 79号住居址・3号溝址を切り、44号住居址に切られる。長軸3.80mの隅丸方形を呈するが、柱穴・炉址等詳細は不明である。

出土土器(III-242)には壺・甕・甑・蓋・鉢形土器がある。壺の1・3・4は大形品、2は広口壺である。6の甕は中形品、5は台付甕であり、ともに頸部に簾状文を施文したのち、波状文をめぐる。10は底部中央に一孔を有する甑で、鉢(8・9)同様、底部より直線的に外開した体部が、口縁部で内弯する特徴を有する。



III-244 51号住居址出土土器

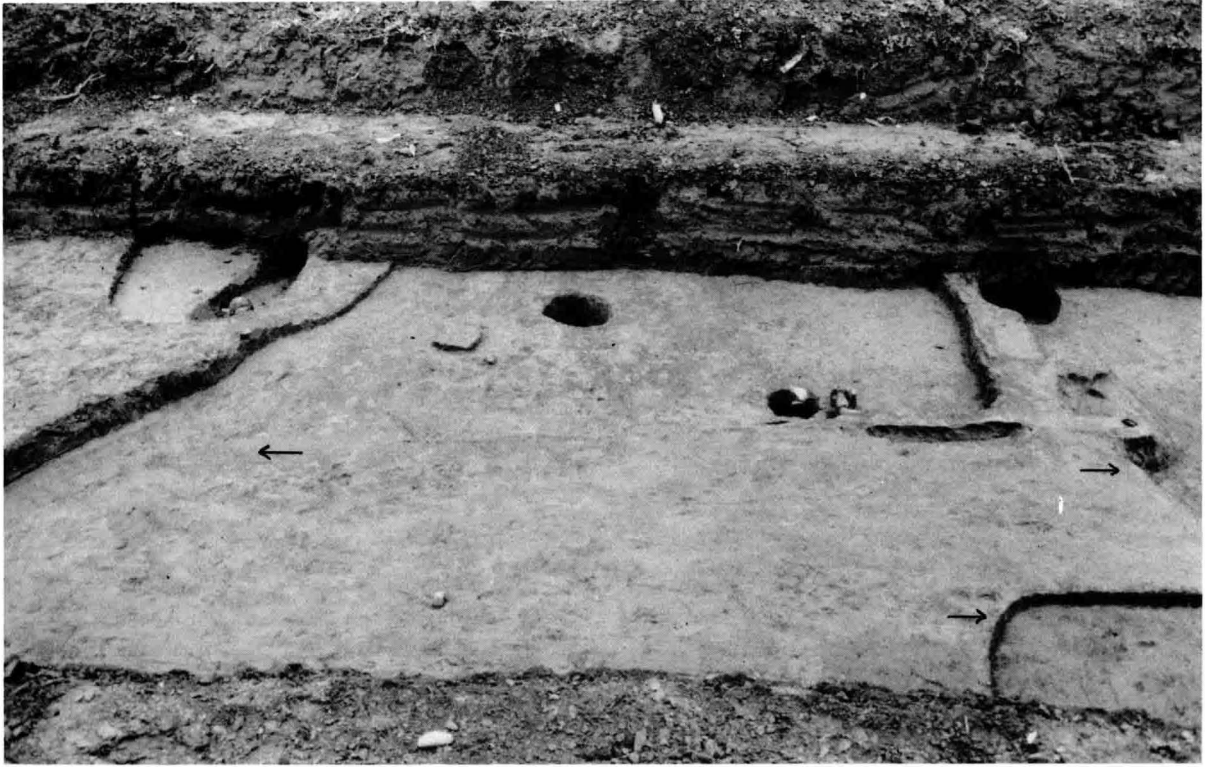
甕形土器破片が2点出土している。ともに頸部よりゆるやかに外反して立ち上った口縁部が、端部付近で内弯ぎみに立ち上り、丸みをもって終る形態を呈す。



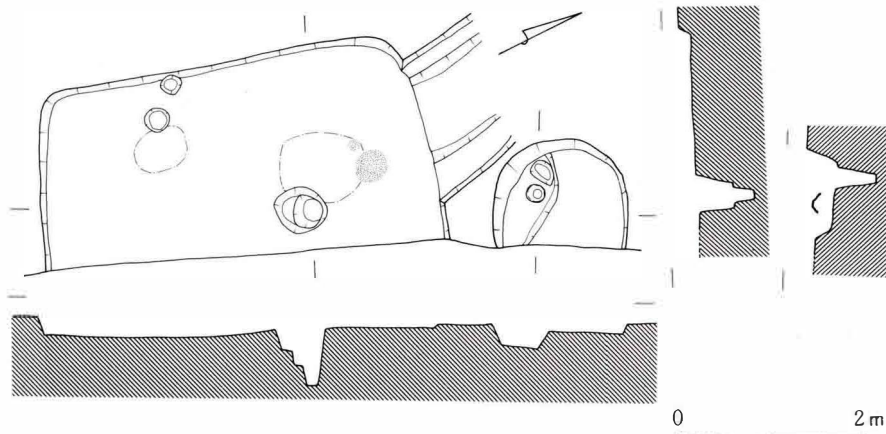
III-245 55号・56号住居址実測図・出土土器

55号・56号住居址 遺構詳細は不明であるが、隅丸長方形を呈するものと思われる。

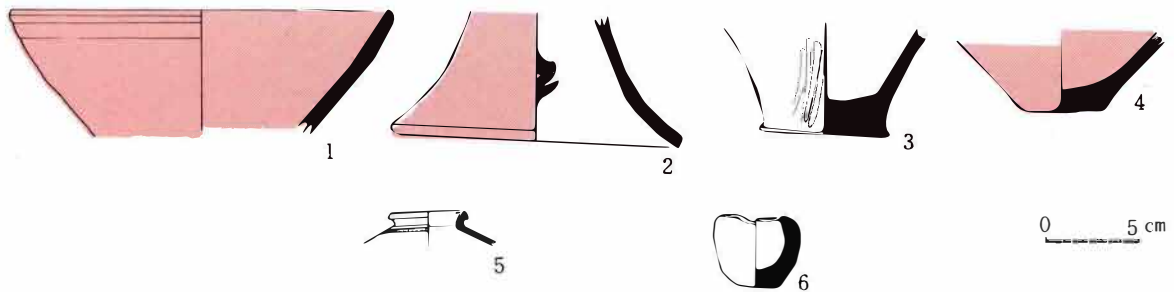
4は壺頸部片で、へら描横線文を施す。鉢形土器には、1の鉢状、2の皿状、3の椀状を呈する三形態がある。このほかに平板状の台石(磨石)が出土している。



III-246 57号住居址



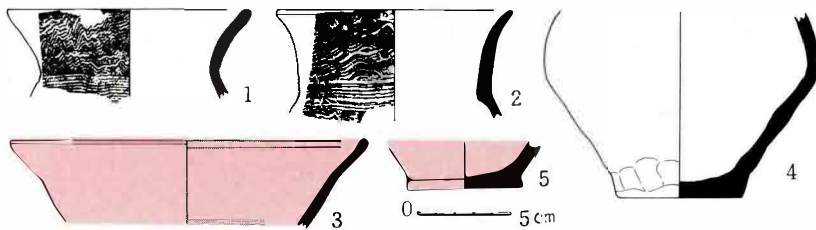
III-247 57号住居址実測図



III-248 57号住居址出土土器

8号溝址により破壊を受ける。形態は隅丸方形を呈し、主軸方向はN 17°Eになる。南北4.25 mを測る。

1は高坏坏部で口縁部が有段になる。2は脚部でハの字状に外開する。4は鉢形土器底部である。5は広口壺のミニチュアであるが、複合口縁になり、断面三角形を呈する。また頸部下には刺突文が施される。6は手捏形土器で、外面はヘラナデ整形される。3は甕形土器の底部で、外面はヘラミガキ整形である。

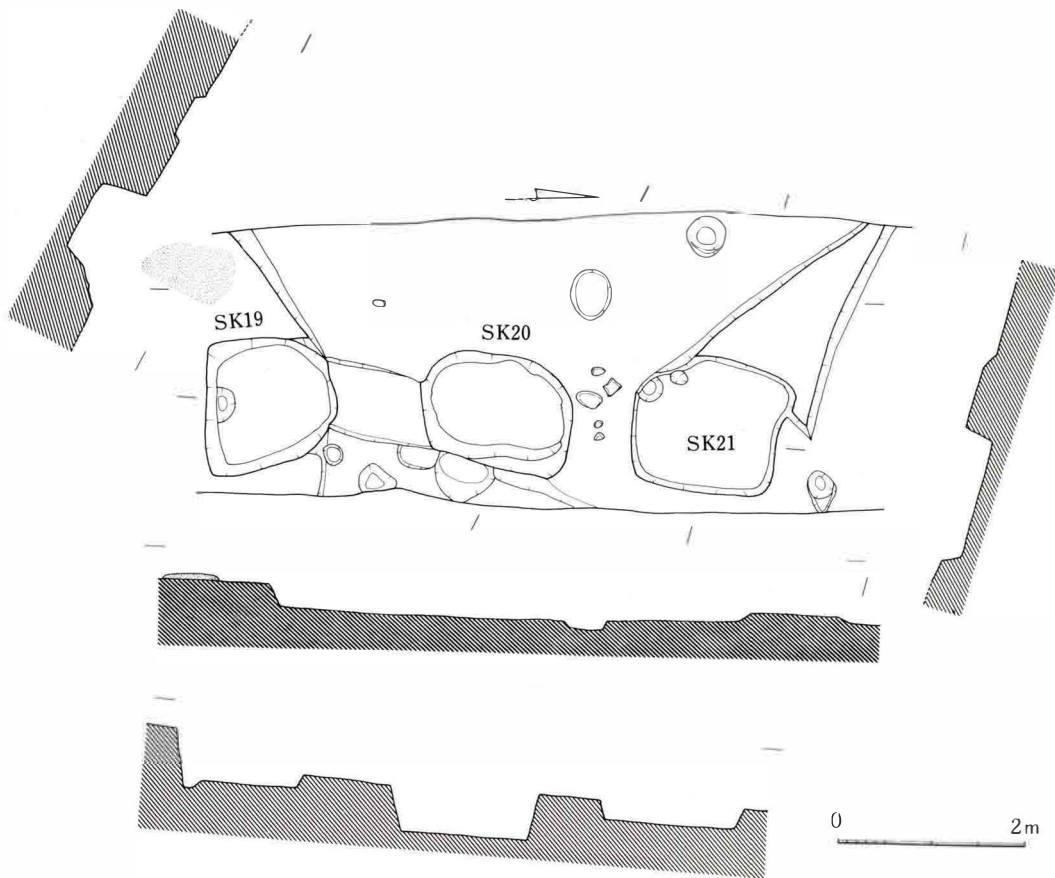


III-249 61号住居址出土土器

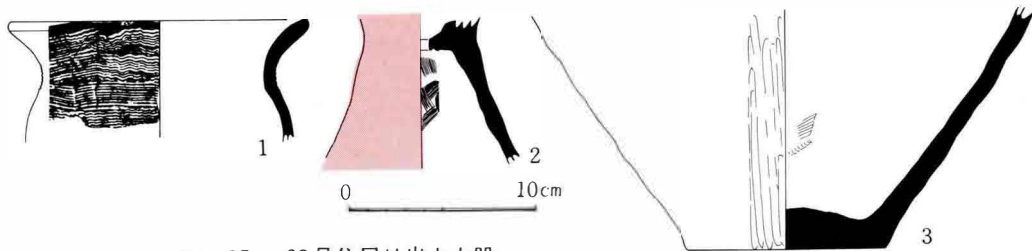
61号住居址

62号住居址の南側に位置しており、調査時ではすでに床直上付近まで掘り下げられていた。そのため規模・内部施設等不明であるが、床面に貼床がみられ、出土土器はこの貼床及びその直上からのものである。

小形壺・甕・高坏・鉢形土器が出土している。4は体部中位に最大径を有する壺形土器である。甕はともに小形品で、1は口縁部がくの字状に外反し、2はゆるやかに立ち上りつつ外反する。3は高坏坏部で内弯気味に立ち上ったのち、口縁部は更に内弯気味に外開し、端部内面は丸く肥厚する。



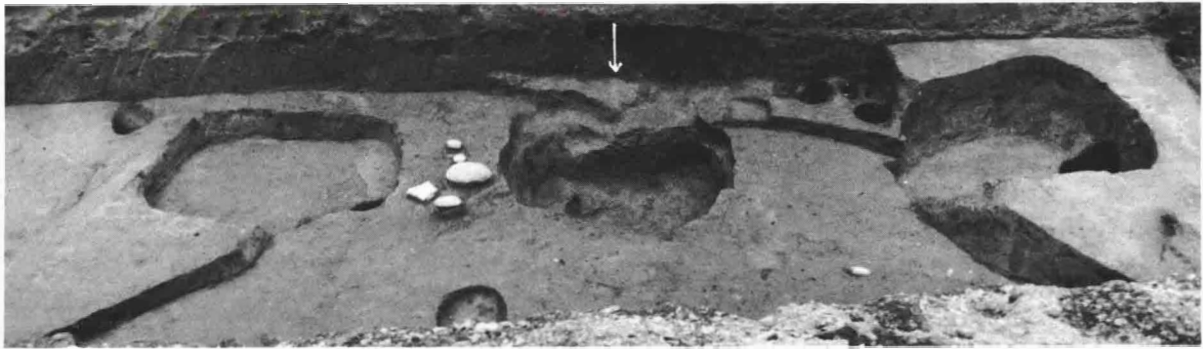
III-250 62号住居址、土坑 19~20 実測図



III-251 62号住居址出土土器

63号住居址より古い。形態は隅丸方形を呈するものと思われるが、西側の半分以上調査区外にあり、規模等は不明である。主軸方向はN 40°Wである。

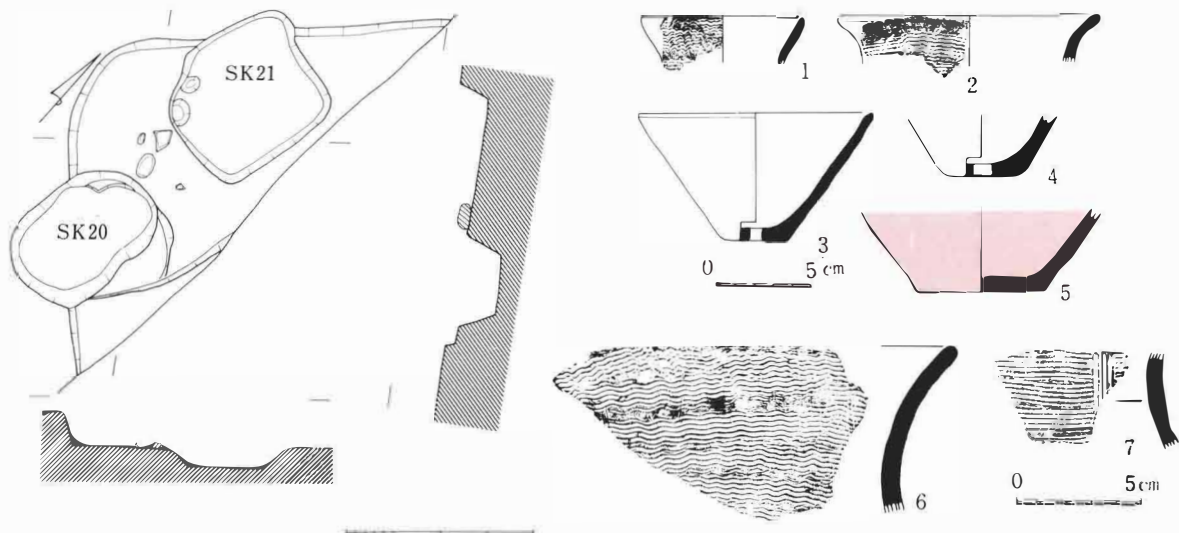
壺・甕・器台形土器が出土しているが、少量である。3は壺形土器体部下半、1は甕形土器体部上半の破片である。2は器台形土器で、坏底部から脚部にかけて円孔がうがたれる。



III-252 62号・63号住居址



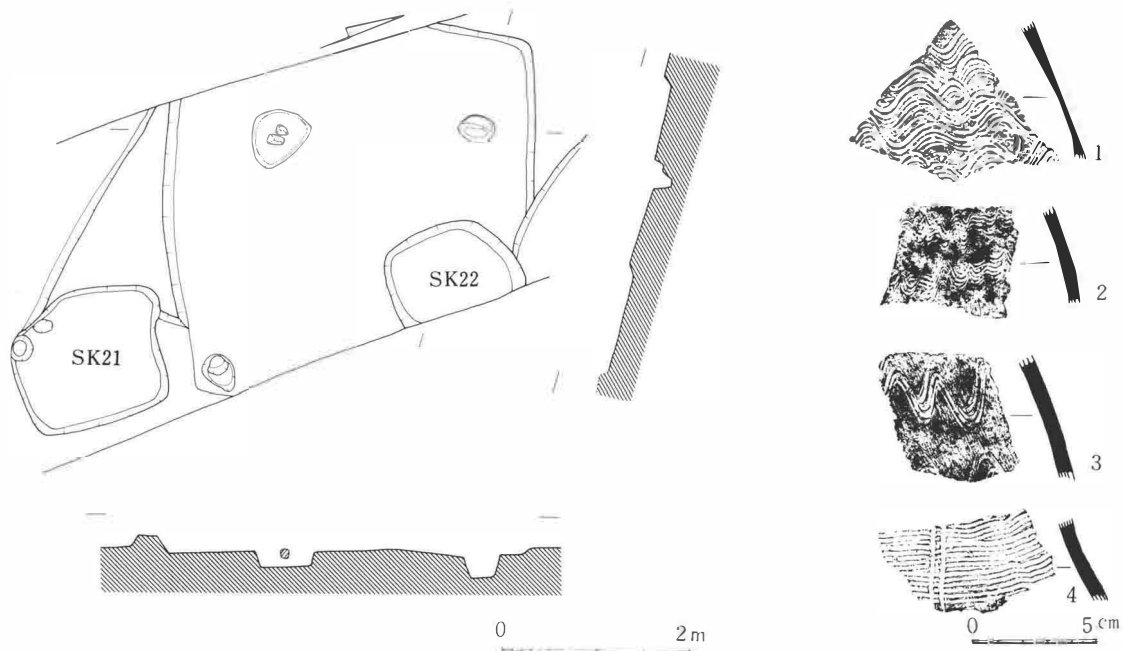
III-253 63号住居址



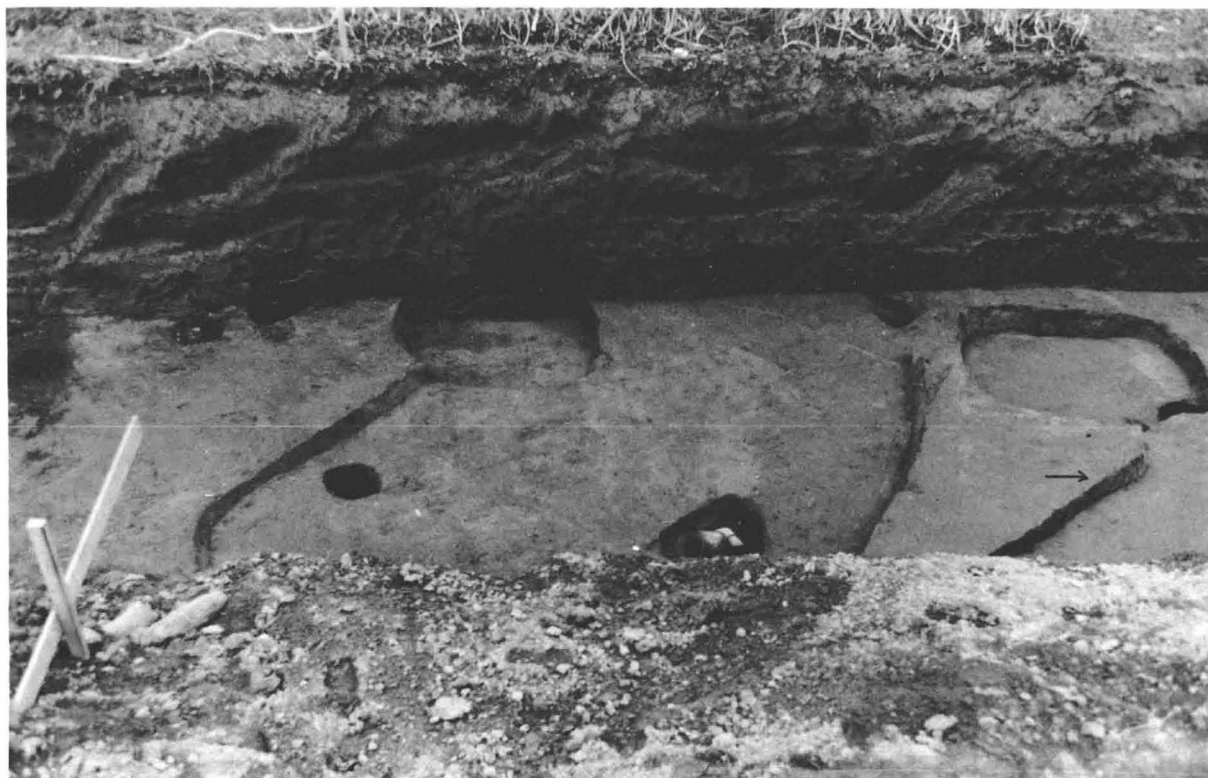
III-254 63号住居址実測図・出土土器

63号住居址 土壇20・21に切られる。未調査部分が多く規模等不明であるが、形態は隅丸方形を呈するものと思われる。柱穴・炉址等は不明であるが、主軸方向はN43°Wになり、北壁31cm・西壁35cmを測る。

出土土器には、甕・甑・鉢形土器と赤色塗彩された甕形・壺形土器破片がある。1は小形甕の口縁部で、頸部より内弯気味に立ち上がる。2も甕の口縁部であるが、頸部より短く外反し、端部は丸みを有する。3・4は甑形土器である。ともに底部に一円孔がうがたれ、体部は底部より直線的に外開する鉢形になる。5は鉢形土器で、内外面ともへらミガキされ赤色塗彩される。壺・甕の破片資料は各1点ずつ出土している。1は甕形土器口縁部破片で、頸部より緩やかに外反し、端部は丸みを有する。櫛描波状文が下から上へ6段施文されている。2は壺形土器の頸部破片で、櫛描丁字文が施される。



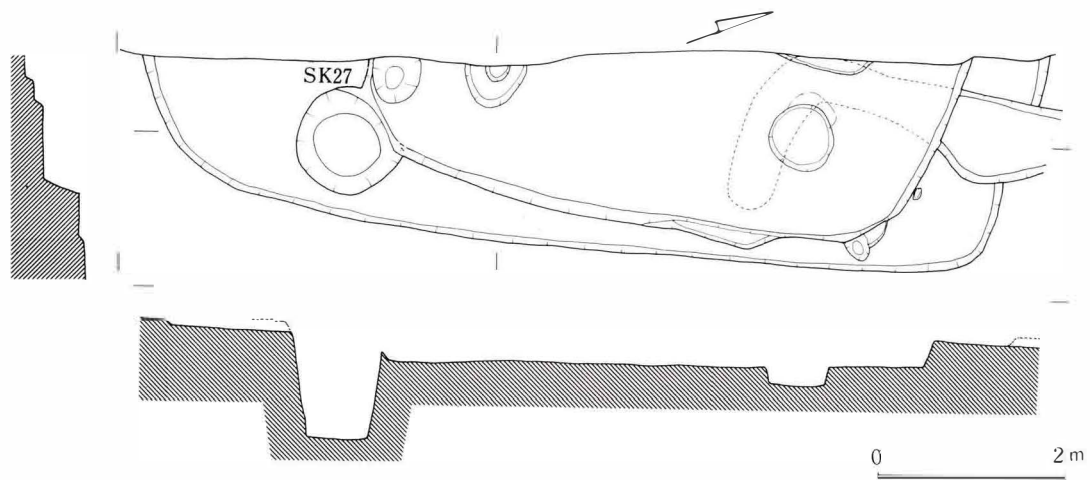
III-255 64号住居址実測図・出土土器



III-256 64号住居址

64号住居址 65号住居址およびに土壇22に切られる。短軸約4.0mのやや胴張りの方形プランを呈すると思われる。主軸方向はN9°Eを指す。支柱穴は2個確認され、方形に配列されていたと考えられる。炉址は不明である。床面は平坦で軟弱である。掘り込みは、北壁7cm・南壁13cm・東壁10cmにすぎない。

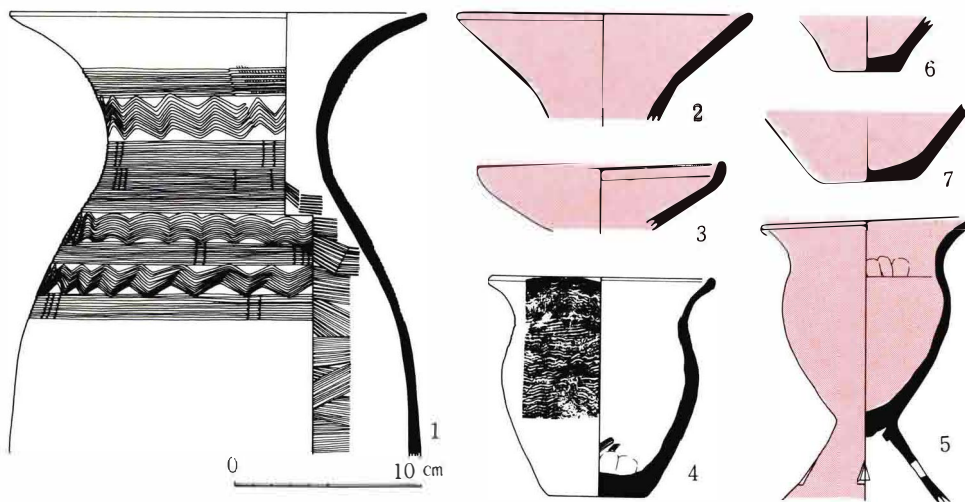
出土遺物量は多くないが、壺・甕・高坏・鉢形土器が出土している。1～3は甕形土器で、1には上から下へ楕描波状文が7段施文され、2・3には、楕描波状文が2段確認される。4は壺で、楕描T字文が描かれる。



III-257 71号・72号住居址実測図



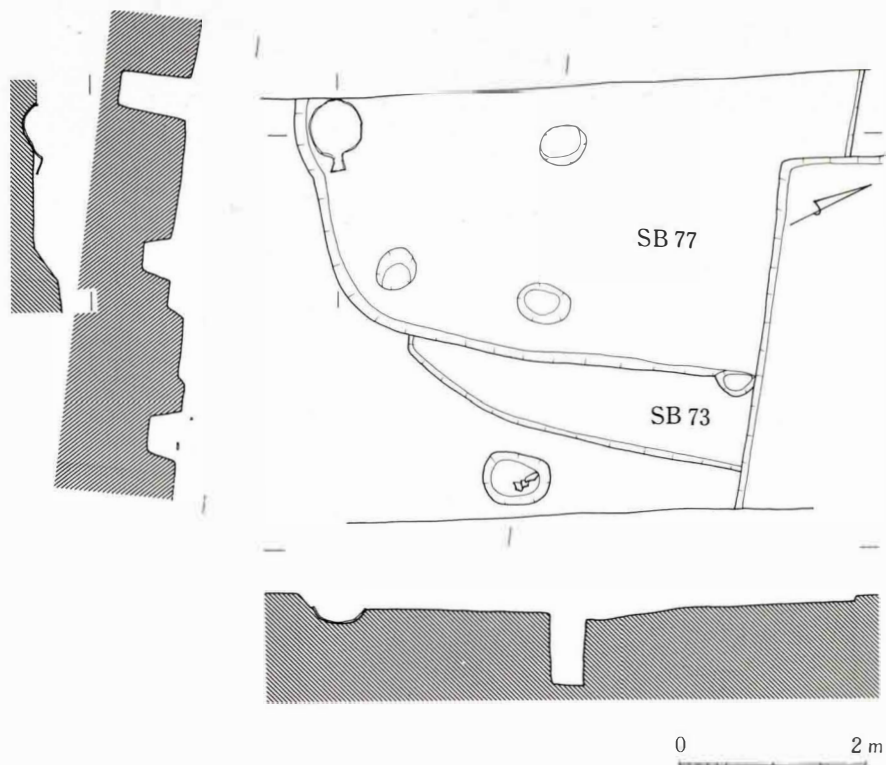
III-258 71号・72号住居址



III-259 71号住居址出土土器

71号住居址 形態は隅丸長方形を呈し、南北軸はN 34°Eになる。南北約6mの規模で、掘り込みは北壁が31cm、東壁が36cmと深い。炉は不明であるが、支柱穴は2個確認され、4個方形配列であろう。

出土遺物は比較的多い。1の壺形土器は該期の形態をとどめるものの、施文方法が異なり注目される。4は口縁部に最大径が有る小形甕形土器である。3・5は高坏形土器で、5は台付甕形を呈し、脚部に三角形透しが4孔ある。6・7は浅鉢形土器で、体部は直線的に外開する。2・3・5～7は内外面とも赤色塗彩が施される。

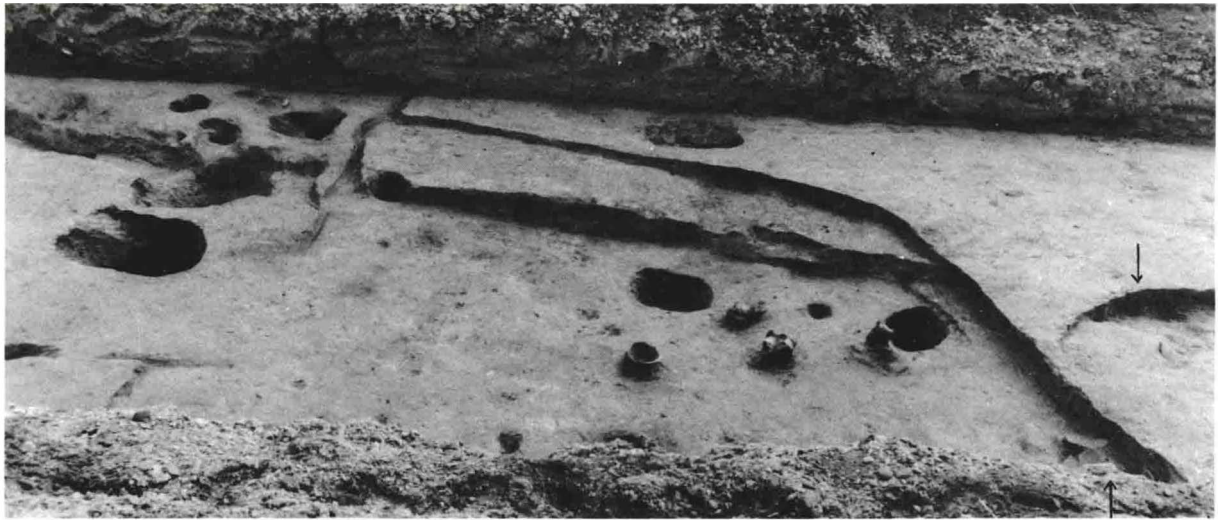


III-260 73号・77号住居址実測図



III-261 77号住居址出土土器

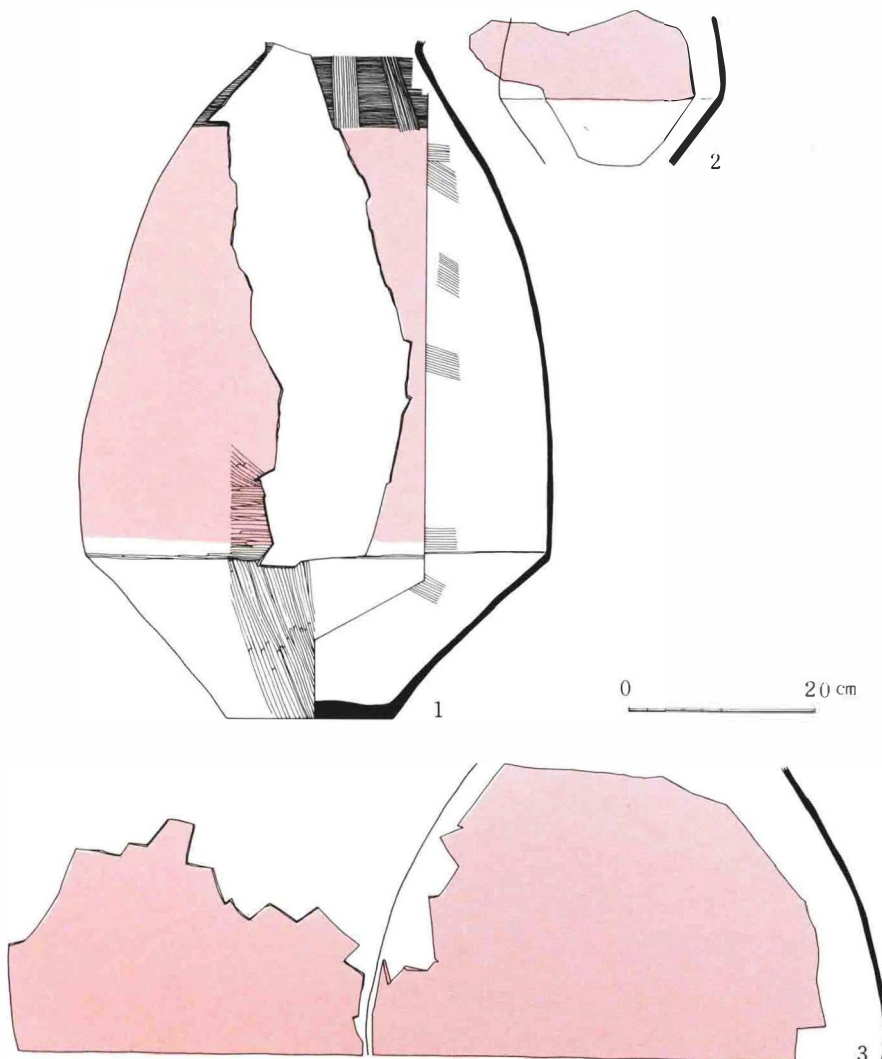
出土土器量は比較的多く、壺（7・8）・甕（5・6）・高坏（1～3）・浅鉢（4）及び赤色塗彩された広口壺・蓋形土器片があり、石器に凹石（III-170-4・12）が2点出土している。また土偶（III-166-3）の出土が見られたが、混入品であろう。1は坏部で、碗形を呈する。2・3は脚部片で裾部がわずかに外開する。4は底部外面を除き赤色塗彩が施される。5は台付甕形土器になると思われ、口縁部に最大径があり、端部は内弯気味になる。6は大形の甕で、体部中央に最大径がある。甕形土器の文様は、頸部に櫛描簾状文があるほか、体部下半まで波状文が施される。8の頸部文様帯は、ハケ整形後に櫛描T字文が施される。



III-262 73号・77号住居址

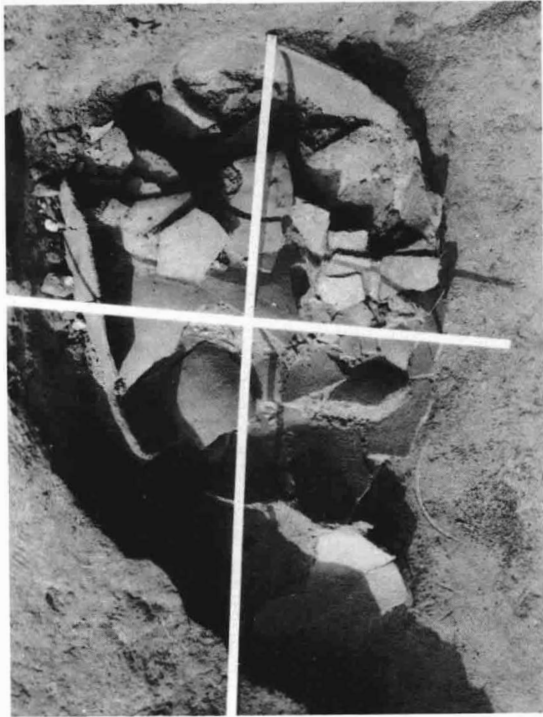
73号住居址 75号・77号住居址と複合関係にあるが、出土遺物がなく時期不明である。

77号住居址 南壁に合口壺棺が見られた住居址で、形態は、N 34°Eに南北軸がある隅丸方形を呈する。南北規模は5.9 mを測り、検出面からの掘り込みは、北壁4 m・南壁33 cm・東壁15 cmの深さになる。支柱穴は東壁沿いに2個確認され、6本柱の住居址を想定する。床面は平坦で軟弱である。炉址は確認できなかった。

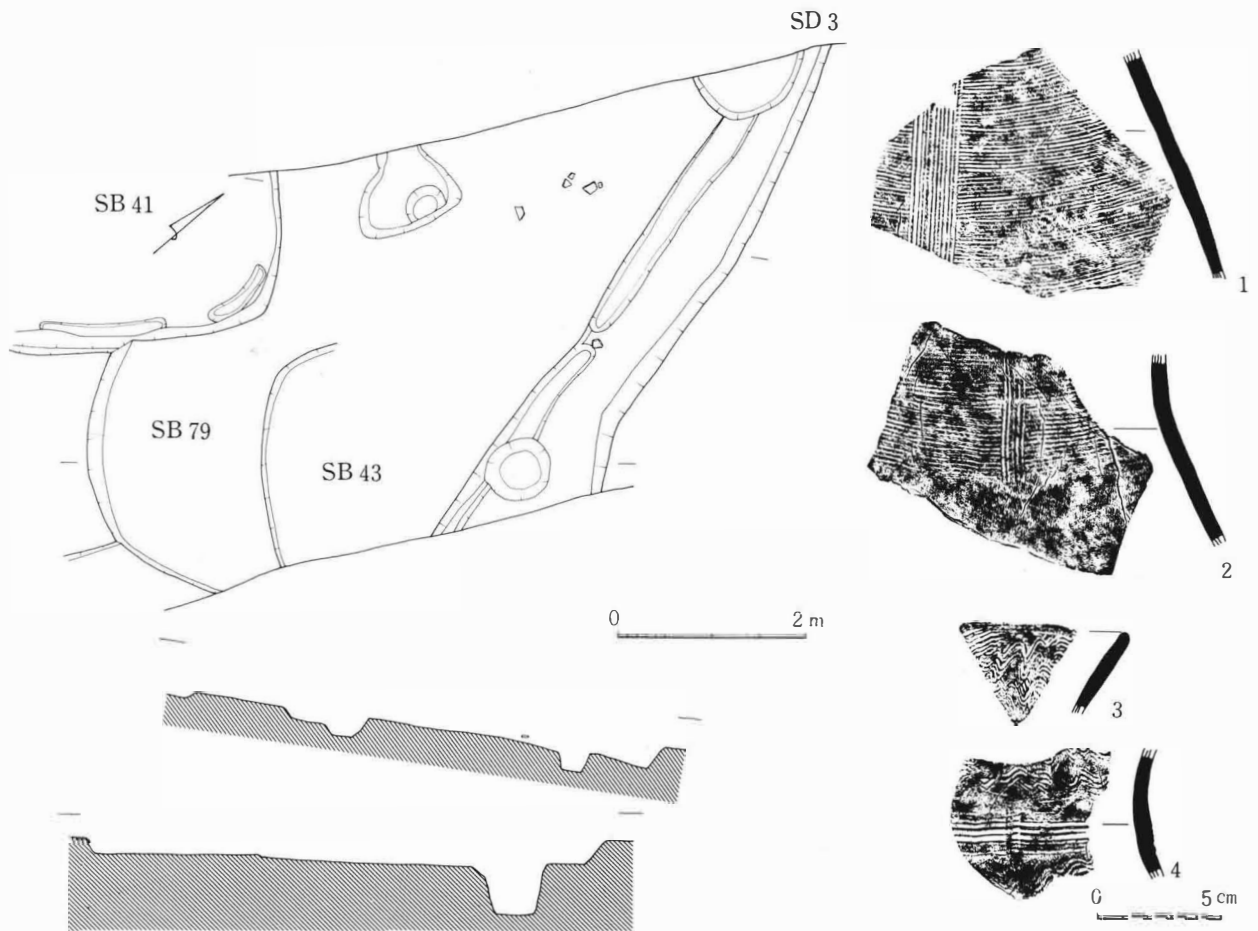


合口壺棺 77号住居址の南壁の一部を掘り込んで、埋設されている。土壌の規模は定かでないが南壁から推定すると長軸80 cm前後の楕円形を呈するものと思われる。主体壺の1が頸部を東に、横むきにねかされた状況で検出された。頸部には、2の壺形土器でふさぎ、体部のおおいは3の大形品体部上半片が使用される。主体壺の底部からライトブルー色のガラス小玉 (III-166-30~38)・鉄石英製管玉 (同-39) と人骨歯3点が出土した。

III-263 77号住居址内合口壺棺

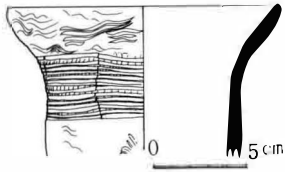


III-264 壺棺出土状態



III-265 79号住居址実測図・出土土器

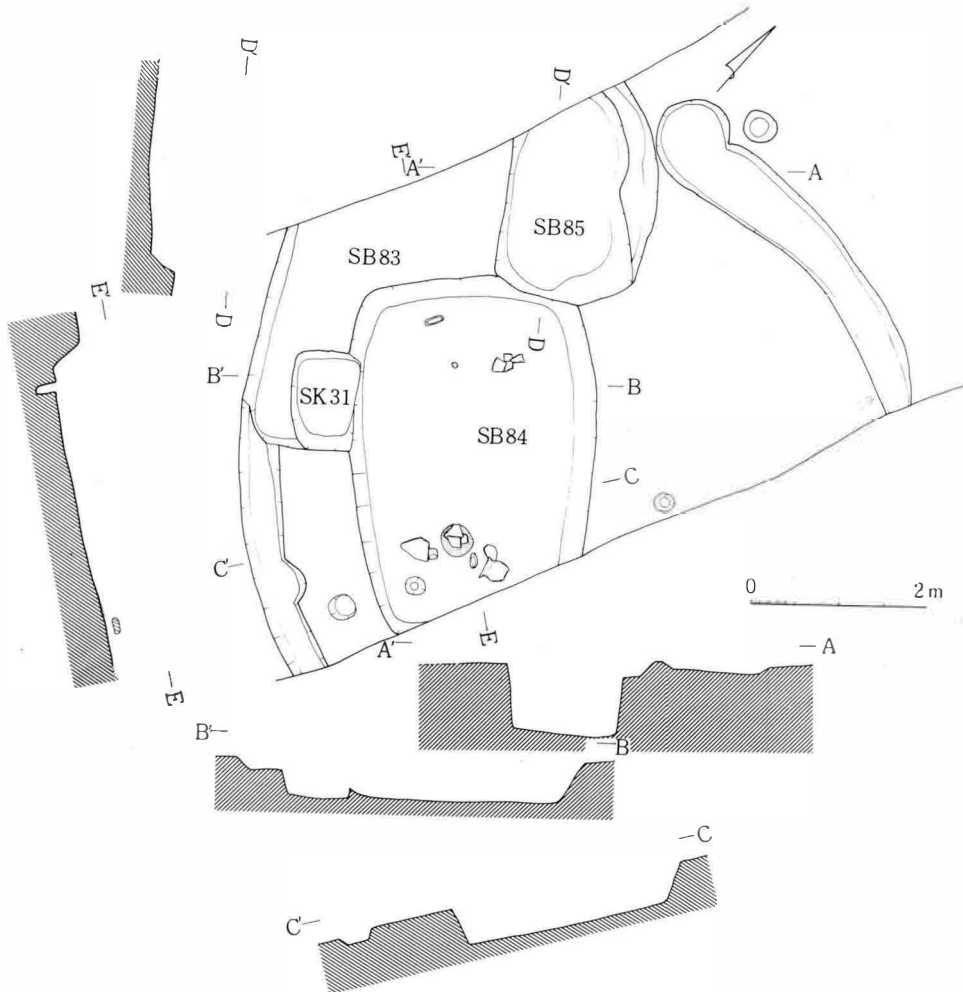
形態は近隣の遺構に切られ不明な点が多いが、隅丸方形を呈する。掘り込みは南壁 29 cm・西壁 33 cm を測る。出土量は少ない。1・2 は壺形土器の頸部付近の破片で、ともに櫛描 T 字文が施文される。3 は甕形土器口縁部片で、波状文が下から上へ 3 段施文される。4 は頸部片で、櫛描簾状文および波状文が描かれる。



II I-266 82号住居址出土土器

82号住居址 (II I-382) 北壁と西壁の一部を検出したにすぎない。形態は隅丸方形を呈し、北壁の深さは16 cmである。床面は平坦で軟弱である。他の施設は不明である。

出土量は少なく、形のわかるものは小形の甕形土器1片にすぎない。口縁部は頸部より緩やかに外反し、端部は内弯して受口気味に立ち上がる。頸部に簾状文を2段施し、口縁部と体部に波状文を施文する。内面は比較的丁寧なヨコヘラミガキ整形がなされる。

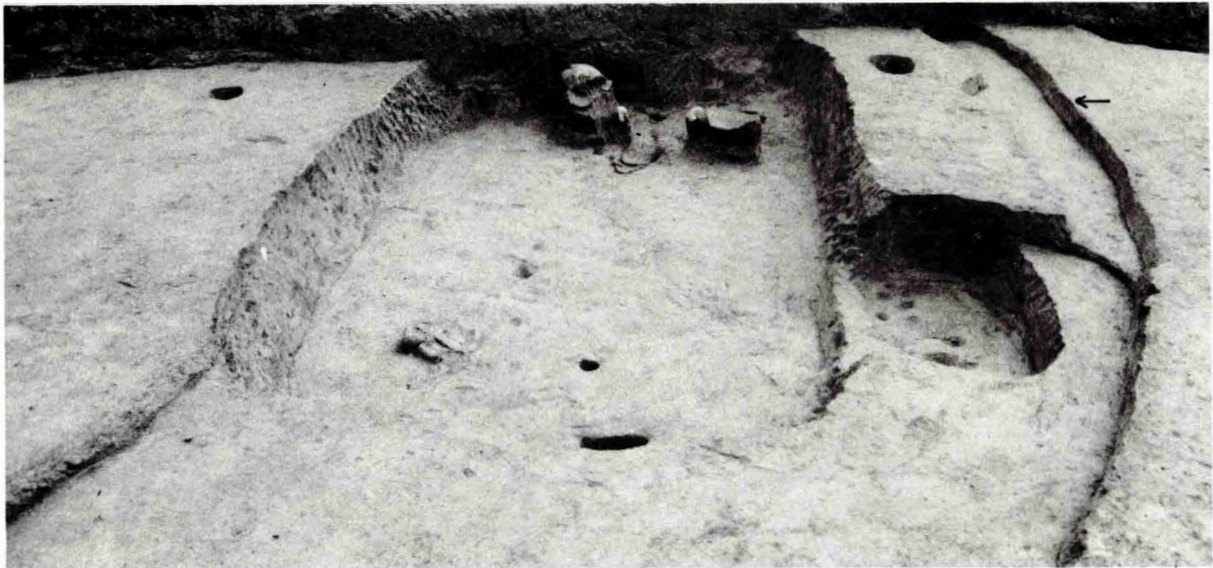


III-267 83号・84号・85号住居址実測図

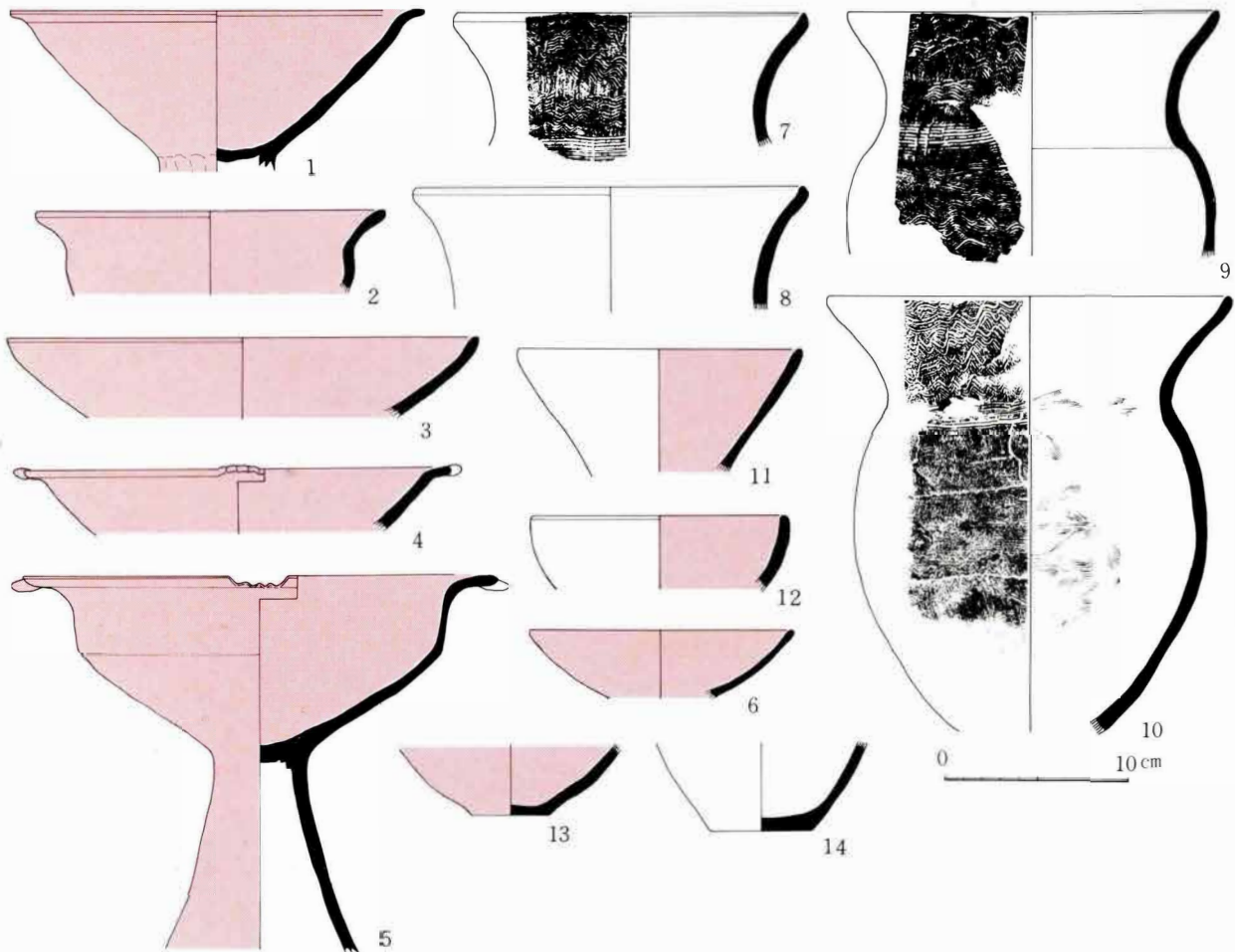
84号住居址 83号住居址下面より検出された住居址で、85号住居址および土壙31により切られている。ちなみに83号は古墳時代後期の、85号の上面から平安時代の土器が出土している。

形態はやや胴張りの隅丸長方形を呈し、長軸方向はN47°Wになる。規模は長軸4.05 m・短軸2.8 mを測る。掘り込みは深く、北壁40 cm・南壁36 cm・東壁41 cm・西壁44 cmになる。柱穴は西壁に沿って2個確認されたが、東壁にはない。炉は中央より南壁によった所に位置し、径30 cm程の地床炉である。この炉内からつぶれた状態で甕形土器が出土し、炉に伴う用途が考えられる。床面は平坦で、住居址中央付近は硬くなる。

85号住居址 この遺構下部から弥生時代の土器が多く出土しており、本来は該期の住居址であったものと考えられる。形態は長方形で、N38°W方向に長軸がある。長軸2.35 m・短軸1.35 mの小形のものであるが、掘り込みは深く、北壁74 cm・東壁68 cm・西壁75 cmを測る。床面は平坦で軟弱である。柱穴・炉等の施設はない。

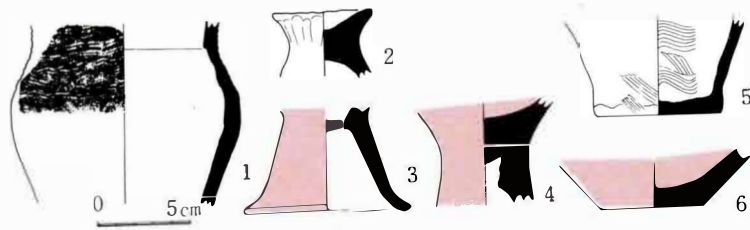


III-268 83号・84号住居址，土壇 31



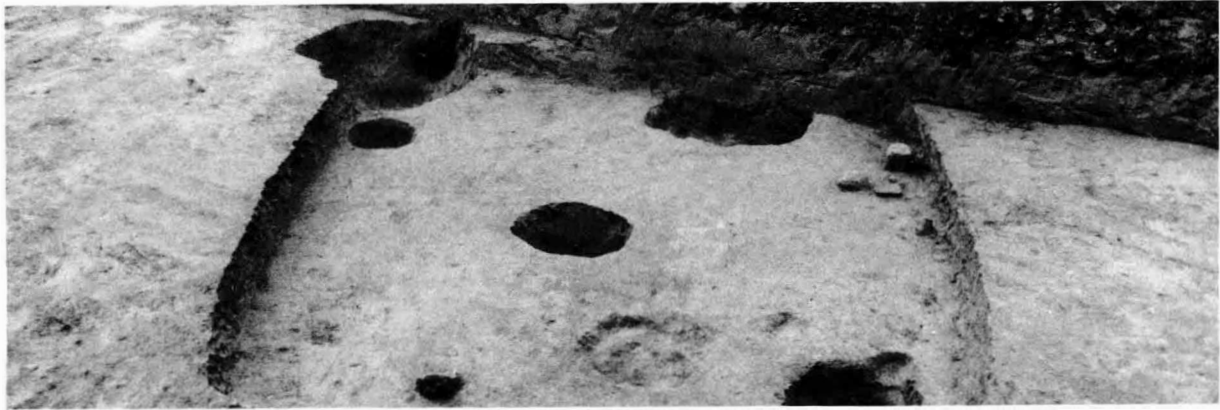
III-269 84号住居址出土土器

甕・高坏・鉢形土器が出土している。7～10は甕である。7・8は口縁端部内面が三角形状に若干突出し、8はナデ整形される。9・10は中形品で、頸部より外反する口縁部が端部で内弯気味に立ち上がる。10の体部は倒卵形を呈する。1～6・11・12は高坏であり、大形品は底部より直線的に外開した坏部が端部で外反する（1・4）、坏中位もしくは上位に曲折を有する（2・5）、皿状の坏部を呈す（3）の3形態がある。小形品には碗形のもの（6・12）と鉢状の（11）が存在するが、11・12は内面だけ赤色塗彩されている点特異である。

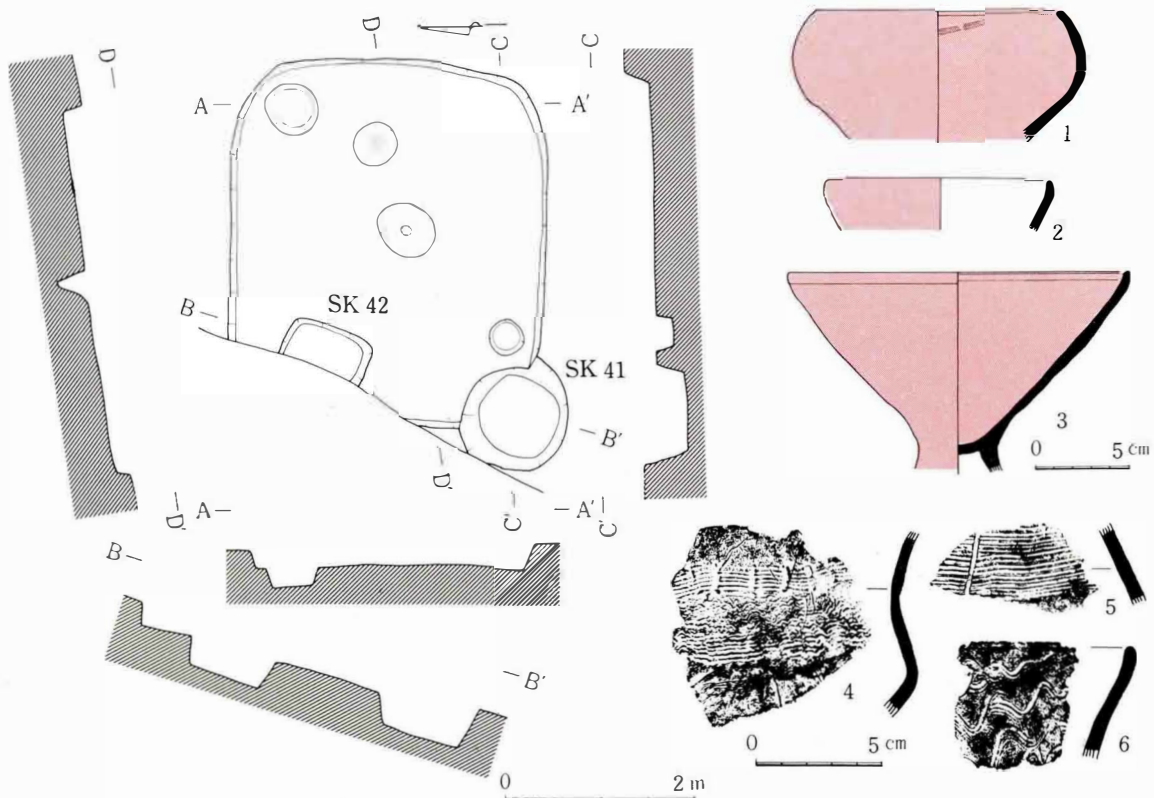


III-270 89号住居址出土土器

出土量は多くない。甕(1)・高坏(3・4)・鉢(6)・蓋形土器(2)が出土している。1の施文は、楡描簾状文と波状文になる。2はつまみ部で上面は凹む。3の裾部は外開する。5は鉢形になるものと思われるが赤色塗彩されず、甕形土器かもしれない。



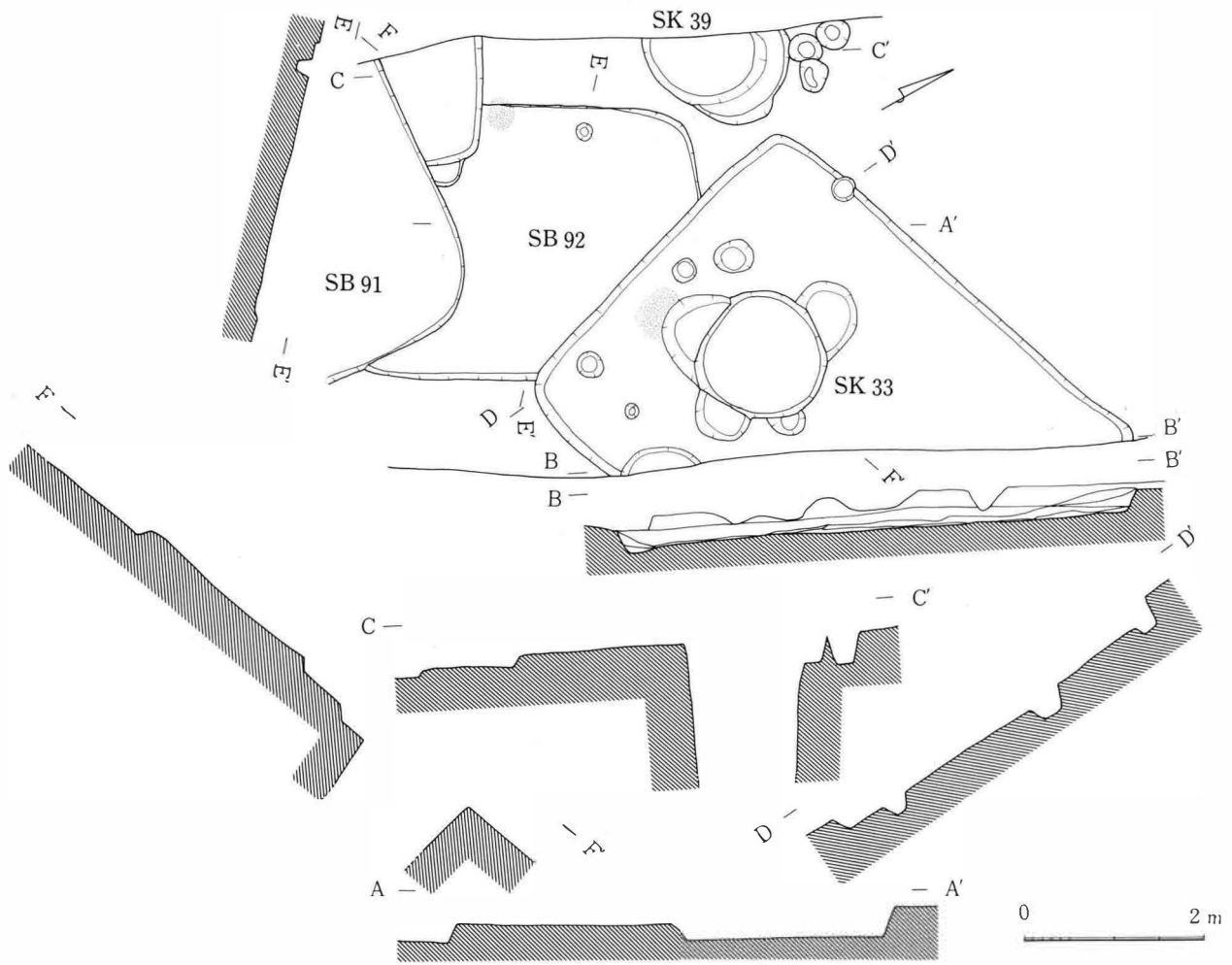
III-271 91号住居址



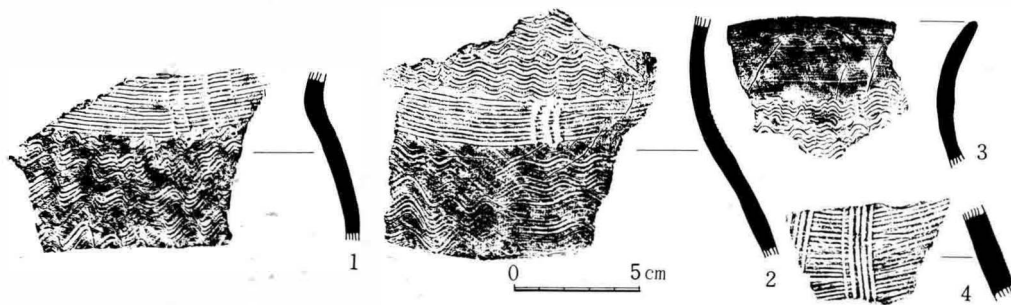
III-272 91号住居址実測図・出土土器

形態は3.35×3.87mの隅丸方形を呈し、主軸はN 89°Eを指す。主柱穴は2個確認され方形配列になると思われる。炉址は東側柱穴間にあり、径約45cmの地床炉である。北壁21cm・南壁26cm・東壁21cm・西壁16cmを測る。

出土土器には、高坏・鉢・壺・甕形土器がある。2・3は高坏坏部とともに底部より直線的に外開し、端部で内弯する形態になる。1は鉢形土器で中位より口縁部が強く内弯する。破片には壺と甕があり、5にはへら切りT字文が、4は楡描簾状文と波状文が施文される。他に土偶(III-166-2)と石鏃(同-19)が出土している。



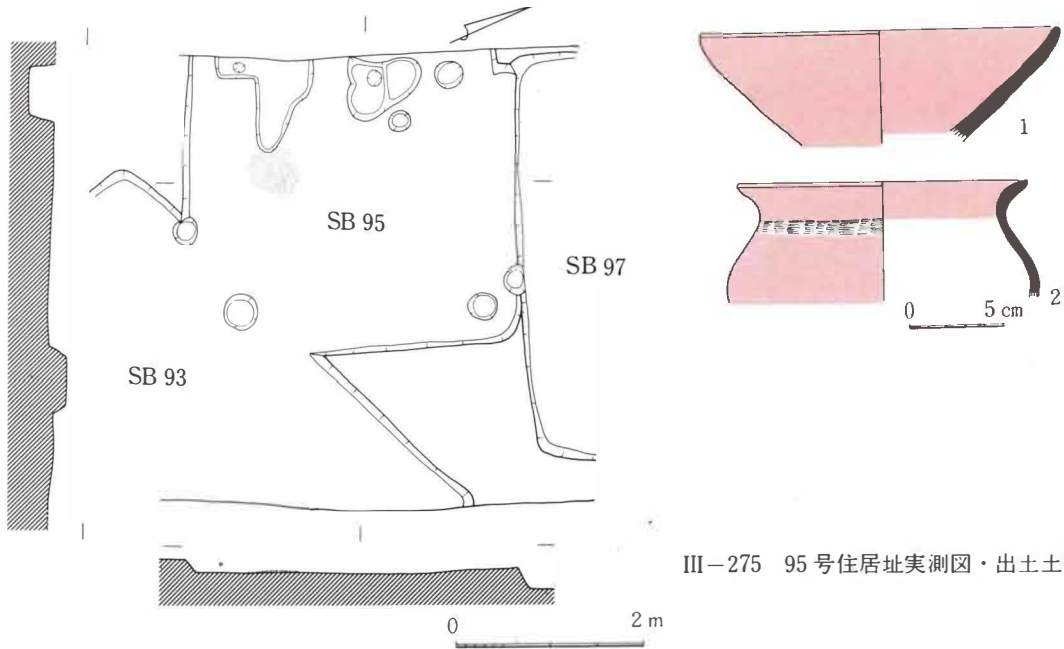
III-273 92号・93号・98号住居址，土壇 33・39 実測図



III-274 93号住居址出土土器

93号住居址 92号・95号住居址と重複関係にあり、最も古い住居址であるが、東側半分が未調査区へ延びるため全容を知り得ない。形態は長方形を呈し、長軸方向はN 21°Eになる。掘り込みは、北壁 27 cm・南壁 17 cm・西壁 15 cmになり、住居址規模は長軸 5.15 m・短軸 4.15 mを測る。床面は平坦で、黄褐色砂質土上に貼床が認められる。支柱穴は4個の方形配列になるものと思われる。西壁より土壇 33の縁付近に焼土痕が確認され、ここに炉があったものと考えられるが、91号住居址と同時期のものであれば、反対側にある可能性が強い。

出土遺物量は多くない。器種に壺・甕・高坏土器があり、凹石（III-170-6）が出土している。4は壺形土器肩部破片であり、楯描T字文が施文されている。1・2は甕形土器頸部付近の破片である。ともに頸部に簾状文を施文した後に波状文が描かれる。1は簾状文が2段施文され、その後上から下へ波状文が施文される。2は頸部簾状文の施文後、口縁部は下から上へ、体部は上から下へ波状文が施される。3は甕の口縁部で、頸部より緩やかに立ち上がり、端部下に無文帯を形成した後上から下へ波状文が描かれる



III-275 95号住居址実測図・出土土器

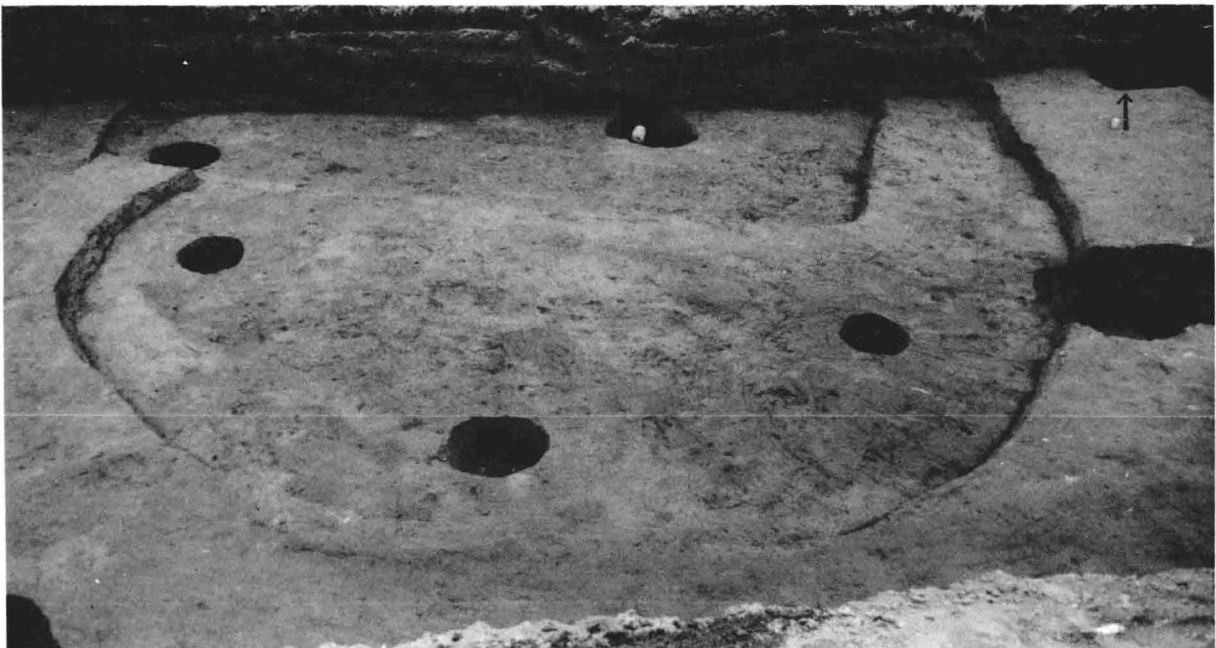
93号・97号住居址に切られ、長軸の規模は不明であるが短軸3.55mの隅丸長方形を呈すると思われる。支柱穴は4個で方形に配列され、炉址は南側柱穴間中央寄りに有り、径55cmの地床炉である。

出土土器には広口壺(2)と高杯(1)がある。2の頸部には楕円状文が施文される。1は鉢形土器の可能性もある。

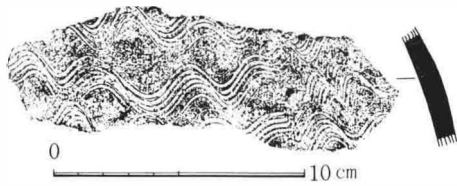


III-276 100号住居址・出土土器

壺・甕形土器の破片が検出された。1は甕肩部、2は甕体部中位の破片であるが、ともに波状文が施文される。3は壺頸部の破片で、内外面とも赤色塗彩されない。



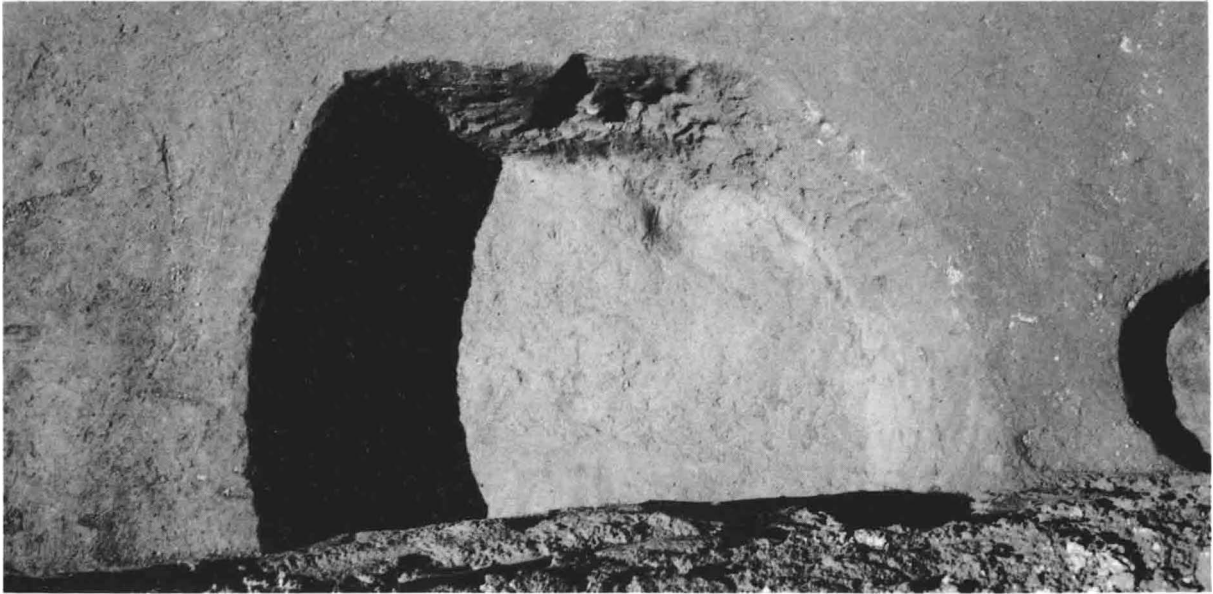
III-277 117号・118号住居址



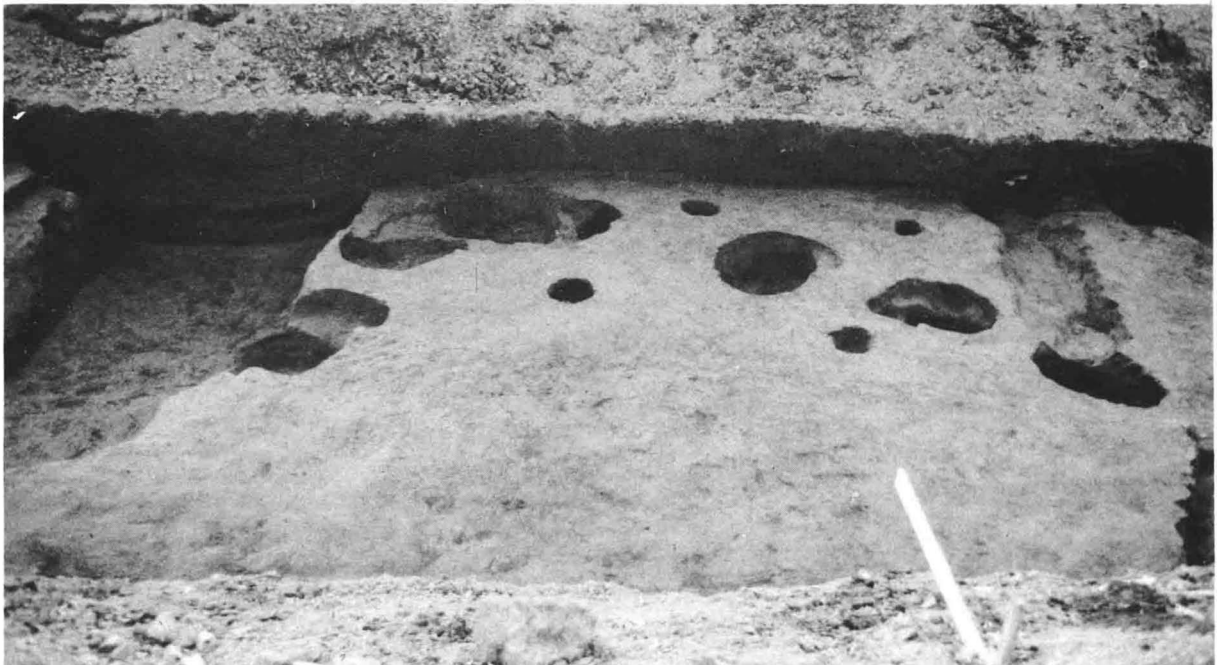
III-278 117号住居址出土土器

117号住居址(III-18) 形態は方形を呈し、南北軸6.15mで、北壁18cm・南壁13cmの深さになる。床面の貼床は数層になる。

出土遺物量は少なく、壺・甕・高坏形土器そして横刃石器(III-168-9・10)が出土しているが、混入品であろう。図示した甕形土器の施文は、上から下へ3段の櫛描波状文である。



III-279 122号住居址



III-280 120号・122号住居址

122号住居址 住居址の西半分以上未調査区にかかり全容は知り得ないが、長方形を呈する形態になると思われる。南北軸はN 28°Eを指し、その規模は8m以上の大形の住居址である。掘り込みは浅く、東壁4cm・北壁23cmを測る。支柱穴の配列は不明であるが、6個方形配列になるものと思われる。炉は中央北寄りにあり、径35cm程の地床炉で、その周辺1.4mの範囲に炭化物が認められた。床面は平坦で貼床になる。